

創立二十周年を迎えて

所 長 齊 藤 幸 一 郎

金沢大学結核研究所創立二十周年を記念するため、去る十一月二日医学部講堂にて記念講演会を催し、更に同月六日には先輩各位をお招きして永年勤続者の表彰式と懇親会を開催いたしました。

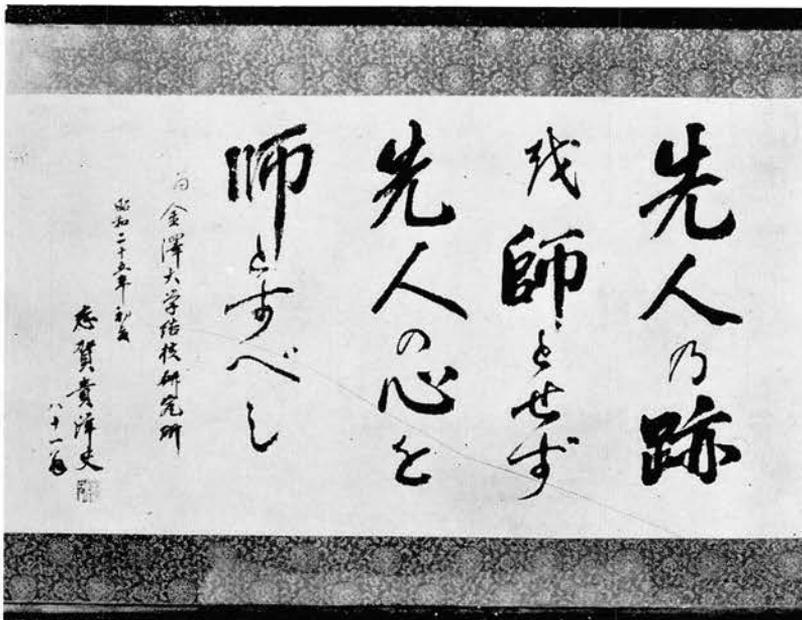
記念講演会では、講師として岡本肇医学部長及び国立遺伝学研究所長木原均博士をお招きすることができましたことは望外の喜びでした。両先生からお話し頂きました永年にわたる御研究の成果は満堂の聴衆に深い感銘を与えたことであります。本誌は特に研究所創立二十周年記念号とし、ここに御講演の要旨を集録して記録に残すと共に、同窓諸賢の御閲覧に供したいと思えます。終りに今回の記念行事のため多大の御援助を頂きました同窓各位に深甚の謝意を表します。



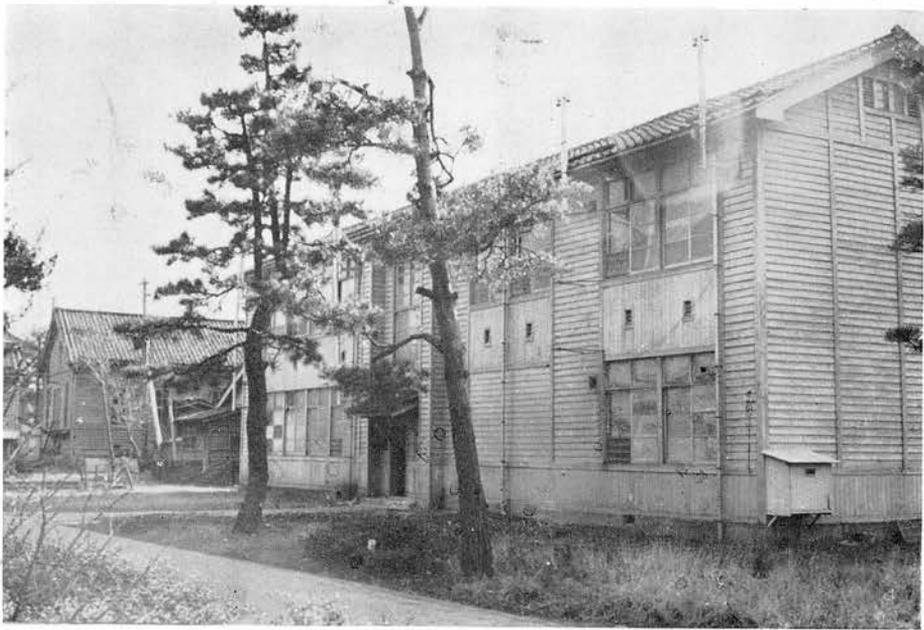
本館玄関



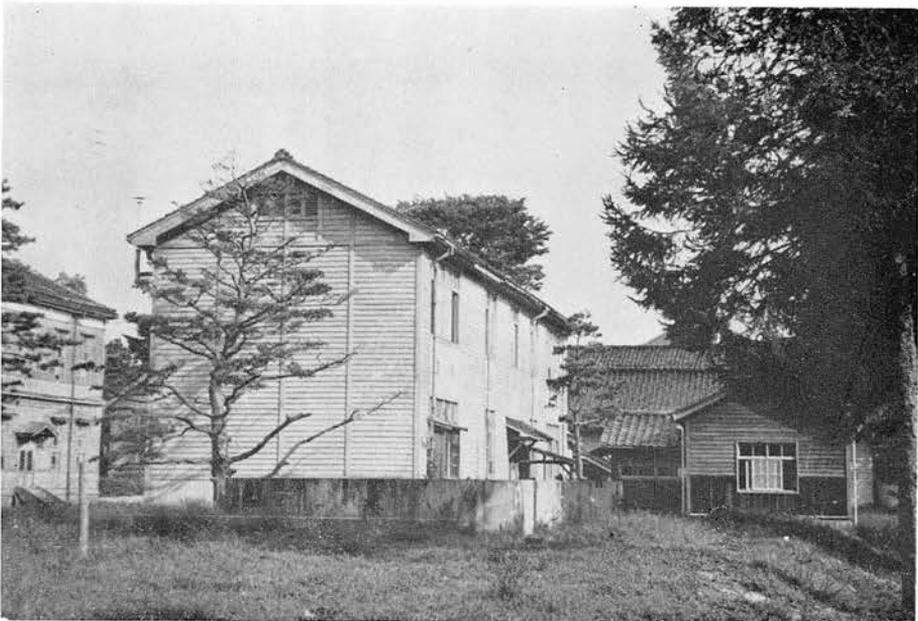
門柱



掲額 (志賀潔博士の書)



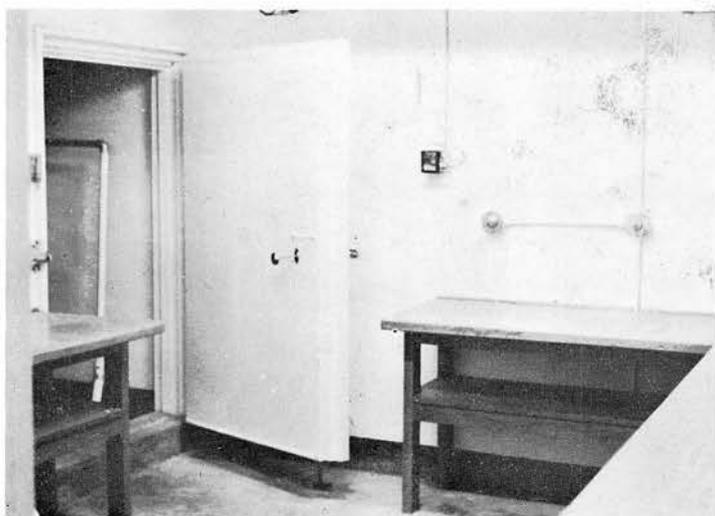
全 景 (前)



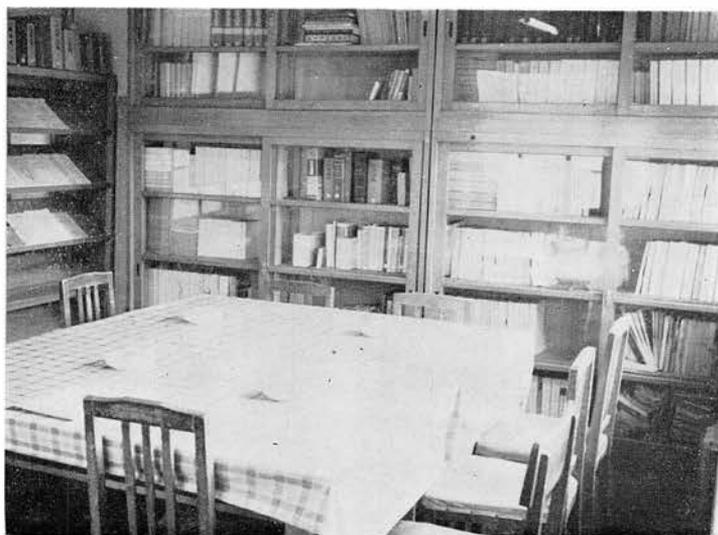
全 景 (後)



動物室



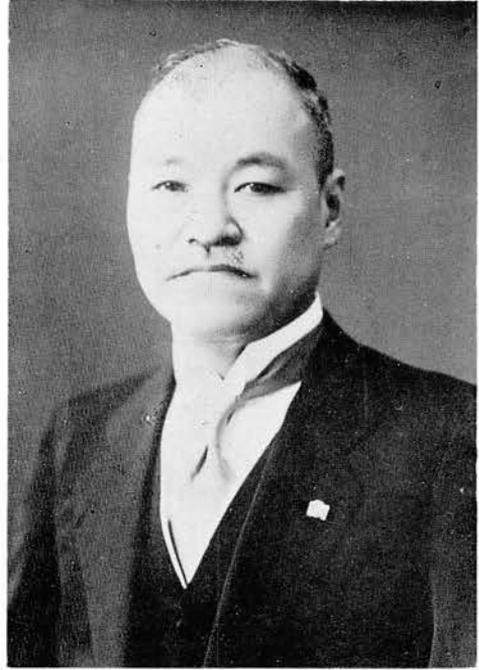
低温実験室



図書室



診 療 部



初代所長 石坂 伸吉



二代所長 岡本 肇



三代所長 柿下正道



現所長 齋藤幸一郎

藥 理 製 劑 部



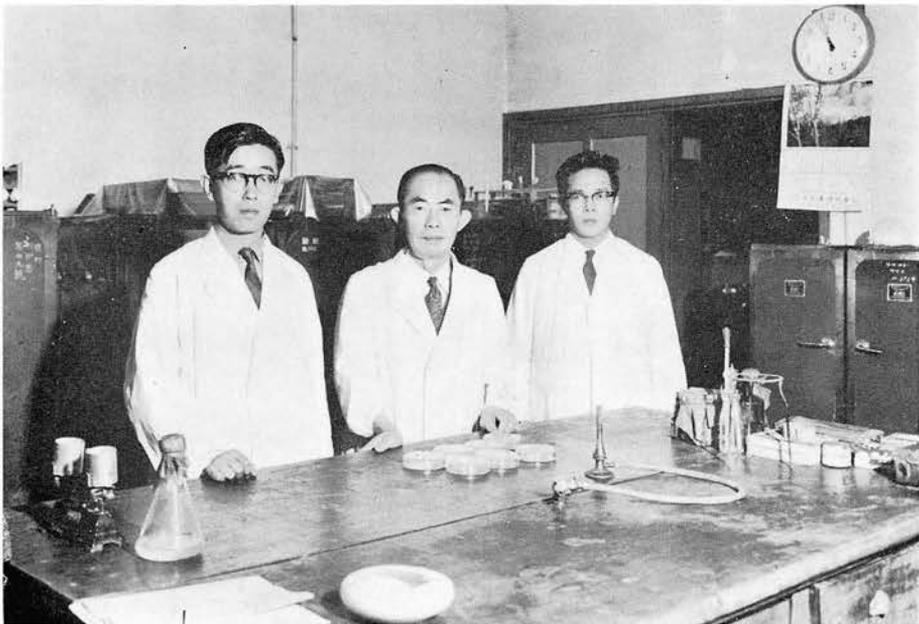
吉村政弘

伊藤亮

秋山万里子

蕪城外枝子

細 菌 免 疫 部

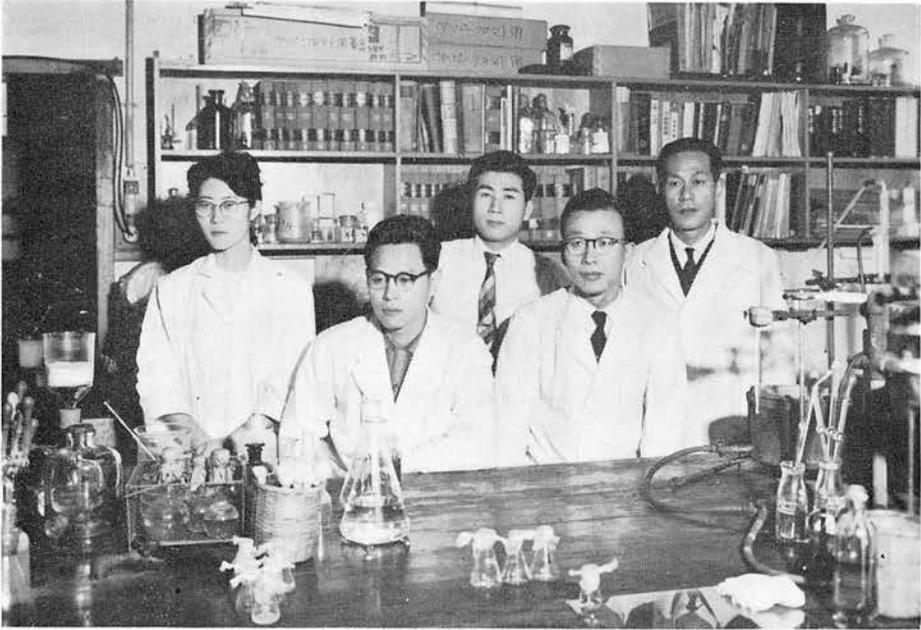


松田知夫

柿下正道

岩倉衛

化 学 部



籠谷山起子

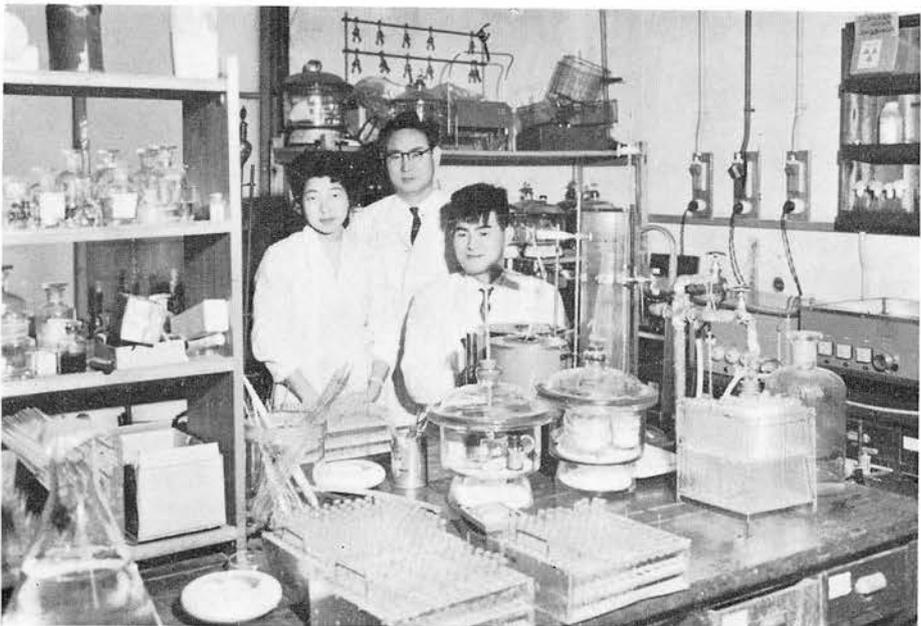
越浦良三

氏家俊光

越村三郎

清水隆作

放 射 線 生 物 部



越沢みち子

西東利男

小西健一

診 療 部



村沢健介，高田英之，高野徹雄，上原時雄，板谷勉（後列）
卜部美代志，出口国夫，村上尚正（前列）



（婦長）
黒田 浜子

（薬局主任）
大滝 武雄

（事務長）
小島木久雄

Ⅰ 沿革と概要

結核研究所設置について当時の理由説明によれば、「独り本邦に於て結核は累年増加の傾向を辿り寔に寒心に堪えざる現状なり、今や結核問題の解決に対して朝野の要望真に切実なるものあるに至れり、殊に北陸地方として金沢医科大学は結核の総合的研究の遂行に最適の条件を具備するに因るが為なり」とあつて、昭和14年度には結核免疫化学療法研究に関する経費を、又昭和15年度においては結核研究施設費を認められるところとなり、ついに昭和17年3月20日勅令第182号をもつ金沢医科大学に結核研究所を付置され、結核の予防および治療に関する学理ならびにその応用についての総合的研究が開始されることとなつた。

ここにおいて先ず研究室及び設備の急設に迫られ、昭和18年10月大学敷地内に現在の結核研究所が新宮建築されたが、時あたかも戦時中のため予算の制約に会い応急的な建築にとどまつた。

以来結核研究の目的達成のため各部門それぞれの分野における専門研究が推進され昭和22年市内泉本町の大学所有の建造物を充用し診療部が設置されるに及び4部門となり、結核に対する基礎的研究と診療部における臨床的究明との連携により一層成果を収め結核の予防及び治療に寄与するところ少なからず、さらに近年、制癌に関する実験的研究にも努力を続けつつ今日に及んでいる。

1. 沿革略

- 昭和16.1.21 金沢大学教授、岡本肇を結核研究施設主任とし教授1名、助教授1名、助手2名をもつて結核の化学療法に関する研究を開始した。
- 17.3.20 勅令第182号をもつて官立医科大学官制の一部を改正し金沢医科大学に結核研究所を付属せしめられた。
教授1名、助教授2名、助手4名、書記2名増員。
当分の内研究所は薬物学教室内に之を設置す。
- 17.4.8 金沢医科大学長兼金沢医科大学教授石坂伸吉を所長（兼）とし研究部門（薬理製剤部、細菌免疫部、化学部）（教授2名、助教授3名、助手6名）をもつて「結核の予防および治療に関する学理並びにその応用研究」を開始した。
- 17.4.17 金沢医科大学教授岡本肇、結核研究所員に補す。
（結核研究所薬理製剤部主任昭.17.5.31）
- 17.5.18 金沢医科大学教授日置陸奥夫、結核研究所員に補す。
（結核研究所細菌免疫部主任昭.17.5.31）
- 17.5.23 事務官 三輪 盛 式、結核研究所事務部主任を命ぜらる。
書 記 村 田 義 親、結核研究所庶務掛長を命ぜらる。
書 記 木 田 俊 夫、結核研究所会計掛長を命ぜらる。
結核研究所処務規程設定。
- 17.8.4 結核研究所を金沢医科大学敷地内に新宮のため地鎮祭が執行された。
- 17.10.14 結核研究所竣工。
- 18.12.15 金沢医科大学結核研究所年報第1輯を編集刊行。
- 19.9.4 午前11時本館電線の漏電により出火、屋根を半焼同12時鎮火す。
- 22.8.1 金沢市泉本町130の12所在大学所有建造物を充用し結核研究所に診療部を設置さる。
従来の3研究部門は4研究部門となり教官定員を教授3名、助教授4名、助手12名に増員。

- 22.10.29 天皇陛下，北陸御巡幸金沢市成巽閣に御仮泊，同夜日置教授は「石川県と結核」及び結核研究所設立の由来について御進講申しあげ本研究所年報を献上した。
- 23.11.3 岡本教授の研究業績に対し金沢市文化賞を贈らる。
- 24.5.31 法律第150号国立学校設置法第4条により金沢大学に結核研究所を設置せられ，文部教官石坂伸吉結核研究所長（兼）に補せらる。
- 27.4.6 「核酸による溶血性連鎖状球菌の溶血毒素増産現象」の発見と研究に対し日本細菌学会より岡本教授に浅川賞を贈らる。
- 29.4.20 石坂所長（兼）退任し金沢大学長戸田正三所長事務取扱となる。
- 29.7.1 医学部教授岡本肇所長（兼）となる。
- 31.5.3 岡本教授の研究業績に対し中日文化賞を贈らる。
- 32.5.14 岡本教授の研究業績に対し学士院賞を贈らる。
- 32.9.1 岡本所長は文部省海外研究員として欧米各国へ出張。（9月5日羽田出発）
- 32.9.1 柿下教授は，岡本所長外国出張のため所長事務代理を命ぜらる。
- 32.11.3 岡本教授の研究業績に対し北国文化賞を贈らる。
- 32.11.16 岡本所長，欧米視察より帰朝。
- 32.11.20 柿下教授は所長帰学により事務代理を免ぜらる。
- 33.7.1 岡本教授の所長退任に伴い柿下教授所長（兼）を併任。
- 35.7.1 柿下所長の任期満了により金沢大学医学部教授齊藤幸一郎所長に併任。
- 36.11.1 金沢大学結核研究所業績集（19巻）を創立20周年記念号として刊行。
- 36.11.2 結核研究所創立20周年記念講演会を開催す。

2. 敷地，建物

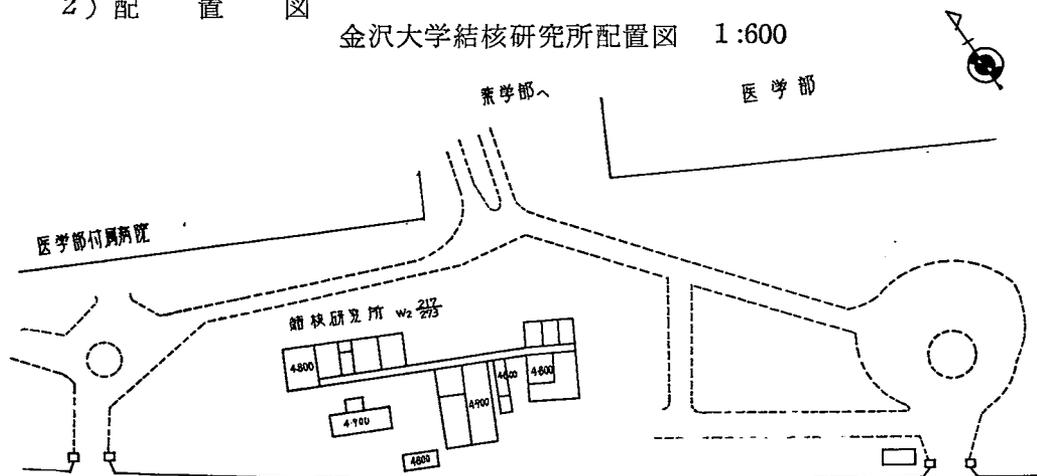
1) 敷地，建物，坪数

建物名称	敷地	建坪	延坪
基礎部門	809坪		273坪
診療部門	1,225坪		400坪
計	2,034坪		673坪

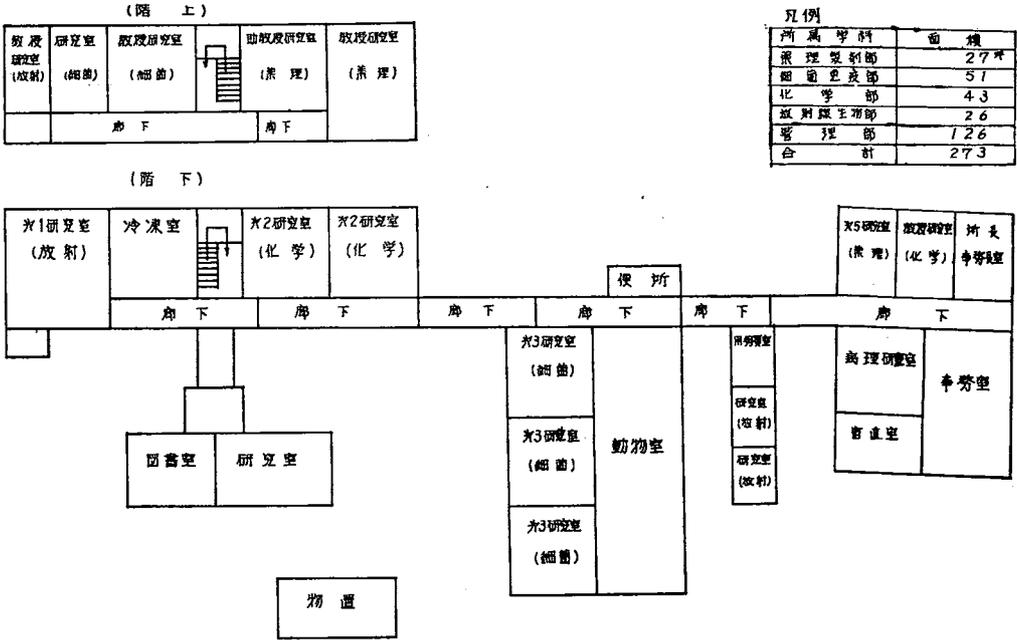
基礎部門は金沢市土取場永町15，診療部は金沢市泉本町×130ノ1に所在している。

2) 配置図

金沢大学結核研究所配置図 1:600

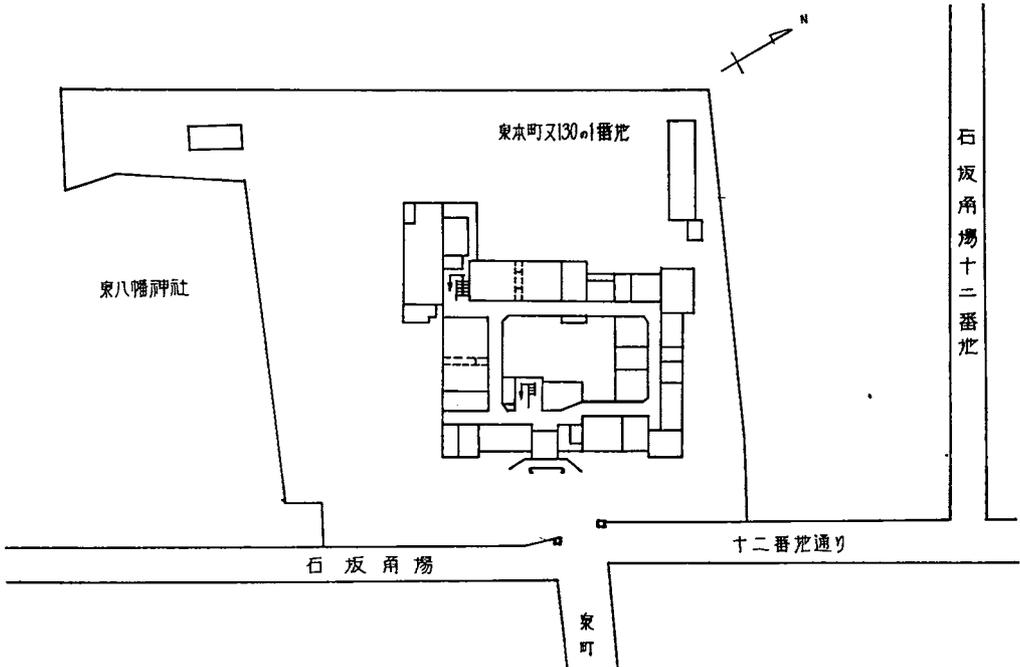


金沢大学結核研究所平面図

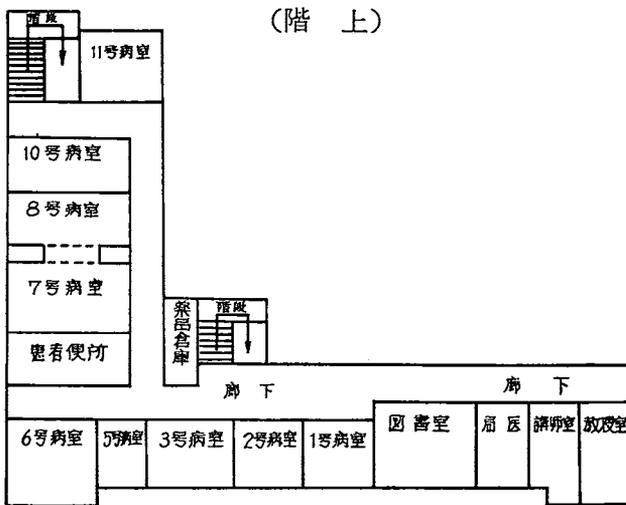
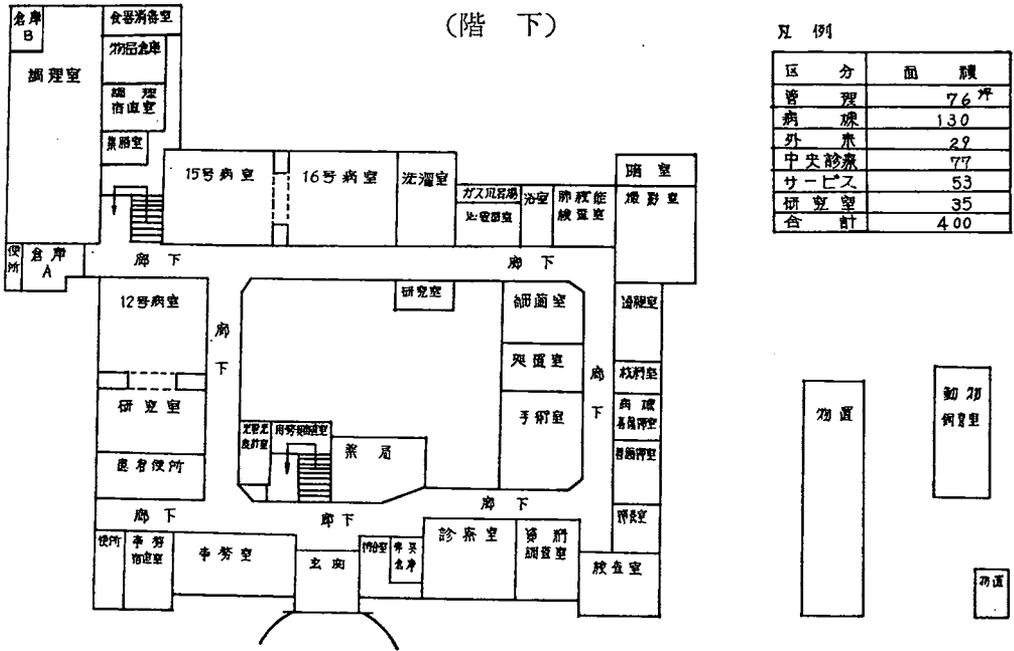


金沢大学結核研究所診療部配置図 1:400

$$W_2 \frac{285}{400}$$



金沢大学結核研究所診療部平面図 1:200



細菌免疫部	教授 医博	柿下正道	助手 医博	松田知夫
	助手	岩倉衛		
化学部	教授 薬博	越村三郎	助教授 薬博	越浦良三
	助手 薬博	清水隆作	助手(借)	氏家俊光
	助手(借)	籠谷由起子		
放射線生物部	教授 医博	西東利男	助手 医博	小西健一
	助手(借)	越沢みち子		
診療部	教授(併) 医博	卜部美代志	助教授 医博	村沢健介
	講師 医博	高野徹雄	助手 医博	高田英之
	助手 医博	出口国夫	助手 医博	村上尚正
	助手	上原時雄	助手	高野利一郎
	薬局主任 医博 技官	大滝武雄	看護婦長 技官	黒田浜子
	主任看護婦 技官	和泉愛子	X線技師 技官	福田英雄
	X線技師 技官	西家倜彬		
事務部	事務長 事務官	小島木久雄	庶務係長事務官	金野直明
	会計係長 事務官	千田統三郎	診療事務係長事務官	荒木謙次郎
病理部	助教授(併) 医博	村沢健介	助手(併)	岩倉衛

3) おもな旧職員, 職, 氏名

所長	教授(併) 医博	石坂伸吉	昭17.4.8—昭29.4.20
	" "	岡本肇	昭29.7.1—昭33.7.1
	" "	柿下正道	昭33.7.1—昭35.7.1
教授(併)	"	日置陸奥夫	昭17.5.18—昭18.3.14
	"	鈴木茂一	昭22.11.30—昭30.2.28
助教授	"	高森正章	昭23.2.3—昭24.8.31
	"	小林喜順	昭25.5.31—昭32.4.30
講師	"	園部昇俊	昭18.5.12—昭23.3.31
	"	松田研齊	昭18.10.5—昭20.2.17
	"	山田澄	昭20.5.22—昭20.12.19
	"	林栄一	昭24.12.31—昭30.3.31
	"	東野音信	昭30.7.16—昭30.9.30
事務長	事務官(併)	三輪盛弼	昭17.5.23—昭24.5.31
		木田俊夫	昭24.8.1—昭27.8.1
		疋田文夫	昭27.9.1—昭34.5.1
		坂田正則	昭34.5.1—昭36.4.1

3. 予 算

1) 初 期 の 予 算

年 度 別	結核研究施設としての予算	結 核 研 究 所 予 算
昭 和 15 年 度	9,879円	—
“ 16 “	18,679円	17,242円
“ 17 “	18,979円	42,187円

2) 昭和35年度歳入歳出決算

区 分	国立学校	付置研究所	付属病院	計
歳 入	円	円	円	円
病 院 収 入	0	0	13,960,772	13,960,772
計	0	0	13,960,772	13,960,772
歳 出				
職 員 俸 給	1,132,368	9,240,951	4,516,065	14,889,384
扶 養 手 当	43,876	350,312	125,981	520,169
暫 定 手 当	47,948	382,952	192,161	623,061
職 員 諸 手 当	51,304	848,530	538,100	1,437,934
職 員 特 別 手 当	299,360	2,487,739	1,232,632	4,019,731
超 過 勤 務 手 当	0	259,997	1,006,000	1,265,997
常 勤 職 員 給 与	0	0	462,600	462,600
退 官 退 職 手 当	857,286	0	0	857,286
諸 謝 金	0	32,000	0	32,000
職 員 旅 費	0	74,000	13,920	87,920
教 育 研 究 旅 費	0	263,000	0	263,000
収 入 督 促 旅 費	0	0	19,600	19,600
校 費	0	12,359,082	2,138,294	14,497,376
医 療 費	0	0	5,515,000	5,515,000
医 療 器 械 整 備 費	0	0	682,000	682,000
学 用 患 者 費	0	0	248,000	248,000
患 者 用 品 費	0	0	23,400	23,400
患 者 食 糧 費	0	0	1,378,000	1,378,000

Ⅲ 主要施設

1. 研究設備

1) 主要器械, 器具および装置

i) 施設

施設名	型あるいは規格
低温実験室	低温室 ($2^{\circ}\pm 2^{\circ}\text{C}$) 11,025m ² 冷凍室 (-10°C) 4,625m ²

ii) 器械

機 械 名	型 あるいは 規格	数 量
光電分光光度計	島津QB-50型付 螢光度, 濁度測定装置	1
低温恒温器	島津特型 $-15^{\circ}\text{C}\sim +20^{\circ}\text{C}$	1
凍結真空乾燥器	徳田製 B.C.L.30型	1
カウンターカレント装置	三田村製作所	1
フラクションコレクター	東洋濾紙 C-1型	2
錠 剤 機	日立SK型	1
分離用超高速遠心器	日立スピコン型	1
高速遠心器	久保田FT-9S4型	3
高 圧 釜	(耐圧300atm) 坂下S型	1
赤外線乾燥器		1
ワールブルグ検圧装置	角型中軸振盪式 島津丸型	2
振盪培養恒温水槽	モノ一式	1
チゼリウス電気泳動装置		2
濾紙電気泳動装置	日立HT-B型	1
付濾紙光電光度計	夏目製作所, 小林式A型	2
ゾーン電気泳動装置	夏目製作所, 小林式III型	1
ディープフリーザー	三菱製 CM080型	4
マイクロマニプレーター	米AO社製 B-O-H型	1
マイクロピロメーター	EKO製	1
単分子膜装置	三興製作所	1
分光光度計	エルマ4型	1
"	島津R50型	1
炎光光度計	島 津	1
光電比色計	クレット	1

コロニーカウンター	エルマ	1
r-線スペクトロメーター 付2xコンバーター	神戸工業 RSP-101型	1式
プルフリツヒ蛋白計	エルマ	2
ヘマトクリット遠心器	サクマ130型	1
電動式キモグラフィオン	エルマ	1
pHメーター (硝子電極)	東亜電波工業 HM3型	1
"	" HM5型	1
"	ベックマン G-S型	1
"	新興通信工業 DR-7型	1
"	ベックマン N ₂ 型	1
"	島津	1
直示天秤	メトラー B6型	1
化学天秤	サートリウス社	1
"	島津	2
"	赤堀	2
"	安並化学	1
トーションバランス	守谷 秤量100mg	1
"	" 秤量500mg	1
"	島津 秤量1,000mg	2
マイクローム(氷結)	テトランドル型	1
" (滑走)	エルマ	1
" (")	ユング式	1
ウルトラマイクローム	日本マイクロームRU3型	1
双眼顕微鏡	千代田光学 L型	2
螢光顕微鏡	千代田光学	1
位相差顕微鏡	千代田光学 II型	2
顕微鏡写真撮影装置	日本光学 FMB型	1
"	キャノン CM型	2
同用露出計	エタロン PE-1型	1
"	三啓社 SEP2型	1
カメラ	ニコンS4 F:2	1
"	キャノンII D F:1.8	1
"	キャノンII D F:3.5	1
複写装置	ライカ用	2
微量融点測定装置	三田村 電気式B型	1
アミノ酸窒素分析装置	三田村製作所	1
ヴァンスライク瓦斯分析装置		1
分子量氷結点測定器		1
ハロゲン定量装置		1
英文タイプライター		6
文献複写器		2

2) 図 書 ・ 雑 誌

図 書 室 の 現 状

図書の閲覧は、開架方式によつている。席数10席、総蔵書数は、和書1,335冊、洋書419冊である、外国学術雑誌は、本学附属図書館医学部分館の中央図書館制度によつて、整備購入している。すなわち継続購入の外国雑誌及び定期刊行本は、計52種、国内学術雑誌は424種に及んでいる。なお外国雑誌の所蔵内容は次の通りである。

外 国 雑 誌 目 録

凡 例

- 1 この目録は金沢大学結核研究所図書室において、1961年11月現在所蔵する外国出版雑誌、定期刊行本の所蔵目録である。
- 2 配 列 :
雑誌、及び定期刊行本名はアルファベット順に配列した。
(冠詞、前置詞及び接続詞は慣用に従つて配列上は省略したものもある)
- 3 記載事項 :
雑誌名の後に、巻、年を記し、その後の一の記号のついているものは、現在継続購入中のものを示す。
; [] 中の数字は欠号を表わす。

主要購入外国雑誌名

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. "ACTA" Unio Internationalis Contra Cancrum.
Vol. 15(1959)- 2. Acta Tuberculosa Scandinavica.
Vol. 29(1953)-
Supplementum, Vol. 33-50 3. Advances in Cancer Research.
Vol. 1(1953)- 4. Advances in Clinical Chemistry.
Vol. 2(1958)- 5. Advances in Enzymology and Related Subjects
of Biochemistry.
Vol. 11(1951)- 6. Advances in Protein Chemistry.
Vol. 6(1951)- 7. The American Review of Tuberculosis and
Pulmonary Diseases.
Vol. 77(1958)-Vol. 79(1959)
The American Review of Respiratory Diseases.
Vol. 80(1959)- 8. Annales de L'institut Pasteur.
Tom. 86(1954)- 9. Annual Review of Pharmacology.
Vol. 1(1961)- 10. Antibiotics & Chemotherapy.
Vol. 4(1954)- 11. Beiträge zur Klinik der Tuberculose.
Bd. 105(1951)- 12. Biochemical Pharmacology.
Vol. 1(1958)- 13. Biochimica et Biophysica Acta.
Vol. 37(1960)- | <ol style="list-style-type: none"> 14. Biochimica et Biophysica Acta Previews.
Vol. 1(1961)- 15. Biophysical Journal.
Vol. 1(1961)- 16. British Journal of Cancer.
Vol. 9(1959)- ;[9-3] 17. British Journal of Tuberculosis and Disease
of the Chest.
Vol. 47(1953)-Vol. 52(1958)
British Journal of Diseases of the Chest.
Vol. 53(1959)- 18. British Journal of Experimental Pathology.
Vol. 36(1955)- 19. British Journal of Haematology.
Vol. 3(1957)- 20. British Journal of Pharmacology and
Chemotherapy.
Vol. 13(1958)- 21. Cancer Current Literature Index.
Vol. 1(1959)- 22. Chemical Reviews.
Vol. 57(1957)- 23. Chemotherapia.
Vol. 1(1960)- 24. Diseases of the Chest.
Vol. 25(1954)- 25. Excerpta Medica Section 15: Tuberculosis
and Pulmonary Diseases.
Vol. 8(1955)
Excerpta Medica Section 15: Chest Diseases.
Vol. 9(1956)- 26. Fortschritte der Arzneimittelforschung.
Vol. 1(1959)- |
|---|---|

27. Fortschritte der Tuberkuloseforschung und
Behandlung.
Vol. 1(1948)-7(1956)
28. Immunology.
Vol. 1(1958)—
29. International Journal of Radiation Biology.
Vol. 2(1960)—
30. International Review of Cytology.
Vol. 1(1952)—
31. Journal of the Immunology.
Vol. 70(1953)—
32. Journal of Molecular Biology.
Vol. 1(1959)—
33. Journal of the Chemical Society.
1955—
34. Journal of the National Cancer Institute.
Vol. 25(1959)—
35. Journal of Thoracic Surgery.
Vol. 25(1953)- ;[25-6,28-3,32-5,]
Journal of Thoracic and Cardiovascular
Surgery.
Vol. 38(1959)—
36. Justus Liebig's Annalen der Chemie.
Bd. 579(1953)—
37. Medicina Experimentalis.
Vol. 4(1961)—
38. Monatsschrift für Tuberkulosekämpfung.
Jg. 1(1958)—
39. Proceedings of the Chemical Society.
1957—
40. Proceedings of the Royal Society of London.
Series B: Biological Sciences.
Vol. 150(1959)—
41. Progress in Biophysics and Biophysical
Chemistry.
Vol. 6(1956)—
42. Progress in Experimental Tumor Research.
Vol. 1(1960)—
43. Progress in Hematolog.
Vol. 1(1959)—
44. Progress in Medicinal Chemistry.
Vol. 1(1960)—
45. Radiation Research.
Vol. 12(1960)—
46. Revue D'immnologie et de Therapie
Antimictobiemme.
Tom. 21(1957)—
47. Revue de Tuberculose.
Tom. 20(1956)—
48. Schweizerische Zeitschrift für Tuberkulose
und Pneumologie.
Vol. 13(1956)- ;[13-,2]
49. Thoraxchirurgie.
Bd. 1(1953)—
50. Thorax.
Vol. 9(1954)—
51. Toxicology and Applied Pharmacology.
Vol. 2(1960)—
52. Der Tuberkuloseärztl.
Jg. 8(1954)—
53. The Viruses.
Vol. 1(1959)—
54. Vitamins and Hormones.
Vol. 12(1954)—
55. Zeitschrift für Tuberkulose.
Bd. 102(1953)— ;[106-4,108-2,]
56. Zentralblatt für die Gesamte
Tuberkuloseforschung.
Bd.57(1951)—

主要外国交換雜誌名

- Annals of the New York Academy of Sciences.
Vol. 71(1957)-93(1961)
- Archives Roumaines de Pathologie
Expérimentale et de Microbiologie.
Tom. 19(1960)
- Bulletins et Memoires de L'ecole Nationale
de Medecine et de Pharmacie de Dakar.
Tom. 3(1955)-7(1959)
- Canadian Journal of Biochemistry and
Physiology.
Vol. 39(1961)
- Chinese Medical Journal.
Vol. 78(1959)-80(1960)
- CoBRTCKA ME HA.
1958-1961
- Proceedings of the Tuberculosis Research
Council.
No. 44(1957)-45(1958)
- Sea View Hospital Bulletin.
Vol. 13(1952)-18(1960)
- Transactions of the New York Academy of
Sciences.
Vol. 22(1960)-23(1961)
- Yonsei Medical Journal.
Vol. (1960)

2. 診 療 設 備

1) 主要器械および装置

機 械 名	型 あるいは 規 格	数 量
X 線 発 生 装 置		
断層撮影用	島津 HNP-49B型	1
透視用	島津 桂	1
撮影用	島津 山城	1
携帯用	島津 愛国	1
閉鎖循環麻酔器		
付ツーンアンドフロー	泉工社	1
電気手術器	ミズホ医科工業	1
エレクトロカルヂオグラフ	福田エレクトロユニヴァーサル	1
間歇的陽陰圧呼吸器	建部青州堂	1
カイネタイザー	ミナト医科工業 H型	1
電気吸入器	ミズホ医科工業	1
体腔内カメラ装置	町田製作所	1
電気吸引器	建部青州堂	2
気管支鏡	滝本製作所	1
肺切除器械(卜部式)	建部青州堂	1
" " (東療式)	杉山商店	1
低圧持続吸引器	建部青州堂	5
両肺機能測定装置(無水式)	フクダ医理化研究所	1
レスピロメーター		
(Benedict型)	建部青州堂	1
窒素瓦斯分析装置		
付素子記録装置	Water Corporation	1
ガス流量計	品川製作所	1
残気量測定装置	建部青州堂	1
ショーランダー瓦斯分析装置	糸永商店	1
ヴァンスライク瓦斯分析装置	"	1
自動現像タンク	精光舎	1

2) 診 療 実 績

年 度	入 院 別 外 来 の 院 別	延患者数	稼 働 率	収 入 額	備 考
33 年 度	入 院 外 来	13,787人 3,392	89.93%	11,231,481円 1,309,342	} 患者数は厚生省令による。
34 年 度	入 院 外 来	14,245 3,206	92.93	11,259,871 1,256,260	
35 年 度	入 院 外 来	13,998 2,980	91.31	12,744,872 1,215,900	

IV 研究活動の概観

1. 研究概況

部門別主任者

部門別	開設年	主任氏名
薬理製剤部	昭和 17 年	岡本 肇 — 伊藤 亮
細菌免疫部	昭和 17 年	日置 陸奥夫 — 柿下 正道
化学部	昭和 17 年	伊藤 亮 — 越村 三郎
診療部	昭和 22 年	鈴木 茂一 — 卜部 美代志(併)
病理部	昭和 30 年	村沢 健介(併)
放射線生物部	昭和 34 年	西東 利男

1) 薬理製剤部

主任 岡本 肇 教授 (1942—1954)

I. 結核化学療法の基礎的研究 (化学部との協同研究)

1942年岡本、松田によつて *o*-aminophenol が結核菌に対し卓絶した特異的侵襲性を有する物質であるという先人未踏の知見が開発された。この事象の発見によつて *o*-aminophenol が結核化学療法の研究における基礎的物質としてきわめて重視すべきものであるとされ、ここに *o*-aminophenol を中心とする研究は広範かつ精細に展開されるに至つたのである。そして *o*-aminophenol の薬理、生物学的性状に関しては、

1. *o*-aminophenol は結核菌に対し強大な選択的抗菌力を示し、しかも温血動物に対しては毒性至微の物質であること、
2. 実験的結核モルモットにおいて *o*-aminophenol の投与によつて病変進行に対する抑圧的效果を期待しうること、
3. 動物に *o*-aminophenol を投与後一定時間その血液が著明なる結核菌発育阻止力を保有していること、
4. *o*-aminophenol はかなり強い解熱作用をも兼備していることなどをはじめとし、幾多の知見が開発された。他方、*o*-aminophenol 系諸種誘導体 800余種について行われた抗菌力如何に関する系統的検索では、
 1. 水酸基 (-OH) とアミノ基 (-NH₂) とが互いに *ortho* 位に共存することが、*o*-aminophenol の特異的抗結核菌性効果の発現に必須不可欠の条件であること、
 2. *o*-aminophenol においては、その水酸基およびアミノ基、あるいはベンゼン核に新たに他の原子または原子団を導入する時はかえつて効力の減退をきたすこと、
 3. *o*-aminophenol の呈する著明な抗菌性効果は、本物質自体の直接的影響によるとするよりもむしろ二次的に生成する酸化成績体 3-aminophenoxazone などに基因するものと思われることなどというような重要結論が得られたのである。

この間、*o*-aminophenol ならびに phenoxazone 誘導体については Erlenmyer, Croshaw,

Crossley, Boothroyd らの欧米研究者によつて更に考査, 追証され, 興味ある知見が得られている。

なお o-aminophenol を基体とした製剤“303”およびOM錠が幾多の工夫改良を経て創製され, これら製剤をもつての臨床的効用に関しては当所診療部および細菌免疫部ならびに 諸他の公共病院において種々検討が加えられてきた。(細菌免疫部・診療部の項参照)。

II. o-Aminophenol azo-protein (azo-tuberculinを含む)

に関する研究(化学部との共同研究)

1942年以来当研究所において遂行されている o-aminophenol を中心とする結核化学療法の研究の一環をなすものとして, 1946年企図された o-aminophenol azo-protein 誘導体を指向した研究部面で, たまたま

1. 精製ツベルクリン (Maschmann) に対し o-aminophenol をカップリングせしめると結核モルモットに対する毒性が軽微で, しかも強い皮膚反応惹起力を有する o-aminophenol azo-tuberculin (OA-Azo-T) が得られ, また
2. 精製ツベルクリンはもとよりすべて蛋白質物質はその種類の如何にかかわらず, o-aminophenol をカップリングせしめたものは強い溶血性を獲得するに至っているという二つの重要観察がもたらされた。

azo-蛋白に関してはすでに Landsteiner 一派の特異的免疫性に関する研究業績があり, その後においても azo-蛋白に関する幾多の研究が行われているものの, これらの研究は azo-蛋白とこの抗血清との間における特異的免疫反応関係のみが追究され, azo-蛋白自体の薬理学的性状(すなわち溶血性, ツベルクリン皮膚反応性)に関しては何ら攻究されていない。しかも溶血性の発現は蛋白体に o-aminophenol をアゾ結合せしめた場合のみ見られることなどから, ここにまず o-aminophenol azo-protein の azo 化の程度と溶血性獲得度との関係に対する解析的研究が行われたのである。その結果, 蛋白質が o-aminophenol によるカップリングで獲得する溶血性は疑もなく azo-protein それ自体によるものであること, そして獲得する溶血性の程度は azo 化の程度と共に上昇し, ついに最高点に達するということが実証された。このことは少なくとも

- 1) 溶血性獲得の程度はアゾ化の程度の指標となりうること,
- 2) 同一蛋白質に対し, 同一程度にアゾ化された azo-protein を調製するには, 溶血性獲得の最高点を指標とすることが合理的であること,
- 3) このことは蛋白質分子における微細構造の攻究ならびに 免疫学的研究分野にも 利用し得べきこと,

の三つを教示するところがあると思われる。そして実際, 結核菌の Sauton 培養濾液中のツベルクリン活性因子を azo 誘導体の形として分離する実験で, この“蛋白質の o-aminophenol をもつてするアゾ化による溶血性獲得の最高点の理論”を適用し, たとい lot が 異つても N 含量ならびに「ツベルクリン」皮膚反応惹起力において常に一定した OA-Azo-T 標本 (OA-Azo-T 0.1~0.05 γ =P. P.D. “Seibert” 0.1~0.05 γ =OT 1/2,000, 0.1ml) が収得されている。

主任 伊藤 亮 教授 (1954—現在)

I. Citrate-Tuberculin に関する研究

1953年伊藤によつて, 洗浄結核菌体を 0.1M クエン酸溶液に浸漬・孵置すると, 大量のツベルクリン活性物質がすみやかに産出されるという新しい現象が発見された。以来このいわゆる Citrate-

Tuberculin (CIT) を中心とした研究において、今日までに収めた主要成果は次の如くである。

- 1) 伊藤らは、結核菌の CIT 産出に及ぼす諸種薬物の影響について検索し、抗結核剤による前処置が結核菌の CIT 産出に無影響性であることを明かにした。
- 2) 今城・清水らは薬剤耐性結核菌の CIT 産出についての検索で、Streptomycin 耐性の一菌株において CIT 産生能の低下を認めた。
- 3) 藤原は、CIT を原料として精製ツベルクリン分離法を確立した。
- 4) 石田・加藤・浦上らによつて行われた精製ツベルクリンの理化学的性状に関する一連の研究において、ツベルクリンがハロゲン（沃素及び臭素）によつて容易に不活性化されるという興味ある現象が見出された。

Citrate-Tuberculin に関するこれらの成果は、結核菌の陳旧培養液や破砕菌体抽出物等の如ききわめて複雑な組成をもつた材料を原料として行われてきた従来のツベルクリン研究に対し、新生面を開いたものとして内外研究者からも注目されており、なかんずく1959年仏国の Paraf, Desbordes, Fournier, Blomet らによつて伊藤らの研究は全面的に追試承認され、この研究の意義の重要性が認められるに至つた。

II. 亜硝酸殺菌結核ワクチンに関する研究

1956年吉村によつて、強毒ヒト型結核菌をきわめて穏和な条件で亜硝酸で処置すると、結核菌はすみやかに死滅すること、而もここに得られた亜硝酸殺菌結核菌がモルモットに対して、BCG 生菌ワクチンより遙かに優れた感染防禦附与能を発揮することが実証された。この実証は、結核菌の死菌ワクチン実用化の問題が再認識されつつある現状から見てはなほ注目すべきものであつて、亜硝酸処理結核ワクチンの実用化を目指して吉村・向坂らによつてその免疫学性状について更に精細な研究が続けられている。

III. 結核に関するその他の研究

(1) 1956年木越は、結核感染モルモットにツベルクリンを注射してツベルクリン・シヨックによる致死反応を惹起せしめた場合、動物の血糖量が症状の増悪と共に著明に低下することを発見し、これをツベルクリン低血糖症 (Tuberculin hypoglycemia) と称した。この現象は、従来全く不明であつたツベルクリン反応動物の病態生理学的研究分野に一燈を点じたものとして今後の発展が期待される。

(2) 野田は o-Aminophenol の抗結核菌作用を酵素学的方面より探究して、ついに o-Aminophenol の抗カタラーゼ作用を実証するに至つた。また船崎は、最近特に注目を集めているいわゆる着色抗酸性菌に対する o-Aminophenol 系誘導体の抗菌作用を精査して興味ある成績を得た。

IV. Streptolysin S 溶血に関する研究

溶連菌の Streptolysin S (St-S) 生成に対する核酸効果に関する岡本研究室の輝かしい研究業績はすでに周知のことである。伊藤らは、St-S の溶血作用を中心として、ここ数年来研究を行つて来ているのであるが、現在までに次の2つの新事実を発見するに至つている。

(1) 赤血球の St-S 感受性に及ぼすタンニン酸の影響

1958年伊藤・松田によつて、或る種の動物の赤血球を、きわめて穏和な条件でタンニン酸で処置すると、赤血球は St-S 溶血に対し高度の抵抗性を示すに至る、という興味ある実証が行われた。続いて青木は、タンニン酸処置赤血球を蛋白質（なかんずくゼラチンが最も有効）で再処置すると一旦失われた赤血球の St-S 感受性が完全に復活することを見出した。

St-S 溶血に対するタンニン酸効果の発見は、単に St-S 溶血の作用機序の問題からだけでなく赤血球や蛋白質の生物学的性状の方面から考えても甚だ興味深いものがあると推想されるのであつて、引続き川尻、岡本、沼田、秋山らによつて考査が行われている状況である。

(2) 結核菌の抗 St-S 作用

1968年伊藤・細川によつて、St-S 溶血が結核菌によつて阻止されるという奇なる現象が発見され、これを精査した結果、結核菌を食塩水で磨砕する時、食塩水中に抗 St-S 作用をもつたある因子が放出されることが明らかとなつた。

結核菌の抗 St-S 作用の実証は、結核菌と溶連菌とが共存するような自然的環境において、両者の生活が生物的に決して独立、無影響性ではあり得ないことを暗示しているとも考えられるのであつて、この研究は目下吉村、岡野らによつて更に考査が進められているという状況である。

2) 細菌免疫部

主任 日置陸奥夫 教授 (1942—1947)

日置研究室においては 1942年～1947年までの6カ年間、結核問題全般にわたる広汎な基礎的研究が行われているが、ここではその中の主な研究項目についてのみ概記することとする。

I. 結核化学療法研究

結核性疾患を化学物質によつて治癒好転せしめようとする試みは古くから多数の研究者によつてなされてきた。

1940年当研究室で 3,6-diaminoacridinium-10-methyl iodide (tuberflavin と呼称) が結核菌発育阻止作用において顕著なものがあるという知見がもたらされ、ひきつづき本物質が実験的結核ならびに外科的結核に対してもある程度の良効を示すことが実証された。この実証にもとづいて、まず tuberflavin の化学構造に近似し、しかも構造簡単な抗結核剤の探索を主眼目とする結核化学療法研究が行われるに至つた。

以来、多数の化合物、とくに sulfonamide, diphenylsulfone, および diphenylether 系を指向する諸種誘導体が合成され、これら物質の試験管内抗菌作用ならびに実験的結核症に対する治癒的効果の有無、強弱が試験されたのである。そしてまもなく 3-nitro-4'-laurylamino diphenylether (No.249) ならびに 4-nitro-4'-laurylamino diphenylsulfone (No.115) の2物質が結核動物に対する結核病変をかなり著明に阻止することが肉眼的に、また組織学的に証明されている。

このように、一連の化学物質についてそれらの抗結核菌性が検索されている間に、たまたま sulfathiazole の互変異性体とみなされる化合物 sulzoline がまた強い抗結核菌作用を呈することが見出され、本物質の臨床的応用の問題に対して各方面からの検討が行われてきた。他方、放線状菌、麴カビなどの産生する抗結核菌性物質のスクリーニング実験で、tubermycin と称する一新抗生物質が見出されている。

II. 結核免疫に関する研究

さきに結核患者から分離された色素産生抗酸性菌 (H. F. S. 菌) について、その生物学的性状が詳細に検索された。本菌は形態培養上の特徴などにおいてヒト型結核菌のそれにきわめて近似するにかかわらず、定型的結核形成を営まないことが証明され、しかも、H.F.S.菌接種動物において全血中の結核菌の発育が阻止されていることなどが観察されたことから、本菌による結核免疫の成立如何の問題が攻究されてきた。

主任 柿下正道 教授 (1947—現在：病理部を含む)

I. 細菌学的研究

結核菌の発育促進物質を探究中 (秋山, 小西, 山田, 土用下) 旧ツベルクリン (女川) と結核菌

々体蛋白(宮元)は結核菌のみならず好気性菌、嫌気性菌および真菌の発育をも促進することを認め、此の物質は「ツ」活性因子と理化学的性状においては類似しているが、吸着試験によって同一物質でないことを明らかにした。

形態学方面的の研究としてはフィルム培養を応用して(笹島, 奥原, 橋本, 村田)腸内細菌と抗酸菌の発育状況ならびに分裂形態を生菌の状態でも直接観察するとともに「レ」線, ラジウム, および各種薬物のそれら細菌の発育に及ぼす影響をも観察した。一方スライド培養の臨床面の応用(山田)についても検討した。

また腸結核患者の糞便中の菌叢(平野), 肺結核患者の気管枝内の菌叢(上林)について詳細な研究を行い、その臨床上の意義と化学療法によるそれらの変化について検討した。

薬剤の抗菌力、あるいは耐性化の研究中2株(BOK 粟津), (No.16 曾我)のKf値のきわめて低いグラム陽性桿菌を発見し、しかもそれらはいずれも「ツ」様物質を産生するが、ヒト型菌「ツ」との間には免疫上明らかな差を示すことを認めた。

細菌の薬剤耐性化に関する研究で

(1) 抗酸性菌について行つた実験では、管内においても(松田, 寺崎)臨床実験(英)でも2剤ないし3剤に対し容易に重複耐性化せしめることが出来るが、耐性度は合成剤よりも抗生物質に対してより高くなり、その持続は薬物によつて異つている。然し *o*-Aminophenol(OM)については耐性菌を作らない唯一の抗結核(中瀬)剤であることが確認された。

また耐性獲得の一機序としてある種の菌体成分(鉄およびリポイド)の多寡に関係するとともに菌膜の透過性(西田)にも関係していることを明らかにした。

耐性化の抑制のために使用するべき薬剤を探究してPAS, OMの他, VB₂, VKにその作用のあることを立証した(早川)。また管内で2重耐性化せしめた結核菌の毒力および「ツ」産生能を比較した実験では使用した抗結核剤の種類によつて異なることを知つた(寺崎)。

(2) 腸内菌について行つた実験では、腸内菌もまた管内実験で各種薬剤に対し容易に耐性化せしめることが出来る。しかうしてその防止のためには抗菌作用の全く認められないPAS, INAHおよびOMが効果的であつた(村上)。生体にSM, CM等を投与すると大腸菌は高度に多剤耐性化するが(松田), 管内での耐性化は単一である。

腸内菌の薬剤耐性は管内においても生体内においても容易に他の細菌に移行せしめることが出来る(松田, 福田)。

その他口腔内乳酸桿菌についても研究し(中田), 齲歯の成因, 予防および治療等実地応用の面まで拡大した。

岡本教授によつて発見されたヒヨリンによる長連鎖発育肺炎双球菌と普通ブイオンに発育した菌との免疫原性を比較し、両者は同等であることを認め、肺炎菌が生体並びに人工培養において連鎖形成を示している場合これが衰頹現象でなく、能働的発育条件下のものである限り、免疫学的に活性であるだろうと推論した(四蔵)。

また岡本教授によつて溶連菌の溶血毒産生に対する核酸効果が発見されその後追試者によつて核酸効果とエネルギー供給源としての含水炭素の必要性について論争されたので、Warburg 検圧法によつて酸素消費量を検し、次いで上清液について溶血試験を行つて検討した。その結果含水炭素の添加は溶連菌の呼吸を増大するが核酸効果とは無関係であることを明らかにした(梅崎)。

II. *O*-Aminophenol-Azo-Tuberculin (OA-Azo-T) に関する研究

1948年当研究所の伊藤, 越村両教授によつて創製された精製「ツ」であるOA-Azo-Tについて今日までに得られた成績は次のごとくである。

(1) 人体について行つた力価検定では OA-Azo-T の 0.05 γ が旧「ツ」2,000倍 0.1ml と一致し、しかも Lot を異にした 11 種の OA-Azo-T が等力価を示し、10 年室温に保管しても全然力価の低下を認めなかつた (由利, 大山, 女川, 松田ら)。

また OA-Azo-T も旧「ツ」で証明されているように生体における「ツ」アレルギー反応も抗原-抗体の最適比の条件下で最も強い反応の認められることが知られた (池田)。

(2) 成人について測定した旧「ツ」と OA-Azo-T の等力価量を同時に学童に注射したところ、旧「ツ」には陽性で OA-Azo-T に対しては陰性または疑陽性の者があることを認め、その学童について調査したところいずれも BCG 接種者であることが知られた (由利)。その後多数の集団について両「ツ」による反応を比較すると BCG 接種回数、BCG 接種から反応を行うまでの経過によつて異なるが、被検者の 60~90% において不一致な反応を呈する者を認めた (由利, 大山, 中田, 蔵, 秋山, 一林, 小西, 平野, 四蔵, 柳下, 粟津ら)。更に旧「ツ」の代りに OA-Azo-T “BCG” を使用するにいたり一層良い成績を収めるにいたつた (紺田)。続いて「ツ」の濃度 (西東)、局処反応 (西東, 山西, 英, 粟津, 橋本, 今井, 小市, 小西ら)、あるいはその解析的研究 (奥原) 等により BCG 接種者の選定、BCG 接種後の自然感染者の発見に応用し得ることの確信を得て以来今日まで多数の集団検診に応用している次第である。

(3) 以上の事実を組織学的に解明せんとしてウサギを用いて実験を行い (中川)、OA-Azo-T は非特異性因子に乏しく、最も定型的「ツ」型組織反応を惹起する事を明らかにした。また BCG 感染ウサギでは OA-Azo-T “Human” による組織反応は微弱で 24 時間目を頂点として減弱し、短時間で終結するが、旧「ツ」および OA-Azo-T “BCG” による反応経過はいずれも「ツ」型反応の特徴を備えていることを明らかにした。また菌体蛋白を用いて行つた実験でも BCG 感染ウサギの組織反応はいずれの抗原を用いてもヒト型菌感染ウサギに比し一般に軽度なことを知つた (上田)。

組織化学的に検索した成績 (荒井) でも明らかな差が認められた。

ヒト型菌および BCG の旧「ツ」より蛋白と多糖体を分離して行つた皮膚反応を組織学的に検査した成績でも鑑別の可能性が立証された (稲葉)。

また「ツ」に末梢血管透過性あるいは自律神経末梢に作用する薬剤を添加して皮内に注射し、肉眼的と組織学的に検討した結果「ツ」反応は血管神経系とも密接な関係のあることを指摘した (岡本)。

(4) OA-Azo-T の生体に及ぼす影響について研究した結果

(i) 健常および結核ウサギの皮下に旧「ツ」と OA-Azo-T の等力価量をそれぞれ注射して白血球に及ぼす影響を観察した実験ではいずれも白血球数は増加し、かつ遊走速度、貧食能等の機能は亢進する。しかしてその程度は結核ウサギでは健常ウサギより、また OA-Azo-T は旧「ツ」より顕著であつた (佐々木)。

(ii) 健常および結核モルモットに「ツ」の一定量を静注した後経時的に臓器の変化を観察した結果、OA-Azo-T による健常動物の臓器の障害程度は旧「ツ」に比してきわめて軽微であるが結核動物の臓器では旧「ツ」と全く同程度の変化を惹起することを認めた (古本)。

(iii) 結核モルモットの腸管の旧「ツ」による S-D 反応惹起能は OM を添加しても影響されないが、OA-Azo-T では起らない (森永)。

(iv) 臓器の組織呼吸に及ぼす影響を検した結果旧「ツ」は健常マウスの臓器に対するよりも結核臓器の呼吸を著明に促進したが OA-Azo-T ではその影響はきわめて微弱であつた (高岡)。

(v) マウス脾の組織培養に及ぼす影響を観察した成績では、旧「ツ」は正常マウス脾の発育に無影響であつた量の添加でも結核マウス脾の発育を抑制したが、OA-Azo-T の添加では抑制

作用は認められなかつた（石野）。

以上の成績を通覧するに OA-Azo-T は生体外での作用はきわめて微弱か、あるいはほとんど認められないが、生体内においては健常動物に対する作用は旧「ツ」に比べて弱い、結核動物に対しては旧「ツ」よりも特異的に作用するものと思考される。

III. 結核の化学療法に関する研究

抗結核剤の作用機序の解明に資すべく、抗酸菌の呼吸に及ぼす影響について研究し（吉田）、次いで結核菌の発育に必須な物質の代謝に及ぼす抗結核剤の影響を菌の呼吸の面から研究した（末）。

また結核感染動物の組織呼吸に及ぼす薬剤の影響について研究し（本多、西野）、抗結核剤は静菌的に作用するのみならず、結核個体の新陳代謝をも亢進せしめることを明らかにした。

抗結核剤の生体防禦機能に及ぼす影響を単独投与（藤原）と併用投与（辻口）について、また網内皮細胞機能（塩谷）についても研究し、薬剤の使用量を検討した。

以上の基礎実験を根拠に、抗結核剤の併用効果をモルモット（匠）とマウス（吉田）について行つた。さらに動物実験で薬剤の効果を判定するには感染より治療開始までの期間が重要な条件となることを明らかにした（丘村）。

岡本教授の発見になる o-Aminophenol(OM) の抗結核剤としての効果を拡大せしめる目的で好適な粉末吸入装置を考案し（山田）、動物実験でもまた臨床的にも良好な成績を収めている。

次いで OM の生体内分布を組織化学的に証明した（今市）。

研究は免疫と化学療法の併用にまで拡大せられ先づ旧「ツ」が結核菌の呼吸に及ぼす影響について研究せられ（吉田、末）、次いで結核動物の臓器に及ぼす「ツ」の影響を組織学的に研究した（古本）。

また流パラ・ワク、感作及び感染動物の組織呼吸に及ぼす旧「ツ」と OA-Azo-T についても研究された（高岡）。続いて「ツ」と抗結核剤との併用療法がモルモットを使用して行われ（今井）、その結果速効性の抗結核剤と「ツ」の微量特に OA-Azo-T との併用が適当であるとの結論が得られた。

BCG 接種後の有毒菌感染に対する抗結核剤の発病予防（西村）と治療効果（板沢）について検討された結果 BCG 免疫完成後は薬物投与開始時が非免疫群に比し、遅れたほうがかえつてその効果が明らかであることが知られた。

またマウスを使用して結核菌の薬剤耐性化の研究が行われ（毛利）、併用療法が耐性発現遅延に効果的であることが認められた。

耐性菌感染マウスの治療実験では（三枝）、感受性の薬剤が効果的で、さらに併用療法によつてその効果が増大することが証明された。

IV. 結核の免疫とアレルギーに関する研究

結核菌の菌体成分を精製分離してその抗体産生能、反応原性、アレルギー性ならびに感染防禦力賦与能について研究した。その結果菌体蛋白（蔵）、第一燐脂質（秋山）およびワックス（宮森）において明らかに抗原性を認めることが出来た。ことに OM でアゾ化したツベルクリンまたは菌体蛋白は毒性が少なく感染動物においても著明に食菌作用を亢進せしめることを認められた（大山）。

結核菌で行われた実験の裏付けとして抗原-抗体系の明らかなチフス菌、パラチフス菌から菌体蛋白を分離して行われた実験（杉林）でもこのことは立証することが出来た。

次いで結核感染あるいは免疫の際の血清抗体の所在についてその経過と吸収実験によつて得られた材料を Tiselius の電気泳動像によつて観察し、次の結果を得た。血清蛋白ことに γ -G の増減は結核症の進展を表示し（武内）、定型抗体の大部分は γ -G に存在するがそれは増加した γ -G の一部に過ぎないことを知つた（政岡）。

さらにこの関係を明確に知る為に血球またはチフス菌免疫の場合の血清蛋白像の変化の経過を追って観察した(藤井)。その結果 β -Gが免疫の初期に増加し、後期に至つて γ -Gの増加に従つて旧に復した。すなわち免疫完成後には抗体は γ -Gに属することを明らかにした。M-D反応が沈降反応と対比して盛んに応用されるに至り、その感作原を探究すべく、結核菌(山本、善田)とチフス菌(松井)について実験された。

その結果菌体に蒸留水を加え100°C 60分加熱後氷室に1週間保存したものに最も強い免疫原性ならびにアレルギー性のあることが明らかとなつた。

また結核免疫実験において感染防禦力賦与の判定にはマウスの肺内菌数の測定によつて知り得ることも確認された(吉田)。

結核免疫ならびにツベルクリン過敏性は感作動物の腹腔内細胞、組織細胞あるいは血液の頬回注射によつて移行可能(中口)であるが、1回注射では「ツ」過敏性は移行するが血中抗体の上昇は認められなかつた(大溝)。

脱感作実験の結果では結核感染あるいは感作動物に「ツ」を連続注射すると皮膚反応は消失するが血中抗体はかえつて増強し、S-D反応も消失しない(八木、森永、奥村)。すなわち皮膚反応と血中抗体あるいはS-D反応では異つた抗原-抗体反応系が関与することが明らかとなり、脱感作は血清反応と皮膚アレルギーとの解離を示しつつ免疫力の向上に働く事を知り得た。

BCG免疫を行う場合難陽転者のあることは既に知られているところであるが、その機序を明らかにせんとして多数の難陽転者と易陽転者について各方面から調査した結果、血液型(山下、庄田ら)には関係しないが、難陽転者は易陽転者に比し「ツ」アレルギーの発現は弱い結核菌ならびにBCGに対する抵抗性の高いことを認めた(庄田)。またBCG潰瘍の発生は本質的にはKoch氏現象によるもので個体の「ツ」アレルギー状態と密接な関係があるばかりでなく接種菌量、接種方法ならびにBCG死菌Aggressin作用の3因子が関与していることを明らかにした(山西)。

またBCG潰瘍の治療にはOMがきわめて効果的であることを認めその治療方法を確立した(中田)。

動物の結核免疫実験におけるAdjuvantとしての流パラの意義について検討し、流パラは菌の破壊吸収を妨げ、長く体内に停滞せしめ強いアレルギーないし免疫状態を惹起せしめることを明らかにした(柳下)。

妊娠と結核の問題は臨床家によつて論議せられているところであるが結核菌の食菌現象を応用して妊娠、産褥の各期において調査した結果、妊娠後期及び産褥時に機能の減退を認めるが、初期にBCGを接種すればその低下を妨げ得ることを実証した(桐沢)。また一方血清の殺菌力と補体価を測定した成績でも同様の結果が得られた(庄田)。

結核と遺伝との関係を明らかにする目的で多数の双生児について調査した結果「ツ」アレルギーの発現は自然感染者、BCG接種者ともに遺伝的制約を受けるのみならず白血球の食菌能についても平行的な関係にあることを知つた(橋本)。

結核とは直接関係はないが、チフス免疫後、レ線放射による既往性反応としての抗体産生状況と白血球機能とを同時に検査し、いずれも上昇することを認めた(小西)。

また精製卵白アルブミンを抗原として寒天層内沈降反応によつて第一次免疫と既往性に現われる抗体とを比較し、既往性には初回時よりかなり多くの沈降帯が認められることを明らかにした(橋本)。

以上の実験結果に基き西東教授の方法に従つて「ツ」感作血球免疫を行つたウサギにおいても非特異刺激による既往性血清反応の現われることを認めた(高橋)。

3) 化 学 部

主任 伊 藤 亮 助教授 (1947—1954)

(研究内容は薬理製剤部の項を参照のこと)

主任 越 村 三 郎 教 授 (1954—現在)

1942年岡本教授らによつて o-aminophenol が結核菌の発育増殖を特異的に阻止する物質であることが見だされてから、同教授指導のもとに“o-aminophenol を中心とする結核化学療法の基礎的研究”が広汎に展開された。そして多数の新化合物が合成され、これらの化学構造と抗結核菌作用の關係についての攻究が行われてきたのであるが、その後 o-aminophenol の抗結核菌性はその酸化成績体 (phenoxazone 化合物) に由来するものと考察された。

さらに本研究の一環をなすものとして、1946年 o-aminophenol azo-proteine 誘導体を指向する研究が計画され、翌1947年には o-aminophenol azo-tuberculine が創製されるに至つた (以上は1942～1953年における薬理製剤部との協同研究)。

ところで当化学部ならびに医学部薬理学教室 (主任: 岡本肇教授) では、過去20余年間「核酸効果」(後出)に関する生物学的ならびに生化学的研究が続行されているのであるが、約8年前からこの「核酸効果」にもとづく研究は癌化学療法の実験的研究に展開し、現在もつぱらこの方面の研究に重点が置かれている。

I. 制癌に関する実験的研究

1939年岡本教授によつて溶連菌を酵母核酸を加えた培地に移植培養すると、溶血毒素 streptolysin-S (St-S) の産生が飛躍的に増大すること (すなわち核酸効果) が発見された。この現象が発見されてから、内外学者の研究と相まつて St-S およびリボ核酸 (RNA) の生物学的性状に關しての知識は非常に豊富なものとなつてきた。そしていろいろの知見を綜合・考察した結果、とにかく溶連菌が St-S を産出するためには RNA の存在が不可欠であつて、溶連菌と RNA とは密接不離な代謝關係にあると推察されてきたのである。ここに制癌研究の端緒となつたものは、「核酸効果」に關しての研究で得られた

- 1) 溶連菌には RNA に作用してこれを溶血性を帯びた核酸体 (すなわち St-S) に転化せしめる性能がある
- 2) 2, 2'-dihydroxyazobenzene (DO) およびその tetrabromo 誘導体が「核酸効果」の発現 (おそらく RNA→St-S への転化) を強力に阻止・抑圧する
- 3) 腫瘍細胞に対し溶連菌生菌体を接触せしめると、多量の St-S が生成される

という三つの重要事項である 1) および 3) は溶連菌の RNA に対する特異的侵襲性によるものであり、また 2) は DO 系物質によつて RNA の利用ないしは代謝を阻止・固定するものであると解された。

このようなことから、制癌研究ではおのずから

- A) 溶連菌による抗腫瘍実験
- B) DO 系誘導体を指向する制癌物質の探索

の二方向に考査の歩が進められることとなつた。

A. 溶連菌による抗腫瘍実験

試験管内でエールリツヒ癌細胞に対し、溶連菌生菌体を短時間接触せしめると、癌細胞はマウスに対する移植侵襲性を喪失することがまず観察された。この腫瘍細胞傷害効果は β -溶連菌に特有のものであり、しかも加熱死菌体ではかかる効果が期待できないことも実証された。

ここにおいて、溶連菌の抗腫瘍性の問題に対する解析的研究が行われるに至つたのであるが、現

在までに得られた数多くの成績を総合・考察すると、悪性腫瘍に対し溶連菌感染が好影響（腫瘍の縮少・消滅）を示したという先人の臨床成績は「核酸効果」という現象、すなわち腫瘍細胞のRNA系の溶連菌による破壊、が起こつたためであろうということが推想される。

B. DO系誘導体を指向する制癌物質の探索

この研究では、100余種におよぶ一連のDO系アゾ化合物が合成され、これら物質についてその化学構造と抗腫瘍性ならびに抗核酸効果性（St-S生成に対する抑圧・阻止作用）との関係が精細に考查されてきた。

そしてまず、6-(2'-hydroxy-3', 5'-dibromophenylazo)-4-n-hexylresorcinol [Azo-36] が吉田肉腫細胞に対する破壊力において、またエールリツヒ腹水癌移植マウスに対する延命効果においていちじるしいことが見出された。その後まもなく、bis型 azoalkylphloroglucinol 誘導体、なかんずく bis (2-hydroxy-3, 5-dibromophenylazo) -n-propylphloroglucinol [Azo-106] が吉田肉腫・エールリツヒ癌、サルコーマ180および白血病SN36に対し高度に抗腫瘍効果を招来せしめるものであり、溶解性、毒性および抗腫瘍性においてAzo-36にはるかに優越することが実証された。

Azo-36およびAzo-106の抗腫瘍性発揮の機作に関しては、なお検討を要する点が多々あると思われるが、腫瘍細胞のRNA代謝系に対する影響が推定される。というのは、現在までに行われた抗腫瘍実験と抗核酸効果試験との成績を対比照合すると、その間にだいたい平行した関係が存在するものように思われるからである。

この方面の研究は目下いよいよ拡大深化され、一方においてさらに強力な制癌性物質の探索が行われると共に、他方この種系統物質の抗腫瘍作用機作の問題に関し各方面からの考查・検討が加えられつつある。

II. St-S生成に関する研究

A. St-Sの酵素的合成

前述の溶連菌による抗腫瘍実験に関連して、溶連菌からSt-S合成能ならびに抗腫瘍能を有する活性因子（酵素？）の分離実験が行われた。まず溶連菌生菌体から低温下、アルミナ磨砕法によつて活性を保持した無細胞抽出液を調製することに成功した。ついでセルローズ・イオン交換体を使用するパツチおよびカラム・クロマト法によつて、抽出液中の成分はだいたい蛋白体部分と核酸体部分とに分画され、しかも両活性能はもつぱら前者に存することが確かめられている。

B. リボ核酸のSt-S増産効果発現上必要なcofactorに関する研究

溶血毒素St-Sの増産は、溶連菌の休止菌をRNA溶液中に浮遊しただけでも起こるが（静菌法における核酸効果）、この実験でよく洗浄した生菌体と高度に精製されたRNA（Ag-RNA複合体から脱銀法によつて再生して得られたニンヒドリン反応陰性のRNA標品）を使用したときは、ペプトンあるいは肉エキスの少量を添加してはじめてSt-Sの増産が認められることが実証された。このことからペプトンならびに肉エキス中には核酸効果発現に必要なcofactorの存在が指摘された。

そこで肉汁中の有効因子を追求するために、まず肉汁からエタノールあるいはアセトンなどによる分画沈殿によつて粗有効分画を得、さらにこれをイオン交換樹脂カラム・クロマトによつて精製し、クロマト的に単一の有効分画（一種のポリペプチド）を収得することができた。

以上のA項およびB項の研究はSt-Sの本質ならびにSt-S生成機構に対する有力な手がかりを与えるものと思われる。

4) 放射線生物部

主任 西東利男教授(1959—現在)

I. 感作血球の免疫学的研究

A. 結核症の Middlebrook-Dubos (M-D) 反応に関する研究

- (1) M-D 反応について、その実施条件、該反応と臨床的諸検査成績との相互関係を検討した(山下)。なお実験的結核症において M-D 反応が他のいかなる反応よりも鋭敏であることを明らかにした(山下)。
- (2) 一方結核患者には M-D 抗体の保有が証明されると同時に血球が生体内で OT 様物質で感作されていると推定されるもののあることを見出した(小西)。

B. OT 感作血球の生体内抗原性を応用しての研究

- (1) 血球感作原についての化学的検討ではこの物質が微量の蛋白を含有する多糖体で、しかも皮膚反応因子とは無関係と考えられる事実を指摘した(中島)。
- (2) しかし、OT 中の血球感作因子の解明には、OT 感作血球を動物に注射して抗体が得られるならば、この抗体を中心に追究することが一つの有力な方法である。この OT 感作血球の生体内抗原性は明らかに実証された(小林)。
- (3) かくて、新しいこの研究分野から、OT 中の多糖体分画、蛋白分画ともに血球感作原性を有していることが確認された(小林、登谷)。
- (4) 同様にして薬剤感性菌 OT と薬剤耐性菌 OT の感作原性について比較検討したところ、両者間に質的差異はなく、前者に比し INA 耐性菌 OT では増強、SM 耐性菌 OT では減弱しているという結果が得られた(長森)。
- (5) また、血球のタンニン酸処理は、蛋白分画の感作原性の増強、多糖体分画の感作原性の減弱をもたらすこと。更に血球のタンニン酸処理の有無により OT 中の感作因子にはいくらか異なるところがあるという成績が得られた(不室)。
- (6) 注射された OT 感作血球の生体内における消長は血球の ^{51}Cr 標識法で詳細に追求され(舩谷、宝達)、血中抗体価と OT 感作血球の血中残存率の関係(舩谷)、細網内皮系内部照射の抗体産生に及ぼす影響が観察された(宝達)。
- (7) OT 感作血球免疫によつて著明な血中抗体が証明されるが、皮膚 OT 反応は終始認められない(小林)。このような状態下の動物が結核感染に対して防禦能を有するか否かについて検討したところ、非処置対照動物との間にほとんど差が見出されなかつた(恒元)。

C. o-Aminophenol Azo-Tuberuclin(OA-Azo-T) 感作血球に関する研究

OT 中の蛋白分画(PF)が血球感作原性を有することから OA-Azo-T の血球感作原性について検討を加えた。その結果、OA-Azo-T では PF と異なり血球のタンニン酸前処理を全く必要としないことを見出され、かつ、OA-Azo-T に対応する抗体と抗 PF 抗体との間に質的差が実証されなかつた(中川、未刊)。

II. 血清学的手技に関する研究

ウサギの正常および免疫フォルスマン抗体を対象として、非定型抗体に関する検査方法を検討中である。

III. 免疫学的寛容を応用しての研究

免疫学的寛容の事実とは二種の近似の複雑抗原のなかの異なつた抗原物質に対する抗体を選択的に

産生させる可能性を示していると考え、この可能性の限界を追究中である。

5) 診 療 部

主任 鈴木 茂 一 教授 (1947—1954)

I. o-Aminophenol の基礎的, 実験的研究

II. o-Aminophenolの臨床的研究

(研究内容については特別寄稿を参照のこと)

主任 ト部 美代志 教授 (1954—現在)

I・結核化学療法 の 臨床的研究

当所の診療部の主要研究課題であつた o-Aminophenol (以下OM) に関する結核化学療法の臨床的研究はその後も続行され, OM の単独内服の成績がまとめられた. すなわち被検症例群においてみられた臨床効果としては喀痰量の減少, 結核菌の陰性化があげられPASに比較してより優れた成績が得られたのである.

X線上浸潤乾酪型, 浸出型にあつては効果を認めるが重症混合型にあつては不変のまゝに推移する場合が多いことが明らかにされた. 治療効果はその投与期間に比例し, 投与期間12カ月のものは6カ月のものより軽快率は高く, 本剤はPASと同様遅効性で他の薬剤との併用が望ましいことが判明した.

結核化学療法に伴う菌交代症も注目され, 当診療部において空洞切開後強力な化学療法を実施した例にCandidiasisを併発した症例について, その発生要因, 症状治療等の検討成績が得られた.

II・肺結核病巣の病理細菌学的研究

肺結核の肺切除療法に力が注がれたが, その際得られた肺結核病巣について病理学的並びに細菌学的検索が遂げられた. 病巣中の塗抹陽性培養陰性の結核菌を検索対象とし, このような結核菌は空洞よりむしろ濃縮空洞被包乾酪巣細胞性結節性病巣にみられ, 軟化傾向の軽い病巣に属していることが明らかにされた.

これら結核菌の多くは死滅しているか, 死滅に瀕しているものとみとめられた. 病巣内生菌の耐性を検索した結果耐性菌は空洞病巣に多く非空洞病巣に少いこと同一症例において異なる病巣内結核菌の耐性度は必ずしも等しくないこと等が解明された. 切除肺の病巣とその所属気管支の病変との関係が検索されたが所属気管支の潰瘍狭窄等の病変は空洞病巣の場合最も顕著であり, 濃縮空洞の場合も同一所見がみられる. すなわち気管支病変からみた場合空洞病巣と濃縮空洞とは同一に考慮されるべきものである. 結核腫病巣の場合その所属気管支の変化は軽度で粘膜下変化に止ること, 散在性被包乾酪巣の所属気管支の変化としてはわずかに粘膜の糜爛を散見する程度であることが明らかにされた.

切除肺病巣検索において浄化性空洞の5症例が得られたがさらにopen-negative syndromeを呈する症例群が検索され, その頻度が全症例の11.6%に達することが知られた. それ等のX線所見, 喀痰中結核菌の消長, 化学療法との関係, 病理所見等細菌学的病理学的所見からみてopen-negative syndromeの症例群の治療としては肺切除療法が妥当であると結論された. 次に電子顕微鏡により切除肺の超微細構造を観察し, 正常肺胞は肺細胞の延長とみられる薄い上皮性被覆で連続性に覆われ, 肺毛細管壁は薄い内皮細胞で覆われ前者と同じく基底膜を有することがみとめられた. 診療部における実験的研究によつてイヌの実験的結核性空洞の形成に成功している. イヌの結核アレルギーは

低い、感作すれば空洞を作り得ること、その際結核菌接種の方法により発現率が異り、気管内への注入接種が特に高率に空洞形成を招くことが明らかにされたのである。また実験的結核性空洞に対し肺動脈あるいは肺静脈の結紮切断の影響を調べ、肺動脈結紮の場合気管支動脈が代償的に拡張し、肺静脈結紮の場合必ずしも結核病巣の悪化をもたらさないことが解明された。

III. 結核病巣における代償の研究

臨床上切除された肺結核病巣及び実験的結核巣を用い結核病巣の物質代償について組織化学的並びに生化学的研究が企てられた。実験的結核病巣においては RNA が小円形細胞、類上皮細胞、巨細胞並びに乾酪変性部にみられ、感染後1カ月すなわち結核抗体の産生が著しい時期には陰性を示すが、その前後には充分証明される。PAS 反応陽性物質（多糖体）とアレルギー反応との相関は認められ難く、この物質は乾酪巣を囲む線維層に多く検出される。ウシ型結核菌をウサギに血行性感染を起させた場合、感染後4週を境として病巣は滲出性から増殖性に進展する。組織化学的にみて病巣内の脂肪沈着は4週に最高となり以後減少する。生化学的検索によると、肺病巣の液状酸は最初少々増加し次に4週に最も増加し、以下漸減する。固型酸には4週の増加がみられない。肝病巣においては液状酸、固型酸共に4週の増加がみとめられる。液状酸としてはリノレン酸、リノール酸、固型酸としては、ラウリン酸、ステアリン酸、ことにラウリン酸の変動が活潑である。モルモットの結核病巣中の酵素の中 AC-PT, Lipase は陰性であるが Al-PT, S-NT, ATPase, Al RNT, Al DNT 及び AC DNT は新鮮な病巣に陽性である。

切除肺病巣の組織化学的検索の結果としては空洞ないし濃縮空洞壁に Al DT, Al PT, 5-NT, Al RNT, Al DNT, AC DNT, Lipase, Catalase 等の酵素活性が高く、被包乾酪巣にこれらの活性が低いことがみとめられた。多糖類の検出は酵素類のそれとは逆の傾向を示すことが知られた。

IV. 肺結核に対する肺切除療法の研究

診療部において肺結核治療として行われた肺切除1,000例について耐性菌気管支瘻、膿胸、術後再悪化等の問題を含めて遠隔成績が検討された。その結果就労率86.3%があげている。耐性菌症例の手術成績を向上させる方法として、術前化学療法、適応の撰択、手術操作等が工夫された。術後再悪化の原因は遺残病巣の再燃にあることが明らかにされ、その対策として手術時期、手術適応、手術手技等に考慮が払われた。さらに気管支瘻、膿胸に対する治療法検討がされている。

V. 術後急性肺水腫に関する研究

金沢大学医学部第一外科教室との共同研究として術後急性肺水腫の研究が行われた。肺水腫の過程に従って肺並びに肝における物質代謝を観察すると、Al-Phosphatase の活性度は初期に亢進するが高度の肺水腫になると低下し、5-Nucleotidase も同じ傾向を示すが RNA 代謝は有意の変化を示さない。肺における液状脂肪酸は肺水腫の亢進の初期に存在するが末期には減少する。多糖類は肺胞壁間質に増加してくる。さらに Glycogen 代謝は肺においてその検出は少なくなる。肺水腫の過程における物質代謝を要約すると最初亢進するが、次第に減衰に赴く。電子顕微鏡による所見で肺胞上皮毛細管内被細胞の基底膜よりの剝離がみられ、さらにそれらに裂隙形成が生じていることが明らかにされた。

2. 研究成果の発表

1) 刊 行 誌

当結核研究所における研究業績の発表機関誌として昭和18年（1943年）に「金沢医科大学結核研究所年報」が創刊された。

第7巻（1948年）以後、年2回の刊行となり、第9巻（1950年）からは学制改革にともない「金沢大学結核研究所年報」と改称、さらに第12巻（1953年）以後本誌の刊行は年3回におよび、結核その他に関する多くの研究論文が掲載されている。

編集部は各部局から選出された委員で構成されており、所外からの投稿掲載も考慮されている。

2) 国立大学附置結核研究所結核談話会

国立大学附置結核研究所（東京大学伝染病研究所、京都大学結核研究所、大阪大学微生物研究所、東北大学抗酸菌研究所、北海道大学結核研究所、金沢大学結核研究所）は、協力して結核に関する知見の拡大に寄与する目的で、結核談話会を行うこととし、昭和28年秋、その第1回談話会を金大結研が主催実施した。以降各研究所交互に昭和31年まで年2回、昭和32年より年1回開催し現在に至っている。昭和31年第7回談話会より九州大学医学部結核研究所がこれに参加した。昭和33年第10回談話会を金大結研が再び主催した。本会での発表者は次の通りである。

昭和 28 年	伊 藤 亮	
” 29 年	越 村 三 郎	村 沢 健 介
” 30 年	伊 藤 亮	出 口 国 夫
” 31 年	西 東 利 男	伊 藤 亮
” 32 年	伊 藤 亮	
” 33 年	出 口 国 夫	
” 34 年	吉 村 政 弘	
” 35 年	伊 藤 亮	
” 36 年	高 野 徹 雄	

なお本談話会設立以来同会が発行者となり、The Japanese Journal of Tuberculosis を刊行している。

3) 著 書

日 置 陸 奥 夫：小内科学（全4巻）1948—1955，南山堂。

大 里 俊 吾：内科診断学，1945，南山堂。

日 置 陸 奥 夫：ホルモン化学検査法，1956，南江堂。

日 置 陸 奥 夫：結核の化学療法

柿 下 正 道：喀痰検査法（結核新書第6集），1952，金原書店。

岡 本 肇：核酸による溶血性連鎖状球菌の溶血毒増産現象（長谷川秀治編“細菌学の
新領域”），1953，医学書院。

卜部美代志・坪川孝志共著 呼吸循環機能検査法，B5判214頁 1961，南江堂。

日本外科全書 第16巻Ⅱ 肺結核の外科（Ⅱ） 肺結核切除療法，1954，南江堂。

3. 研究論文

1943

- 河合益男：結核の化学療法研究 第8報 二、三Pyridin系、Chinolin系Aminobenzosulfonamidの結核阻止作用について、金医大結研年報、1、1、1943
- 河合益男：結核の化学療法研究 第9報 種々なる Nitro 基を有する化合物の結核菌発育阻止能力に就て 金医大結研年報、1、15、1943.
- 園部昌俊：結核個体に於ける Chromogene, säurefeste Bazillen の存在と結核罹患様態に就て 金医大結研年報、1、21、1943.
- 日置陸奥夫、園部昌俊：結核の化学療法研究 第10報 3,6-Diaminoacridinium-10-methyljodid の肋膜周囲膿瘍に於ける治効作用、金医大結研年報、1、45、1943.
- 園部昌俊：結核個体より分離せる色素性抗酸菌の生物学的性状に就て 1.形態、培養上の特徴、抗煮沸性 金医大結研年報、1、53、1943.
- 岡本肇：薬物の細菌の生物学的性状に及ぼす影響に関する研究二題 1)第四級アンモニウム塩基並に第三級アミンに因る肺炎双球菌の乱麻状長連鎖発育現象 2)核酸に因る溶血性連鎖状菌の溶血毒増産現象に就て 金医大結研年報、1、67、1943.
- 園部昌俊：結核個体より分離せる色素抗酸性菌の生物学的性状に就て 2.病原性 金医大結研年報、1、87、1943.
- 園部昌俊：色素産生その他抗酸性菌株純培養濾液に依る皮膚反応 金医大結研年報、1、103、1943.
- 岡本肇、松田研齋：結核に対する実験化学療法的研究(予報) 金医大結研年報、1、121、1943.
- 日置陸奥夫：結核性疾患に対する 3,6-Diaminoacridinium-10-methyljodid の臨床的応用(綜説) 金医大結研年報、1、別1、1943.
- 日置陸奥夫：レーベルグ氏肺結核分類を論じ小倉博士の努力に答ふ 金医大結研年報、1、別23、1943.

1944

- 日置陸奥夫、鈴木政人：結核の化学療法研究 第11報 Nitro芳香体酸の Sulfamin 系縮合物合成に就て 金医大結研年報、2、1、1944.
- 森岡貫二、中源作太郎：肺結核の進展、停止に関する臨床的観察 1.施術の肺結核に及ぼせる効果 金医大結研年報、2、9、1944.
- 河合益男：肺結核の進展、停止に関する臨床的観察 2.自然停止に関して 金医大結研年報、2、21、1944.
- 中源作太郎：結核の化学療法研究 第12報 Nitro 芳香体酸の Sulfamin 系縮合物の実験的結核阻止能力に就て 金医大結研年報、2、29、1944.
- 藤原美津夫：抗酸性菌の性状に関する研究 第4報 型変異に就て 金医大結研年報、2、43、1944
- 中源作太郎：結核の化学療法研究 別報 Campholensäure, Dihydrocampholensäure の Sulfamid に関する実験 金医大結研年報、2、53、1944.
- 河合益男：結核の化学療法研究 第13報 Dodecanoölsäure, Decanoölsäure 並に夫等の Sulfanilamid 縮合体の結核阻止作用に就て 金医大結研年報、2、61、1944.
- 中源作太郎：結核の化学療法研究 第14報 o-Oxychinolin 誘導体の結核菌発育及実験的結核に及ぼす影響 金医大結研年報、2、75、1944.
- 日置陸奥夫：結核の化学療法研究 第15報 o-Oxychinolin の Sulfamin 化合物その他に就て 金医大結研年報、2、91、1944.

- 岡本 肇, 松田 研齋 : 結核化学療法の基礎的研究 第1報 *o*-Aminophenol の結核菌に対する特異的消毒作用に就て 金医大結研年報, 2, 93, 1944.
- 日置 陸奥夫 : 結核の化学療法研究 予報 115号の効果 金医大結研年報, 2, 143, 1944.
- 日置 陸奥夫 : 新培養管「金沢管」に就て 金医大結研年報, 2, 144, 1944.
- 日置 陸奥夫 : 結核療法研究の将来 講演 金医大結研年報, 2, 別1, 1944.
- 日置 陸奥夫, 森岡 貫二, 鈴木 政人 : Hay 氏反応の再吟味 金医大結研年報, 2, 別15, 1944.

1945

- 松田 研齋 : 結核化学療法の基礎的研究 第2報 *o*-Aminophenol 系諸誘導体の結核菌に対する消毒作用に就ての検索 金医大結研年報, 3, 1, 1945.
- 日置 陸奥夫, 中源 作太郎 : 結核の化学療法研究 第16報 115号に関する動物実験 金医大結研年報, 3, 17, 1945.
- 藤原 美津夫 : 抗酸性菌の性状に関する研究 第5報 「マウス」の人型結核菌感染病像に就て 金医大結研年報, 3, 33, 1945.
- 加納 正 : 結核の化学療法研究 第17報 二, 三水溶性Sulfamin剤の効力試験 金医大結研年報, 3, 47, 1945.
- 国保 近 : 結核化学療法の基礎的研究 第3報 *o*-Aminophenol の薬理学的研究 金医大結研年報, 3, 57, 1945.
- 藤原 美津夫 : 抗酸性菌の性状に関する研究 第6報 色素産生抗酸性菌のマウスに対する病原性に就て 金医大結研年報, 3, 71, 1945.
- 国保 近 : 結核化学療法の基礎的研究 第5報 Aminophenol, Phenoxazon- 及び Chinon- 系諸誘導体の結核菌に対する消毒作用に就ての検索 金医大結研年報, 3, 81, 1945.
- 越村 三郎 : 結核化学療法の基礎的研究 第4報 Anilin の ortho-置換物質と *p*-Aminobenzolsulfonsäure の縮合体に就て 金医大結研年報, 3, 97, 1945.
- 中源 作太郎 : 結核の化学療法研究 第19報 Nitro-acylamino-diphenylsulfon, Diamino-diphenylsulfon の Monoacyl 化合物, Diacyl 化合物に関する動物実験 金医大結研年報, 3, 121, 1945.
- 中野 保二 : 結核の化学療法研究 第20報 Diphenylsulfid, Diphenyldisulfid 誘導体に関する動物実験 金医大結研年報, 3, 145, 1945.
- 日置 陸奥夫 : 結核の化学療法研究 第21報 1-Rhodinsäure, Citronellsäure 其他の Diphenylsulfid Diphenylsulfon 体に就て 金医大結研年報, 3, 163, 1945.
- 小坂 菊枝 : 4-Amino-4'-acylamino-diphenylsulfon の製法に就て 金医大結研年報, 3, 167, 1945.
- 加納 正 : 結核の化学療法研究 第22報 Nitramino-diphenylsulfon の構造異性体に就ての動物実験 金医大結研年報, 3, 169, 1945.
- 中野 保二 : 結核の化学療法研究 第23報 Laurylamino-diphenylsulfon に関する実験 金医大結研年報, 3, 179, 1945.
- 藤原 美津夫 : 抗酸性菌の性状に関する研究 第7報 色素産生抗酸性菌変異株に就て 金医大結研年報, 3, 193, 1945.
- 加納 正 : 結核の化学療法研究 第24報 1-Rhodinsäure, Ditroneilsäure, 其還元成績体及夫等酸の Diphenylsulfon 体に関する動物実験 金医大結研年報, 3, 201, 1945.
- 藤原 美津夫, 山岸 敬爾 : 結核の病変促進物質 第1報 *p*-Aminobenzoensäure の作用 金医大結研年報, 3, 213, 1945.
- 園部 昌俊 : 結核の化学療法研究 第25報 3,6-Diaminoacridinium-10-methyljodid の結核性淋巴腺炎に対する治効作用 金医大結研年報, 3, 223, 1945.

- 山岸敬爾：結核の病変促進物質 第2報 p-Aminobenzoensäure 及び其醗化体の結核「モルモット」に於ける態度 金医大結研年報, 3, 227, 1945.
- 山岸敬爾：結核の病変促進物質 第3報 Aminosäuren の病変促進作用 金医大結研年報, 3, 233, 1945.
- 中野保二, 小林菊枝：結核の化学療法研究 第26報 Nitraminoazobenzol に関する実験 金医大結研年報, 3, 243, 1945.
- 園部昌俊, 森岡貫二：抗性菌の性状に関する実験 第8報 色素産生抗酸性菌の所在 金医大結研年報, 3, 249, 1945.
- 岡本肇, 松田研齋, 国保近, 越村三郎, 山田澄, 林栄一, 松井とし子：結核化学療法の基礎的研究 第6報 o-Aminophenol-, Sulfanilamid-及びDioxy-diphenylsulfon- 系諸誘導体の実験的結核海嶼に対する影響に就ての検索 金医大結研年報, 3, 251, 1945.
- 山田澄：6-oxo-fenchon に関する化学的研究 薬学雑誌, 65, 471, 1945.

1946

- 柳下晃：肺疾者喀痰中「型物質」に就て 金医大結研年報, 4, 1, 1946.
- 加納正：結核の化学療法研究 第27報 Diaminodiphenylsulfid の monoacyl 化合物に関する実験 金医大結研年報, 4, 7, 1946.
- 日置陸奥夫, 小枝坂菊：結核化学療法の研究 第28報 4-Amino-4'-laurylamino-diphenylsulfon の水溶性誘導体に就て 金医大結研年報, 4, 11, 1946.
- 浅野文月：結核の化学療法研究 第29報 P-Nitro-p'-dodecanoylamino-diphenylsulfon 投与結核動物に於ける組織的検索 金医大結研年報, 4, 17, 1946.
- 山岸敬爾：結核の病変促進物質 第4報 P-Aminobenzoensäure の促進作用本体に関する実験 金医大結研年報, 4, 31, 1946.
- 浅野文月：結核の化学療法研究 第30報 薬剤投与の際に於ける溶剤撰択に関する小験 金医大結研年報, 4, 37, 1946.
- 日置陸奥夫, 小坂菊枝：結核の化学療法研究 第31報 Halogen 基乃至 Hydroxyl 基導入 Diphenyl-sulfon 体の抗結核作用 金医大結研年報, 4, 43, 1946.
- 日置陸奥夫, 大島虎之助：結核の化学療法研究 第32報 Nitraminodiphenyläther, Diaminodiphenyläther の Monoacylverbindungen 合成 金医大結研年報, 4, 59, 1946.
- 大幸英吉, 佐野純：我教室に於ける動脈注射療法の経験 特に結核性疾患に対するTuberflavin 動脈内注入の効果 金医大結研年報, 4, 65, 1946.
- 山岸敬爾：結核の病変促進物質 第5報 8-Aminovaleriansäure, ε-Leucin にする実験 金医大結研年報, 4, 73, 1946.
- 越村三郎：結核化学療法の基礎的研究 第7報 Sulfanilamid 並びに Sulfonsäureester 系属の o-Aminophenol 誘導体の合成に就て 金医大結研年報, 4, 83, 1946.
- 越村三郎, 林栄一：結核化学療法の基礎的研究 第8報 o-Aminophenol の Sulfanilamid 並びに4,4'-Dioxy-diphenylsulfon 型誘導体の結核菌に関する試験管内消毒作用に就ての検索 金医大結研年報, 4, 94, 1946.
- 山田澄, 林栄一：結核化学療法の基礎的研究 第9報 テルペン系物質並に有機水銀化合物の結核菌に関する消毒作用に就ての検索 金医大結研年報, 4, 103, 1946.
- 林栄一：結核化学療法の基礎的研究 第10報 o-Aminophenol, Phenoxazon, Benzophenoxazon 及び Chinon 系諸誘導体の結核菌に対する消毒作用に就ての検索 金医大結研年報,

- 4, 111, 1946.
- 柳下 晃 : 結核の化学療法研究 第33報 Diphenylæther 誘導体に関する実験 金医大結研年報, 4, 125, 1946.
- 柳下 晃, 浅野 文月 : 結核の化学療法研究 第33報 続 3-Nitro-4-laurylamino-diphenyl-æther を以て処理せる結核動物の組織学的検索 金医大結研年報, 4, 143, 1946.
- 加納 秀雄 : 結核免疫に関する研究 第1報 H.F.S.菌接種「モルモット」全血内菌増殖試験並びに之がB.C.G.接種時に於ける成績との比較 金医大結研年報, 4, 143, 1946.
- 加納 秀雄 : 結核免疫に関する研究 第2報 H.F.S.分割接種「モルモット」全血内菌増殖試験 金医大結研年報, 4, 157, 1946.
- 岡本 肇 : 結核化学療法の実験的研究 (英文) 金医大結研年報, 4, 別1, 1946.

1947

- 野村 欽一 : 結核免疫に関する研究 第3報 白血球の貪喰作用賦活と免疫との解離現象 金医大結研年報, 5, 1947.
- 浅野 文月 : 結核の化学療法研究 第34報 3-Nitro-4-laurylamino-diphenylæther 並に 4-Nitro-4'-laurylamino-diphenylsulfon の生体に及ぼす知見補遺 金医大結研年報, 5, 17, 1947.
- 田中 克彦 : 結核の化学療法研究 第35報 Phenthiazin 系及び Phenoxazin 系物質の人型結核菌発育阻止作用に就て 金医大結研年報, 5, 23, 1947.
- 井出 通夫 : 結核の化学療法研究 第36報 o-Nitroanisidin, p-Laurylamino-m-nitrophenylmethyl-æther の抗結核作用検討 金医大結研年報, 5, 31, 1947.
- 粟井 正則, 近藤 義郎 : 結核免疫に関する研究 第4報 接種抗酸性菌の運命と全血液菌発育阻止作用及び免疫獲得との関係 金医大結研年報, 5, 35, 1947.
- 井出 通夫 : 結核の化学療法研究 第37報 Pyridylphenylsulfon, Dipyridylsulfon 化合物の合成に就て 金医大結研年報, 5, 57, 1947.
- 井出 通夫 : 結核の化学療法研究 第38報 実験的結核に対する Pyridylphenylsulfon, Dipyridylsulfon 化合物の作用検討 金医大結研年報, 5, 63, 1947.
- 日置 陸奥夫, 井出 通夫 : 結核の化学療法研究 第39報 Pyridylphenylæther 誘導体の合成 金医大結研年報, 5, 67, 1947.
- 林 栄一 : 結核の化学療法の基礎的研究 第12報 Quinone-dichloridiimide 及び 2.3 の o-Aminophenol 系誘導体の実験的結核海癩に対する影響に就ての検索 金医大結研年報, 5, 73, 1947.
- 岡見 富雄 : 結核化学療法の基礎的研究 第11報 Para-(或はOrtho) Quinoid 型構造を具有する諸化合物の結核菌に対する菌発育阻止作用に就ての検索 金医大結研年報, 5, 79, 1947.
- 鈴木茂一, 高森正章, 小林喜順, 石田敏雄, 機動嘉晃, 白崎哲郎, 松田雅夫, 杉本銀 : 結核化学療法の臨床的研究 第1報 結核化学療法剤“303”製剤の肺結核に対する治療成績 金医大結研年報, 5, 95, 1947.
- 大滝 武男 : 桶柑の成分 薬学雑誌, 67, 45, 1947.
- 大滝 武男 : 海南島産桂皮について 薬学雑誌, 67, 47, 1947.

1948

- 川口 武, 安江 良彦, 徳野 徹 : Tubermicine に関する研究 第1報 金沢地方に於ける Penicillin 属の分布 金医大結研年報, 6, 1, 1948.

- 川 口 武 : Tubermicine に関する研究 第2報 Penicillin 属代謝産物の抗結核菌作用
金医大結研年報, 6, 21, 1948.
- 川 口 武 : Tubermicine に関する研究 第3報 Tubermicine の産生の条件 金医大結研年報,
6, 27, 1948.
- 岡 部 庄 英 : Tubermicine に関する研究 第4報 Tubermicine の温熱に対する耐性
金医大結研年報, 6, 39, 1948.
- 川 口 武 : Tubermicine に関する研究 第5報 Tubermicine の抽出 金医大結研年報, 6,
43, 1948,
- 井 出 通 夫 : 結核の化学療法研究 第40報 実験的結核に対する Pyridylphenylether 化合物の作用
検討, 金医大結研年報, 6, 47, 1948.
- 栗 塚 一 男 : 結核の化学療法研究 第41報 Chaulmoogra 酸及 Hydnocarpus 酸の Diphenylsulfon系
Diphenylether 系誘導体の合成, その結核菌発育並に実験的結核に及ぼす作用に就て
金医大結研年報, 6, 53, 1948.
- 西 野 知 一 : 結核の化学療法研究 第42報 4-Amino-4'-laurylamino-diphenylsulfone, 3-Amino-
1-acylamino-diphenylether 水溶性誘導体の実験的結核動物に及ぼす影響
金医大結研年報, 6, 63, 1948.
- 岡 崎 道 也, 北 川 栄 一, 西 野 知 一 : 結核の化学療法研究 第43報 Promin, Diasone の
抗結核作用に関する追試 金医大結研年報, 6, 73, 1948.
- 寺 内 万 寿 三, 坂 戸 正 明, 松 谷 功 : 放線状菌の抗菌性物質に就て 第1報 蒐集菌株の
分類並に生物学的性状 金医大結研年報, 6, 81, 1948.
- 坂 戸 正 明 : 放線状菌の抗菌性物質に就て 第2報 Actinomyces griseoflavus の一株の抗菌性物質
産生に就て 金医大結研年報, 6, 91, 1948.
- 坂 戸 正 明 : 放線状菌の抗菌性物質に就て 第3報 Actinomyces griseoflavus の一株の抗菌性物質
精製に就て 金医大結研年報, 6, 97, 1948.
- 日 置 陸 奥 夫 : 抗菌性物質作用の増強に関する研究 序文 金医大結研年報, 6, 105, 1948.
- 岡 部 庄 英 : 抗菌性物質作用の増強に関する研究 第1報 黄色ブドウ状球菌に対するペニシリンと
各種薬物との共同作用に就て 金医大結研年報, 6, 107, 1948.
- 佐々木 高 伯 : 抗菌性物質作用の増強に関する研究 第2報 ゼフテリア菌に対する「ペニシリン」
作用の Pyrimison に依る増強 金医大結研年報, 6, 129, 1948.
- 高 森 正 章 : 結核化学療法の基礎的研究 第13報 健常海溟血液を「メジウム」とする全血培養法に
よる「オルトアミノフェノール」並に類似化合物の結核菌発育阻止効力に就ての検討
金医大結研年報, 6, 127, 1948.
- 高 森 正 章 : 結核化学療法の基礎的研究 第14報 「オルトアミノフェノール」並に類似化合物の
皮下注射海溟血液に就ての全血法による結核菌発育阻止試験 金医大結研年報, 6,
149, 1948.
- 小 林 喜 順 : 結核化学療法の基礎的研究 第15報 人体に対する“三〇三”一製剤の大量筋肉内注射
の影響に就て 金医大結研年報, 6, 161, 1948.
- 越 村 三 郎 : 結核化学療法の基礎的研究 第16報 Aminophenol 類就中 α -Aminophenol- β -glycoside
の合成(其の一) 金医大結研年報, 6, 173, 1948.
- 岡 本 肇 : 結核化学療法の実験的研究 第2報 英文 金医大結研年報, 6, 183, 1948.
- 岡 見 富 雄 : 結核化学療法の基礎的研究 第17報 α -Aminophenol 系誘導体並に諸他有機化合物の
結核菌の発育に対する影響関係に就ての検索 金医大結研年報, 6, 219, 1948.
- 笹 島 吉 平 : 結核性疾患に対する「三〇三-W」製剤の臨床実験 金医大結研年報, 6, 225, 1948.
- 鈴 木 茂 一 : 肺結核に対する“303”治療に就て 日本臨床結核, 7, 534, 1948.
- 岡 本 肇 : 細菌性疾患に対する化学療法の研究を顧みて 日新医学, 35, 1, 1948.

- 岡見 富雄 : Tetrabromo-2, 2'-dihydroxyazobenzene の溶血作用について 日本薬理学雑誌, 43, 116, 1948.
- 大滝 武男 : 桑白皮の成分 第1報 薬学雑誌, 68, 287, 1948.
- 大滝 武男 : 桑白皮の成分 第2報 薬学雑誌, 68, 289, 1948.
- 川口 武 : Tubermicine に関する研究 第6報 *P. chlorophaeum* Bioutge No.84 産生抗結核菌物質 金医大結研年報, 7(上), 1, 1948.
- 岡部 庄英 : Tubermicine に関する研究 第7報 Tubermicine 産生の各種光線照射に依る影響 金医大結研年報, 7(上), 5, 1948.
- 今井 照英, 田中 克彦 : 抗菌物質作用の増強に関する研究 第3報 肺炎双球菌(第一型菌)に対する「ペニシリン」と各種ヒノン体化合物との共同効果に就て 金医大結研年報, 7(上), 13, 1948.
- 越村 三郎, 越浦 良三 : 結核化学療法の基礎的研究 第18報 Phenoxazine 系誘導体の合成 金医大結研年報, 7(上), 19, 1948.
- 高橋 吉男 : 特異なる経過を取りし粟粒結核症の一例 金医大結研年報, 7(上), 27, 1948.
- 北川 栄一 : 結核の化学療法研究 第44報 Sulfone 型及びEther型化合物の試験管内結核菌発育阻止作用に就て 附. 4'-Brom-3-amino-4-acetylaminodiphenylether の人型結核菌発育阻止の特異性 金医大結研年報, 7(上), 35, 1948.
- 井出 通夫 : 結核の化学療法研究 第45報 Pyrimidin 誘導体の合成 附. Pyrimison の抗結核作用実験 金医大結研年報, 7(上), 47, 1948.
- 林 栄一 : 駆虫薬に関する基礎的研究 第一報 ヒノン, テモール, ナフタリン及びフェソール系物質並に諸他化合物の蚯蚓に対する影響に就て 金医大結研年報, 7(上), 51, 1948.
- 趣村 三郎 : 結核化学療法の基礎的研究 第21報 β -o-Aminophenol-d-glycoside Azo-Protein 誘導体の合成に就て 金医大結研年報, 7(上), 59, 1948.
- 高森 正章, 洲崎 元丸, 蓮谷 信也 : 結核化学療法の基礎的研究 第19報 "303"-製剤を皮下注射した海猿の血清に就ての結核菌発育阻止力の測定試験 金医大結研年報, 7(上), 63, 1948.
- 高森 正章, 小林 喜順, 機動 嘉晃 : 結核化学療法の基礎的研究 第20報 o-Aminophenol 溶液を注腸した海猿血液の結核菌発育阻止作用に就ての検索 金医大結研年報, 7(上), 69, 1948.
- 倉金 丘一 : 麴「カビ」の抗菌性物質に就て 第1報 *Aspergillus flavus* No. 34 の抗結核菌性物質産生に就て 金医大結研年報, 7(上), 73, 1948.
- 倉金 丘一 : 麴「カビ」の抗菌性物質に就て 第2報 *Aspergillus flavus* No. 34 の抗結核菌性物質に就て 金医大結研年報, 7(上), 79, 1948.
- 紺田 智久 : 抗菌性物質の作用増強に関する研究 第4報 黄色ブドウ球菌並に溶血性連鎖状球菌に対する Penicillin と Quinone 誘導体並に Sulfamide 誘導体との協同作用 金医大結研年報, 7(上), 85, 1948.
- 佐伯 恂一 : 抗菌性物質の作用増強に関する研究 第5報 肺炎菌に対する「ペニシリン」作用の他薬物に依る増強に就て 金医大結研年報, 7(上), 103, 1948.
- 洲崎 元丸 : 結核化学療法の基礎的研究 第23報 "303"-製剤を皮下に注射した海猿胆汁の結核菌発育阻止作用に就ての検索 金医大結研年報, 7(上), 121, 1948.
- Ito, R., Okami, T., Yoshimura M., and Sagara, S. :
The Inhibition of the pyrogenes by o;o'-Dihydroxyazobenzene and Related Compound. Japan. Med. J., 1, 260, 1948.
- Okamoto, H. : Experiments on the Chemotherapeutic Effect of o-Aminophenol Upon Tubercle Bacilli. Japan. Med. J., 1, 422, 1948.

Ito, R. and Koshimura, S. : Experimental Study on the Influence of Azo-Tubeculin upon Guinea-pigs Infected with Tubercle Bacilli (Preliminary Report) Japan. Med. J., 1, 427, 1948.

1949

- 相良貞正 : 結核化学療法の基礎的研究 第22報 *o*-Aminophenol 系誘導体並に諸他化合物の結核菌に対する試験管内菌発育阻止作用に就ての検索 金医大結研年報, 7(下), 1, 1949.
- 相良貞正, 藤田繁松, 越浦良三, 越村三郎 : 結核化学療法の基礎的研究 第24報 Phenoxazine 系誘導体の結核菌に対する菌発育阻止作用に就ての検索 金医大結研年報, 7(下), 7, 1949.
- 田中克彦 : 結核の化学療法研究 第46報 Phenthsain 系物質の人型結核菌発育阻止作用に就て(追報) 金医大結研年報, 7(下), 11, 1949.
- 更田康彦 : 結核血清反応に関する研究 金医大結研年報, 7(下), 15, 1949.
- 田中克彦 : 結核の化学療法研究 第47報 Quinones, Hydrocarboxylic Acids 及び Coumarin 系物質の人型結核菌発育阻止作用に就て 金医大結研年報, 7(下), 37, 1949.
- 田村豊 : 結核の化学療法研究 第48報 テトロン酸誘導体その他2, 3オキシ酸の結核菌発育阻止作用 金医大結研年報, 7(下), 45, 1949.
- 北川栄 : 結核の化学療法研究 第49報 *P*-Brom-*m'*-Amino-*p'*-Acetylaminodiphenylether に関する動物実験 金医大結研年報, 7(下), 41, 1949.
- 岡崎道也 : 結核の化学療法研究 第50報 チアゾール系スルホン化合物の合成 (1) 金医大結研年報, 7(下), 55, 1949.
- 岡崎道也 : 結核の化学療法研究 第51報 チアゾール系スルホン化合物の合成 (2) 金医大結研年報, 7(下), 59, 1949.
- 吉村政弘 : 各種細菌に対する Oxychloromercuri-Safrole 及び Oxyiodomercuri-Safrole の試験管内菌発育阻止作用に就て 金医大結研年報, 7(下), 67, 1949.
- 洲崎元丸 : 結核化学療法の基礎的研究 第25報 “303”-製剤を皮下注射した家兔の腸内液に就ての結核菌発育阻止力試験 金医大結研年報, 7(下), 81, 1949.
- 大道寺幸雄 : 放線菌の抗菌性物質に就て 第8報 ストレプトマイシン産生株に就て 金医大結研年報, 7(下), 87, 1949.
- 小島博 : 放線菌の抗菌性物質に就て 第9報 ストレプトマイシン産生増強に関する研究 金医大結研年報, 7(下), 93, 1949.
- 田村豊 : 抗菌性物質作用の増強に関する研究 第8報 結核菌に対する「ストレプトマイシン」と他薬物との相乗作用 金医大結研年報, 7(下), 99, 1949.
- 洲崎元丸 : 結核化学療法の基礎的研究 第26報 “303”-製剤を皮下注射した家兔の尿に就ての結核菌発育阻止力試験 金医大結研年報, 7(下), 109, 1949.
- 鈴木茂一 : 結核化学療法の臨床的研究 第2報 肺結核(外来患者)に対する“303”-製剤の治療成績に就て 金医大結研年報, 7(下), 113, 1949.
- 鈴木茂一 : 結核化学療法の臨床的研究 第3報 肺結核に対する“303”-製剤の衝撃的療法に就て 金医大結研年報, 7(下), 123, 1949.
- 小林喜順 : 感光系有機色素の細菌の発育阻止に就て 第1報 感光系有機色素の結核菌に対する菌発育阻止作用に就ての検索 金医大結研年報, 7(下), 129, 1949.
- 越村三郎, 越浦良三 : 結核化学療法の基礎的研究 第27報 体液中の *o*-Aminophenol の検出並に定量に関する研究(其の一) Indophenol 反応応用による比色法 金医大結研年報, 7(下), 135, 1949.
- 野村欽一 : 結核免疫に関する研究 第5報 結核菌より抽出せる多糖類の活性に就て

- 金医大結研年報, 7(下), 141, 1949.
- 野村 欽一 : 結核免疫に関する研究 第6報 結核免疫上結核菌体多糖類に対する沈降素発生の占むる位置に就て 金医大結研年報, 7(下), 153, 1949.
- 野村 欽一 : 結核免疫に関する研究 第7報 結核菌多糖類による皮膚反応の消長 金医大結研年報, 7(下), 165, 1949.
- 岡部 庄英 : 抗菌性物質作用の増強に関する研究 第9報 黄色葡萄状球菌感染動物に対する「ペニシリン」と2, 3薬物の相乗効果に就て 金医大結研年報, 8(上), 1, 1949.
- 佐伯 恂一 : 抗菌性物質作用の増強に関する研究 第10報 肺炎菌感染動物に対する2, 3薬物との相乗作用について 金医大結研年報, 8(上), 11, 1949.
- 井出 通夫 : p-Aminosalicylic Acid の合成法に就て 金医大結研年報, 8(上), 19, 1949.
- 紺田 智久 : 抗菌性物質作用の増強に関する研究 第11報 溶血性連鎖状球菌感染動物に対する2, 3薬物のペニシリン作用増強に就て 金医大結研年報, 8(上), 23, 1949.
- 相良 貞正 : 結核化学療法の基礎的研究 第27報 Streptomycin, o-Aminophenol 並に p-Aminosalicylic acid の結核菌に対する菌発育阻止力の比較研究 金医大結研年報, 8(上), 33, 1949.
- 島尾 二 : BCG 接種による免疫に関する研究 金医大結研年報, 8(上), 51, 1949.
- 田中 克彦 : 結核の化学療法研究 第52報 Sulfathiazole 系化合物の人型結核菌発育阻止作用に就て 金医大結研年報, 8(上), 67, 1949.
- 藤田 繁松 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin Derivative の薬理学的研究 金医大結研年報, 8(上), 77, 1949.
- 由利 健三 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin と Old Tuberculin の人体に於ける皮膚反応に関する比較実験 金医大結研年報, 8(上), 85, 1949.
- 吉村 政弘 : 結核化学療法の基礎的研究 第28報 金医大結研年報, 8(上), 107, 1949.
- 蔵 尚之 : 結核免疫に関する研究 第1報 人型結核菌々体蛋白の免疫学的性状に関する研究 第1篇 人型結核菌々体蛋白の分離に就て 金医大結研年報, 8(上), 113, 1949.
- 大山 馨 : 結核免疫に関する研究 第2報 喰菌現象に関する基礎的研究 第1篇 各種薬物並に放射線の結核菌喰菌現象に及ぼす影響に関する実験的研究 金医大結研年報, 8(上), 121, 1949.
- 岡本 肇 : オルトアミノフェノールアゾツベルクリンに就て 医学通信, 4, 3, 1949.
- 岡本 肇, 相良 貞正, 藤田 繁松 : 「デュボー」培地に於ける「オルト・アミノフェノール」並に類似化合物の結核菌に対する菌発育阻止力試験 基礎と臨床, 3, 107, 1949.
- 藤田 繁松 : 2,2'-Dihydroxy-azobenzene の薬理学的研究 日本薬理学雑誌, 44, 49, 1949.
- 大滝 武男 : 台湾産ジギダリス葉の力価 第2報 小標本論に基けるフオツケ数の検討 薬学雑誌, 69, 215, 1949.
- 大滝 武男 : 水鶏 (Chú-Koe) の脂肪体の成分研究 薬学雑誌, 69, 217, 1949.
- 大滝 武男 : ヘリグロヒキガエル Bufo melanos tictns Schneder の脂肪体の成分 薬学雑誌, 69, 221, 1949.
- Ito, R., Koshimura, S. and Fujita, S. : On the Hemolytic Action of o-Aminophenol Azo-protein Derivatives. Jap. Med. J., 2, 130, 1949.
- Ito, R. and Koshimura, S. : Experimental Study on the Influence of Azo-Tuberculin upon Guinea-pigs Infected with Tubercle Bacilli
Part II. Isolation of the o-Aminophenol Azo-Tuberculin Derivative from "Sauton's Synthetic-medium Old Tuberculin" Jap. Med. J., 2, 185, 1949.
- Sagara, S., Takamori, M. and Ito, R. : Some Comparative Experiments on the Effect of Streptomycin and o-Aminophenol Upon the Tubercle Bacilli. Jap. Med. J., 2, 149, 1949.

Sagara, S., Takamori, M., Ito, R., Koshimura, S. and Koshiura, R. : A Comparative Tuberclo-bacteriostatic Study of o-Aminosalicylic Acid and 5-Aminosalicylic Acid.
 Jap. Med. J., 2, 195, 1949.

1950

- 大道寺 幸 雄 : 放線菌の抗菌性物質に就て 第11報 Streptomycin 生産「兼六株」よりの単孢子分離に就て 金医大結研年報, 8(下), 1, 1950.
- 大道寺 幸 雄 : 放線菌の抗菌性物質に就て 第12報 兼六株産生抗生物質の精製及其の識刷 金医大結研年報, 8(下), 5, 1950.
- 大道寺 幸 雄 : 放線菌の抗菌性物質に就て 第13報 兼六株に依るストレプトマイシン生産培地に関する研究 金医大結研年報, 8(下), 10, 1950.
- 田 村 豊 : 結核の化学療法研究 第53報 Sulzolin の人型結核菌発育阻止に就て 金医大結研年報, 8(下), 18, 1950.
- 大 山 馨 : 結核免疫の研究 第2報 喰菌現象に関する基礎的研究 第2篇 結核菌製剤並に各種ツベルクリンの喰菌現象に及ぼす影響に関する実験的研究 金医大結研年報, 8(下), 23, 1950.
- 岡 崎 道 也 : 結核の化学療法研究 第55報 チアゾール系スルフォン化合物の合成(3) 金医大結研年報, 8(下), 39, 1950.
- 岡 崎 道 也 : 結核の化学療法研究 第56報 チアゾール系スルフォン現象化合物に就て 金医大結研年報, 8(下), 46, 1950.
- 藏 尚 之 : 結核免疫に関する研究 第1報 人型結核菌々体蛋白の免疫学的性状に関する研究 第2篇 結核菌々体蛋白及び o-Aminophenol Azo-Tbc.-Protein の皮膚反応に関する比較実験 金医大結研年報, 8(下), 52, 1950.
- 秋 山 舜 一, 小 西 健 一 : 結核菌培養に関する研究 第1報 金医大結研年報, 8(下), 62, 1950.
- 吉 村 政 弘 : 2:2'-Dihydroxyazobenzene による 溶血性連鎖状球菌の 独自の静菌現象に関する研究 金医大結研年報, 8(下), 71, 1950.
- 田 村 豊 : 結核の化学療法研究 第57報 実験的結核に於ける Sulzolin並びに Sulzolin, Streptomycin の併用効果 金医大結研年報, 8(下), 89, 1950.
- 笹 島 吉 平 : 「フィルム培地上の腸内細菌に対する」レ線の影響 第1報 大腸菌に就ての観察 金医大結研年報, 8(下), 107, 1950.
- 笹 島 吉 平 : 「フィルム培地上の腸内細菌に対する」レ線の影響 第2報 チフス菌に就ての観察 金医大結研年報, 8(下), 115, 1950.
- 笹 島 吉 平 : 「フィルム培地上の腸内細菌に対する」レ線の影響 第3報 パラチフスA菌に就いての観察 金医大結研年報, 8(下), 123, 1950.
- 中 田 尚 : 齶蝕乳酸菌に関する研究 第1篇 金医大結研年報, 8(下), 130, 1950.
- 小 林 喜 順, 洲 崎 元 丸, 寺 治 夫, 吉 川 英 一, 東 野 音 信 : 結核化学療法 of 臨床的研究 第4報 肺結核に対する“303”-製剤による 衝撃的或は静脈内持続的点滴投与の成績について 金医大結研年報, 8(下), 157, 1950.
- 東 野 音 信 : 結核化学療法 of 臨床的研究 第5報 肺結核患者空洞内への o-Aminophenol 投与経験に就いて 金医大結研年報, 8(下), 170, 1950.
- 小 林 喜 順, 村 沢 健 介, 東 野 音 信 : 結核化学療法 of 臨床的研究 第6報 肺結核に対する外科的療法と“303”-治療の併用成績に就て 金医大結研年報, 8(下), 175, 1950.

- 岡本 肇 : 第25回 日本結核病学会特別講演要旨 (英文) 金医大結研年報, 8 (下), 184, 1950.
- 伊藤 亮, 越村 三郎, 宮城 正, 高他 実 : アゾツベルクリンの実験的結核海溼に対する影響に関する研究 第3報 Para-Aminophenol Azo-Tuberculin Derivative の調節と其の結核海溼に対するツベルクリン皮膚反応力に就ての実験 金大結研年報, 9 (上), 1, 1950.
- 北川 栄一 : 結核の化学療法研究 第58報 人型結核菌に対する強力発育阻止物質の単独並に併用試験管内殺菌力比較試験 金大結研年報, 9 (上), 7, 1950.
- 村田 義平 : 結核の化学療法研究 第59報 Sulzolin の吸収, 排泄及醋化に就て 金大結研年報, 9 (上), 22, 1950.
- 村田 義平 : 結核の化学療法研究 第60報 Sulzolinglucose の吸収, 排泄及醋化に就て 金大結研年報, 9 (上), 41, 1950.
- 越浦 良三 : 結核化学療法の基礎的研究 第30報 o-Aminophenol を母体とした 3-oxo-phenmorpholine 誘導体の合成 (附: 結核菌発育阻止力試験成績) 金大結研年報, 9 (上), 48, 1950.
- 笹島 吉平 : 「フィルム培地上の腸内細菌に対する」レ線の影響 第4報 赤痢菌に就いての観察 金大結研年報, 9 (上), 51, 1950.
- 相良 貞正, 石田 敏夫, 秋山 澄, 直井 長朗, 宮地 知男, 湯浅 俊男 : 結核化学療法の基礎的研究 第31報 NO₂ 基を有する諸種有機化合物の結核菌に対する菌発育阻止力試験 金大結研年報, 9 (上), 57, 1950.
- 山本 三郎, 北野 博 : チビオン服用中に偶発せるミリアン・ツアング症候群の1例 金大結研年報, 9 (上), 66, 1950.
- 大山 馨 : 結核免疫に関する研究 第2報 噴菌現象に関する基礎的研究 第3篇 人型結核菌並びに B.C.G. 接種海溼及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin 反復注射海溼の噴菌現象に関する実験的研究 金大結研年報, 9 (上), 70, 1950.
- 大山 馨 : 結核免疫に関する研究 第2報 噴菌現象に関する基礎的研究 第4篇 結核海溼噴菌現象に及ぼす o-Aminophenol Azo-Tuberculin 並びに o-Aminophenol Azo-Tbc. Protein の影響に関する実験的研究 金大結研年報, 9 (上), 75, 1950.
- 由利 健三, 大山 馨 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第2報 p-Aminophenol 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin 並びに P.P.D. と Old Tuberculin の人体に於ける皮膚反応に関する比較実験 金大結研年報, 9 (上), 80, 1950.
- 蔵 尚之 : 結核免疫に関する研究 第1報 人型結核菌々体蛋白の免疫学的性状に関する研究 第3篇 結核菌蛋白及び o-Aminophenol Azo 結核菌蛋白の抗原性及び免疫原性に就て 金大結研年報, 9 (上), 86, 1950.
- 東野 音信 : 結核化学療法の臨床的研究 第7報 o-Aminophenol の結核菌並に Streptomycin 耐性株に対する感受性に就て 金大結研年報, 9 (上), 108, 1950.
- 寺 治夫 : 結核化学療法の臨床的研究 第8報 o-Aminophenol の血液脳脊髄液関門通過に就て 金大結研年報, 9 (上), 119, 1950.
- 白木 光雄, 鳥 崎 実 : 肺結核に対する“303”-治療成績 金大結研年報, 9 (上), 127, 1950.
- 柿下 正道 : 結核の新しい研究 (講演内容) 金沢市衛生部医学研究業績集, 1, 1, 1950.
- 高島 弥生, 由利 健三, 山田 良行, 杉林 篤之, 佐々木 芳二, 中川 松雄, 土用下 和宏 : 肺結核患者の Tbl 療法の経験 金沢市衛生部医学研究業績集, 1, 20, 1950.
- 笹島 吉平 : 平和町及び材木町校下検診成績比較 金沢市衛生部医学研究業績集, 1, 35, 1950.
- 一林 なを : 平和町保育所収容幼児の検診について 金沢市衛生部医学研究業績集, 1, 44, 1950.

- 土用下 和 宏, 山 田 良 行, 平 野 秀 一, 山 下 文 雄 : 結核菌培養に関する研究
金沢市衛生部医学研究業績集, 1, 51, 1950.
- 山 田 良 行 : 結核菌スライド培養の応用について 金沢市衛生部医学研究業績集, 1, 56, 1950.
- 岡 本 肇 : 「オルト・アミノフェノール」を中心にして展開した結核に対する化学療法的並びに免疫化学的研究 結核, 25, 372, 1950.
- Koshimura, S. : Synthesis of Hemolytic Active Azo-Histidine and Azo-Tyrosine Derivatives. Bis-(2'-Hydroxy-3', 5'-dibromobenzenazo) -N^α-benzoyl-L-histidine and Bis-(2'-Hydroxy-3', 5'-dibromobenzeneazo) -N^α-benzoyl-L-tyrosine. Jap. J. Exp. Med., 21, 343, 1950.
- Okamoto, H. : The Preparation and Properties of the o-Aminophenol Azo-Tuberculin Derivatives. Jap. Med. J., 3, 31, 1950.
- Yamazaki, H. : In Vitro Experiments on the Tuberculo-bacteriostatic Activity of o-Aminophenol, p-Aminosalicylic Acid, Streptomycin and Tibione in the Presence of p-Aminobenzoic Acid. Jap. Med. J., 3, 299, 1950.
- Ito, R., Miyagi, T. and Kishi, T. : Experimental Study on the Influence of Azo-Tuberculin upon Guinea-pigs Infected with Tubercle Bacilli. Part IV Comparative Study on the Skin-Reacting Potencies of o-Aminophenol Azo-Tuberculin Derivatives of Different Strains of Mycobacterium Tuberculosis. Jap. Med. J., 3, 373, 1950.

1951

- 越 村 三 郎 : o-Aminophenol 系 Azo 蛋白誘導体の化学的並びに薬理学的研究 第1報 o-Aminophenol-Azo 蛋白体の調製並びに其の Azo 化程度と溶血性獲得度との関係に就ての検索 金大結研年報, 9(下), 1, 1951.
- 越 村 三 郎 : o-Aminophenol 系 Azo蛋白誘導体の化学的並びに薬理学的研究 第2報 4,6-Dibromo-2-aminophenol Azo 蛋白体の調製並びに其の Azo 化程度と溶血性獲得度との関係に就ての検索 金大結研年報, 9(下), 21, 1951.
- 大 山 馨, 中 田 尚 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第3報 “粉末ツベルクリン” と旧ツベルクリンの人体に於ける皮膚反応に関する比較実験 金大結研年報, 9(下), 39, 1951.
- 大 山 馨 : 結核免疫に関する研究 第2報 喉菌現象に関する基礎的研究 (全篇の総括並びに結論) 金大結研年報, 9(下), 42, 1951.
- 藏 尚 之, 秋 山 舜 一 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第4報 o-Aminophenol Azo-Tuberculin と Old Tuberculin の人体に於ける皮膚反応に関する研究——特に反応の強さと性及び年齢について—— 金大結研年報, 9(下), 44, 1951.
- 寺 内 万寿三 : 結核の化学療法研究 第61報 実験的結核に於ける PAS 並びに Sulzolin 併用実験 金大結研年報, 9(下), 49, 1951.
- 三 崎 孝 藏 : 結核の化学療法研究 第62報 抗結核剤 PAS, Tibione に依る Slide-Cell-Culture 試験成績 金大結研年報, 9(下), 69, 1951.
- 北 川 栄 一 : 結核の化学療法研究 第63報 Sulzolinglucoside と Streptomycin 或は PAS との併用動物実験 金大結研年報, 9(下), 79, 1951.
- 中 田 尚 : 齶蝕乳酸桿菌に関する研究 第2編 腔桿菌と齶蝕乳酸桿菌培養濾液及び乳酸の健康歯牙に及ぼす影響に就て 金大結研年報, 9(下), 85, 1951.
- 中 田 尚 : 齶蝕乳酸桿菌に関する研究 第3編 金大結研年報, 9(下), 87, 1951.

- 笹島吉平：O.M.軟膏をもつてするBCG潰瘍治療とそれがツベルクリン反応に及ぼす影響に就て
金大結研年報，9(下)，111，1951.
- 越村三郎，清水隆作，山崎初美，大西淳：結核化学療法の基礎的研究
第32報 o-Aminophenol の β -Glycoside 合成並に夫等物質を以ての結核菌発育阻止
試験 金大結研年報，9(下)，117，1951.
- 杉林篤之，竹内肇：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第6報 o-Aminophenol
Azo-Tuberculin の力価に及ぼす理化学的影響に就て 金大結研年報，9(下)，124，1951.
- 吉村政弘，大西淳，湯浅俊男：o-Aminophenol azo-protein derivatives の肺炎
双球菌，溶血性連鎖球菌，黄色葡萄球菌並びに普通大腸菌に対する発育阻止作用
の検索 金大結研年報，9(下)，132，1951.
- 中田尚：鱗蝕乳酸桿菌の Brom-cresol-green dextrose agar 培地に於ける発育所見に就て
金大結研年報，9(下)，135，1951.
- 林栄一，山崎初美，石田敏雄：結核化学療法の基礎的研究 第33報 p-Acetyl-amino-
benzaldehyde thiosemicarbazone (Tibione)，2-(4-Nitrobenzalamino)-phenol 及
び o-Aminophenol-N-lactoside の実験的結核海狸に対する影響に就ての検索
金大結研年報，9(下)，138，1951.
- 中田尚：乳酸桿菌の Gram 染色性に就て 金大結研年報，9(下)，144，1951.
- 宮城正：諸種動物の赤血球に対する o-Aminophenol Azo-Tuberculin Derivatives 並びに
o-Aminophenol Proteins の溶血効果の検索 第11報 金大結研年報，9(下)，147，1951.
- 寺治夫：結核化学療法の基礎的研究 第34報 o-Aminophenol の生体分布に関する実験的研究
(2,6-Dibromo-4-aminophenol の o-Aminophenol 比色定量への応用) 金大結研年報，
9(下)，153，1951.
- 小林喜順，白崎哲郎，竹村真二：結核化学療法の基礎的研究 第35報 Streptomycin，
PAS，Tibione 及び o-Aminophenol の実験的結核症に対する治療効果(その1)
金大結研年報，9(下)，166，1951.
- 角谷修夫：結核化学療法の基礎的研究 第36報 「オルト・アミノフェノール」，「パラアミノサ
ルチル酸」，「ストレプトマイシン」並びに「チビオン」の結核菌に対する殺菌並びに
静菌性に関する比較研究(その1) 金大結研年報，9(下)，188，1951.
- 大滝武雄：結核化学療法の基礎的研究 第37報 “303”-製剤投与入尿中よりの o-Acetylaminophe-
nol の分離に就て 金大結研年報，9(下)，195，1951.
- 吉川英一：結核化学療法の臨床的研究 第9報 o-Aminophenol 及び p-Aminosalicic acid を経
口投与した生体の血清並びに尿の結核菌発育阻止作用に就ての比較検索 金大結研年報，
9(下)，197，1951.
- 吉川英一，直江寛，白崎哲郎：結核化学療法の臨床的研究 第10報 o-Aminophenol
及び“303”-製剤投与肺結核患者に於ける肝機能に就て 金大結研年報，9(下)，216，1951.
- 寺治夫，吉川英一，機動嘉晃：感光系有機色素の細菌の発育阻止に就て 第2報
Brilliant Green の各種細菌に対する発育阻止作用に就ての試験 金大結研年報，9
(下)，225，1951.
- Y. Yamada and T. Megawa：A Note to the Erythrocyte Sedimentation Rate Test on Tuberculosis
Patients Under o-Aminophenol Treatment 金大結研年報，9(下)，241，1951.
- Y. Yamada：Tuberculo-Bacteriostatic Estimations of Serum and Urine after Oral Administration
of o-Aminophenol，p-Aminosalicic Acid or Tibione，and After Intramuscular
Administration of Streptomycin 金大結研年報，9(下)，247，1951.

- K. Kobayashi, S. Takemura and T. Shirasaki : Some Noths on the Anitubercular Activity of *o*-Aminophenol in Experimental Tuberculosis 金大結研年報, 9(下), 251, 1951.
- 藏 尚 之, 秋 山 舜 一, 平 野 秀 一, 四 蔵 一 夫 : *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第5報 *o*-Aminophenol-Azo-Tuberculin の応用に関する臨床的研究 金大結研年報, 10(上), 1, 1951.
- 大 山 馨, 秋 山 舜 一, 小 西 健 一, 由 利 健 三, 柳 下 靱 男, 粟 津 喜 久 夫 : *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第7報 B.C.G. 接種後の経過に伴う Old Tuberculin と *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin の皮膚反応に関する比較実験 金大結研年報, 10(上), 5, 1951.
- 林 栄 一, 石 田 敏 雄, 藤 田 繁 松 : 駆虫薬に関する基礎的研究 第2報 Nitrophenol-, Salicylic acid-, Nitrophenoxazine-, Nitrodiphenylamine-, Thymol-系誘導体の蚯蚓に対する影響に就て 金大結研年報, 10(上), 10, 1951.
- 林 栄 一, 石 田 敏 雄 : 駆虫薬に関する基礎的研究 第3報 Nitrophenol 誘導体並びに諸他有機化合物の蚯蚓に対する影響に就て 金大結研年報, 10(上), 16, 1951.
- 林 栄 一, 石 田 敏 雄 : 駆虫薬に関する基礎的研究 第4報 4-Iodo-3-methyl-1-oxy-6-isopropylbenzene (or 4-Iodo-, -thymol) 及び Halogene-nitrophenol 誘導体の豚蛔虫に対する影響に就て 金大結研年報, 10(上) 19, 1951.
- 佐々木 芳 二 : *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第8報 *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin を以てせる吉田氏反応に就て (臨床的研究) 金大結研年報, 10(上), 30, 1951.
- 佐々木 芳 二 : *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第11報 *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin を以てせる Pirquet氏反応に就て 金大結研年報, 10(上), 40, 1951.
- 西 野 知 一 : 結核の化学療法研究 第64報 Streptomycin 抵抗株感染に対する Sulzolin の PAS 或は Streptomycin 併用効果に就て 金大結研年報, 10(上), 44, 1951.
- 三 崎 孝 蔵 : 結核の化学療法研究 第65報 S.C.C. 試験に依る PAS, Streptomycin, Tibione に対する Sulzolin の併用効果に就て 金大結研年報, 10(上), 67, 1951.
- 村 田 義 平 : 結核の化学療法研究 第66報 Pazol の経口的投与に於ける血液中の推移に就て 金大結研年報, 10(上), 74, 1951.
- 三 枝 博 : 結核免疫に関する研究 第8報 抗結核療剤を以て処置せる結核死菌ワクチンの予防接種効果に就て 金大結研年報, 10(上), 83, 1951.
- 笹 島 吉 平 : 結核菌のフィルム培養に関する研究 第1報 鳥型結核菌のフィルム培地上に於ける発育状態とその染色性に関する実験 金大結研年報, 10(上), 113, 1951.
- 笹 島 吉 平 : 結核菌のフィルム培養に関する研究 第2報 人型結核菌変異株 B.O.K. の発育形態の観察 金大結研年報, 10(上), 119, 1951.
- 秋 山 舜 一 : 結核免疫に関する研究 第3報 人型結核菌々体磷脂質及び多糖類の免疫学的性状に関する研究 第1篇 人型結核菌々体磷脂質及び多糖類の抽出法に就て 金大結研年報, 10(上), 125, 1951.
- 秋 山 舜 一 : 結核免疫に関する研究 第3報 人型結核菌々体磷脂質及び多糖類の免疫学的性状に関する研究 第2篇 人型結核菌々体磷脂質及び多糖類の皮膚反応に関する比較実験 金大結研年報, 10(上), 133, 1951.
- 松 田 知 夫, 中 川 栄 一, 吉 田 清, 四 蔵 一 夫, 鷲 崎 実 : 微毒血清反応の統計的観察 金大結研年報, 10(上), 146, 1951.

- 桐 沢 契 二 : 妊娠の生体防衛機能に関する研究 第1報 妊娠分娩及び産褥時に於ける結核菌喰菌現象に就て 金大結研年報, 10 (上), 163, 1951.
- 大 山 馨, 女 川 徹, 平 野 秀 一, 鳥 崎 実 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第12報 金大結研年報, 10 (上), 183, 1951.
- 山 崎 初 美, 貴 志 精 義, 高 他 実 : 結核化学療法の基礎的研究 第38報 2-(4-Acetylaminobenzylideneamino)-phenol, 2-(4-Dimethylaminobenzylideneamino)-phenol 及び o-Aminophenol-N-L-rhamnoside の実験的結核海溟に関する影響に就て 金大結研年報, 10 (上), 188, 1951.
- 小 林 喜 順, 角 谷 修 夫, 白 崎 哲 郎, 竹 村 真 二, 鍋 木 護 郎, 毛 笠 昇 : 結核化学療法の基礎的研究 第38報 Streptomycin, PAS, Tibione 及び o-Aminophenol 等の実験的結核症に対する治療効果(其の2) 金大結研年報, 10(上), 193, 1951.
- 東 野 音 信, 角 谷 修 夫, 鍋 木 護 郎 : 結核療法 of 臨床的研究 第11報 空洞性肺結核に対する外科的虚脱療法に併用せしめた o-Aminophenol 療法の臨床的效果に就て 金大結研年報, 10 (上), 214, 1951.
- 東 野 音 信 : 結核化学療法 of 臨床的研究 (綜説と教室に於ける成績) 肺結核 of 外科的療法と化学療法特に o-Aminophenol 療法との併用に就て 金大結研年報, 10(上), 221, 1951.
- 大 滝 武 雄 : ヘリグロヒキガエル *Bufo melanostictus* SHNEIDER の脂肪体, 卵巣及び睪丸 of 脂肪について 薬学雑誌, 71, 741, 1951.
- 大 滝 武 雄 : ヘリグロヒキガエル *Bufo melanostictus* SHNEIDER の睪丸油について 薬学雑誌, 71, 742, 1951.
- 大 滝 武 雄 : ヘリグロヒキガエル *Bufo melanostictus* SHNEIDER 卵巣油成分の研究, 第1報 薬学雑誌, 71, 743, 1951.
- 大 滝 武 雄 : 同, 第2報 同誌, 71, 744, 1951.
- 大 滝 武 雄 : 同, 第3報 同誌, 71, 747, 1951.
- 大 滝 武 雄 : 同, 第4報 同誌, 71, 751, 1951.

1952

- 佐々木 芳 二 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第9報 吉田氏反応に於ける白血球像に就て 金大結研年報, 10 (下), 1, 1952.
- 佐々木 芳 二 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第10報 o-Aminophenol Azo-Tuberculin を以てせる吉田氏反応に就て(実験的研究) 金大結研年報, 10(下), 8, 1952.
- 女 川 徹 : 結核菌培養に関する研究 第2報 第1篇 諸種物質の結核菌發育に及ぼす影響に就て 金大結研年報, 10 (下), 14, 1952.
- 大 西 淳 : Streptolysin S 溶血に関する研究 第1篇 家兔-, 蛙- 及び鶏赤血球に於ける Streptolysin S 溶血 of 顕微鏡的觀察 金大結研年報, 10 (下), 26, 1952.
- 大 西 淳 : Streptolysin S 溶血に関する研究 第2篇 Streptolysin S 溶血に影響する諸種要因に就て 金大結研年報, 10 (下), 37, 1952.
- 高 他 実 : Experiments on the Chemical and Biological Properties of 4,6-Dihaloid-o-Aminophenol Azo-Tuberculin 金大結研年報, 10(下), 49, 1952.
- 松 田 知 夫 : 結核菌 of 各種抗結核剤に対する耐性に関する研究 第1篇 結核菌 of S.T.M. 感受性と試験管内耐性獲得に関する実験的研究 金大結研年報, 10 (下), 61, 1952.
- 大 道 寺 幸 雄 : 放線菌 of 抗生物質に就て 第14報 兼六株による Streptomycin 生産培地に関する研究

- (続) 金大結研年報, 10 (下), 69, 1952.
- 野口照久: 結核の化学療法研究 第67報 各種 Benzaldehyde-thiosemicarbazones の人型結核菌及び鳥型結核菌に対する発育阻止作用 金大結研年報, 10 (下), 81, 1952.
- 山下賢太郎: 結核の化学療法研究 第74報 Pazol 投与後の肺結核患者喀痰中結核菌培養成績 金大結研年報, 10 (下), 89, 1952.
- 野口照久: 結核の化学療法研究 第75報 Sulzolin の生物学的検定法 金大結研年報, 10 (下), 96, 1952.
- 山下賢太郎: 結核の化学療法研究 第76報 PAS, Sulzolin その他 Sulfamin の諸剤に対する拮抗現象 金大結研年報, 10 (下), 103, 1952.
- 白鴻 鍵: 結核の化学療法研究 第79報 4-Aminosalicylic acid-5-diazo-4'-benzen-sulfamide (2)-thiazole (sulzolintype) の抗結核作用に就て 金大結研年報, 10 (下), 108, 1952.
- 吉田 清: 結核菌の物質代謝に関する研究 第1報 結核菌の呼吸に関する基礎的研究 第1篇 各種実験条件の結核菌呼吸に及ぼす影響に関する吟味 金大結研年報, 10 (下), 112, 1952.
- 貴志精義: 結核化学療法の基礎的研究 第40報 p-Aminosalicylic acid, o-Aminophenol 並びに 3-Aminophenoxazone-(2) の結核菌発育阻止力に対する 諸種生体物質の影響性に就ての検索 金大結研年報, 10 (下), 125, 1952.
- 秋山舜一: 結核免疫に関する研究 第3報 人型結核菌々体燐脂質及び多糖類の免疫学的性状に関する研究 第3篇 人型結核菌々体燐脂質及び多糖類の抗原性及び免疫原性に就て 金大結研年報, 10 (下), 147, 1952.
- 紺田 康: o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第13報 第1篇 旧ツベルクリンと o-Aminophenol Azo-Tuberculin "Human", BCG ツベルクリン及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin "BCG" との動物に於ける 皮膚反応比較実験 金大結研年報, 10 (下), 183, 1952.
- 東野音信: 結核化学療法の臨床的研究 第12報 空洞性肺結核に於ける空洞切開術と空洞内「オルト・アミノフェノール」の「タンポナーデ」に就て 金大結研年報, 10(下), 193, 1952.
- 東野音信, 角谷修夫, 岡田景俊: 結核化学療法の臨床的研究 第13報 所謂右上葉炎の治療に就て特に o-Aminophenol 治療と空洞切開との併用成績 金大結研年報, 10 (下), 208, 1952.
- 角谷修夫, 塩谷一雄, 岡本淳一: 結核化学療法の臨床的研究 第14報 o-Aminophenol 或は p-Aminosalicylic acid 投与生体流血中の抗結核菌性に及ぼす p-Aminobenzoic acid の影響に就て 金大結研年報, 10 (下), 213, 1952.
- 角谷修夫: 結核化学療法の基礎的研究 第40報 「オルト・アミノフェノール」, 「パラアミノサリチル酸」, 「チビオン」並びに類似化合物の結核菌 (H₂-株) に対する殺菌並びに静菌性に就て (其の2) 金大結研年報, 10 (下), 221, 1952.
- 奥原政雄: フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第2報 フィルム培地上の細菌発育に対する数学的解析 金大結研年報, 10 (下), 250, 1952.
- 橋本外喜三: フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第3報 フィルム培地上の細菌に対する「ラヂウム」の影響 第1篇 大腸菌に就ての観察 金大結研年報, 10 (下), 259, 1952.
- 小市政男: o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第15報 第1篇 ツベルクリン陽性率に就て 金大結研年報, 10(下), 264, 1952.

- 小 市 政 男 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第15報 第2篇 BCG 接種者の o-Aminophenol Azo-Tuberculin 及びその他各種 Tuberculin に依る皮膚反応に就て 金大結研年報, 10 (下), 272, 1952.
- 小 市 政 男 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第15報 第3篇 胸部有所見者とその Tuberculin反応に就て 金大結研年報, 10 (下), 284, 1952.
- 石 田 敏 雄 : 駆虫薬に関する基礎的研究 第5報 4-Jodo-3-methyl-1-hydroxy-6-isopropylbenzene の薬理学的研究 金大結研年報, 10 (下), 295, 1952.
- 中 島 滋 : 結核凝集反応に関する研究 第1報 感作原に関する研究 第1篇 旧ツベルクリン液中の血球凝集反応活性因子に関する吟味 金大結研年報, 10 (下), 312, 1952.
- 桐 沢 奨 二 : 妊娠の生体防衛機能に関する研究 第2報 非妊婦, 妊婦及び褥婦に於ける“粉末アゾツベルクリン”と旧ツベルクリンの皮膚反応に関する比較実験 金大結研年報, 10 (下), 316, 1952.
- 杉 林 篤 之 : 細菌々体蛋白の免疫学的研究 第1篇 腸チフス菌並にパラチフスB 菌々体蛋白の分離精製について 金大結研年報, 10 (下), 335, 1952.
- 紺 田 康 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第13報 第2篇 Old Tuberculin と o-Aminophenol Azo-Tuberculin “Human”, Old Tuberculin “BCG” 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin “BCG” との人体に於ける皮膚反応に関する比較実験 金大結研年報, 10 (下), 341, 1952.
- 小 西 健 一 : 結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射及び放射線の抗体産生と生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第1篇 チフスワクチン及びレ線の抗体産生と生体防禦力に及ぼす影響の観察 その1 チフスワクチン注射に依る抗体産生と 2, 3の白血球機能との関係 金大結研年報, 10 (下), 351, 1952.
- 越 村 三 郎, 平 田 良 三, 直 江 長 朗, 四 蔵 一 夫 : o-Aminophenol Azo- 蛋白誘導体の溶血作用に関する研究 第3報 諸種蛋白性物質の o-Aminophenol Azo-蛋白誘導体の溶血性に就ての検索 金大結研年報, 10 (下), 378, 1952.
- 鈴 木 茂 一 : 肺結核に対する o-Aminophenol 療法 北陸結核研究会雑誌, 2, 4, 1952.
- 東 野 音 信 : 肺結核の外科療法と化学療法との併用に就て 北陸結核研究会雑誌, 2, 24, 1952.
- 東 野 音 信, 角 谷 修 夫 : 肺結核空洞前処置としての空洞切開と o-Aminophenol 適用の意義について 治療, 34, 741, 1952.
- 柿 下 正 道 : o-Aminophenol 製剤の抗結核剤としての効用 結核診療室, 2, 11, 1952.
- 中 島 滋 : 旧ツベルクリン液中の血球凝集反応活性因子に関する研究 結核診療室, 3, 39, 1952.
- 蔵 尚 之, 秋 山 舜 一 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin の応用に関する臨床的研究 日本臨床結核, 11, 268, 1952.

1953

- 村 沢 健 介, 今 市 邦 太 郎, 米 田 良 蔵 : 結核化学療法の基礎的研究 第12報 o-Aminophenol の組織化学(その1) 金大結研年報, 11 (上), 1, 1953.
- 佐々木 五 郎 : 結核の化学療法研究 第80報 p-Hydrazino-phenylsulfamino-(2) thiazol の抗結核作用について 金大結研年報, 11(上), 5, 1953.
- 山下賢太郎 : 結核の化学療法研究 第82報 経口投与に依る PAZOL の実験的結核海狸に対する治療効果に就て 金大結研年報, 11 (上), 9, 1953.
- 三 枝 博 : 結核の化学療法研究 第84報 実験的結核の PAS 療法に対する「ワクチン」併用の

- 効果に就て 金大結研年報, 11(上), 25, 1953.
- 坂井俊道 : 結核の化学療法研究 第93報 諸抗結核剤の人型結核菌 H₃₇Rv・PAS 耐性株に対する
発育阻止作用比較 金大結研年報, 11(上), 39, 1953.
- 中野保二, 笹谷繁男 : 結核の化学療法研究 第96報 「パラアミノサリチル酸と諸「ビタミン」
の結核菌酸素消費に及ぼす影響に就て 金大結研年報, 11(上), 49, 1953.
- 細川勇一 : 結核の化学療法研究 第98報 人型結核菌酸素消費に及ぼす影響より観た Sulzolin の種
々なる標本並に關係薬物の活性度に就て 金大結研年報, 11(上), 61, 1953.
- 三枝博 : 結核免疫に関する研究 第9報 流動パラフィン封入 Tuberflavin 処理結核死菌ワク
チンの予防接種効果に就て 金大結研年報, 11(上), 69, 1953.
- Tadashi Miyagi : Experimental study on the Influence of Azo-Tuberculin upon Guinea Pigs
Infected with Tubercle Bacilli Part V. Experiments on the Applicability of the
Ito and Koshimura's method for Preparation of o-Aminophenol Azo-Tuberculin
from Sauton's Synthetic-Medium Old Tuberculin to Dorset's and Long's Synthetic
Medium Old Tuberculins for the Purpose of Obtaining Highly Active Azo-Tuber-
culin 金大結研年報, 11(上), 83, 1953.
- 一林なを : O-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第14報 結核感染と Old Tuberculin
並びに o-Aminophenol Azo-Tuberculin の皮膚反応に関する臨床的研究
金大結研年報, 11(上), 91, 1953.
- 吉田清 : 結核菌の物質代謝に関する研究 第1報 第2篇 結核菌の呼吸に及ぼす抗結核剤の影
響 金大結研年報, 11(上), 109, 1953.
- 直江寛 : 結核化学療法の臨床的研究 第15報 o-Aminophenol, p-Aminosalicylic acid, Tibione
並びに Streptomycin 治療肺結核患者の肝臓機能に就て 金大結研年報, 11(上), 125,
1953.
- 直江寛, 塩谷一雄, 岡本雅夫 : 結核化学療法の臨床的研究 第16報 o-Aminophe-
nol, p-Aminosalicylic acid, Tibione 並びに Streptomycin 投与肺結核患者に於ける血
漿プロトンピン値に就て 金大結研年報, 11(上), 151, 1953.
- 直江寛, 鍋木護郎, 岡本雅夫, 藤巻弥介 : 結核化学療法の臨床的研究
第17報 横膈膜神経捻除術と人工気腹術との併用効果に就て 金大結研年報, 11(上),
159, 1953.
- 今市邦太郎, 萩野卓司, 金山早苗, 藤原正義 : 結核化学療法の臨床的研究 第18報
沃度加里による喀痰結核菌の誘発に就て 金大結研年報, 11(上), 169, 1953.
- 鍋木護郎, 高野徹雄 : 結核化学療法の臨床的研究 第19報 o-Aminophenol 服用疹を認めた
特異体質に就て 金大結研年報, 11(上), 173, 1953.
- 鍋木護郎 : 結核化学療法の臨床的研究 第20報 肺軟骨腫症例に就て 金大結研年報, 11(上),
181, 1953.
- 杉林篤之 : 細菌菌体蛋白の免疫的研究 第2篇 腸チフス菌, パラチフスB菌菌体蛋白並に同アゾ
蛋白の毒性並びに皮膚反応に就て 金大結研年報, 11(上), 185, 1953.
- 四蔵一夫 : ヒヨリン長連鎖発育肺炎双球菌の免疫学的研究 金大結研年報, 11(上), 199, 1953.
- 清水隆作 : 結核化学療法の基礎的研究 第43報 o-Aminophenol 系 N-Anil 誘導体の合成 (附結
核菌発育阻止力試験) 金大結研年報, 11(下), 1, 1953.
- 白崎哲郎 : 結核化学療法の基礎的研究 第44報 p-Aminosalicylic Acid 及び o-Aminophenol に
よる流血抗菌能に及ぼす Methionine の影響に就て 金大結研年報, 11(下), 7, 1953.

- 越村三郎, 平田良三, 直井長朗, 湯浅俊男 : 結核化学療法の基礎的研究 第45報
Aminophenol 系アゾ化合物特に Hydroxyazobenzene 誘導体の結核菌発育阻止作用
に就いての検索 金大結研年報, 11 (下), 17, 1953.
- 本多幸三郎 : 結核化学療法剤の臓器組織呼吸に及ぼす影響 第1報 結核化学療法剤の健常「マウス」
臓器組織呼吸に及ぼす影響 金大結研年報, 11 (下), 21, 1953.
- 笹谷繁男 : 結核の化学療法研究 第99報 Isonicosinic acid hydrazide と諸「ビタミン」の結核菌
酸素消費に及ぼす影響に就て 金大結研年報, 11 (下), 31, 1953.
- 白鴻鍵 : 結核の化学療法研究 第100報 Thiazol 誘導体の合成並びに抗結核菌性 金大結研年報,
11 (下), 39, 1953.
- 細川勇一 : 結核の化学療法研究 第101報 各種 Thiazol 誘導体の人型結核菌保存呼吸に及ぼす影
響に就て 金大結研年報, 11 (下), 43, 1953.
- 細川勇一, 辻光二 : 結核の化学療法研究 第102報 PAS 並びに PAS 近縁物質と Thiazol
誘導体併用の人型結核菌保存呼吸に及ぼす影響に就て 金大結研年報, 11 (下), 59,
1953.
- 小島博 : 結核の化学療法研究 第103報 Sulsolin の血液内分布並びに活性度に関する研究
金大結研年報, 11 (下), 75, 1953.
- 細川勇一 : 結核の化学療法研究 第104報 芳香酸の存在下に於ける各種抗結核菌酸化酵素系に及ぼ
す影響 金大結研年報, 11 (下), 85, 1953.
- 青木外嗣, 藤巻弥介, 岡田景俊, 塩谷一雄, 塚本真惇 : 肺結核に対する
o-Aminophenol 療法に就て 金大結研年報, 11 (下), 95, 1953.
- 鳶崎実 : 刑務所に於ける健康管理に就て 第1編 結核集団検診に就て 金大結研年報, 11
(下), 103, 1953.
- 鳶崎実 : 刑務所に於ける健康管理に就て 第2編 成人に於ける BCG 接種と「ツベルクリン」皮
内反応特に Old Tuberculin と o-Aminophenol Azo-Tuberculin との比較
金大結研年報, 11 (下), 111, 1953.
- 鳶崎実 : 刑務所に於ける健康管理に就て 第3編 梅毒血清反応と赤血球沈降速度との比較研究
金大結研年報, 11 (下), 121, 1953.
- 山田良行, 山下文雄, 佐々木芳二 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究
第16報 o-Aminophenol Azo-Tuberculin の肺結核患者に及ぼす影響に就て
金大結研年報, 11 (下), 127, 1953.
- 佐々木芳二 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第9報 o-Aminophenol Azo-Tuber-
culin の白血球機能に及ぼす影響に就て 金大結研年報, 11 (下), 133, 1953.
- 小森武彦 : 結核免疫に関する研究 第10報 脱脂, 非脱脂薬物死菌ワクチン並びに其際得られし菌
脂肪体の免疫効果に就て 金大結研年報, 11 (下), 151, 1953.
- 武内修 : 結核免疫に関する研究 第5報 電気泳動法による結核免疫の血清学的研究 第1編
電気泳動法より見たる健康海猿血清蛋白像について 金大結研年報, 11 (下), 161, 1953.
- 桐沢奨二 : 妊娠の生体防禦機能に関する研究 第3報 妊娠及び産褥海猿に於ける結核菌喰菌現象
と BCG の影響に関する実験的研究 金大結研年報, 11 (下), 173, 1953.
- 桐沢奨二 : 抗体の胎盤及乳腺通過性に就て 金大結研年報, 11 (下), 179, 1953.
- 山田良行 : 肺結核に対するオルトアミノフェール粉末吸入療法の基礎的並びに臨床的研究
金大結研年報, 11 (下), 187, 1953.
- 平野秀一 : 腸結核の研究 第1編 臨床的研究 金大結研年報, 11 (下), 199, 1953.

- 杉林 篤之：細菌菌体の免疫学的研究 第3編 腸チフス菌，パラチフスB菌菌体蛋白及び同菌体アゾ蛋白の免疫原性並びに抗原性に就て 金大結研年報，11（下），211，1953.
- 笹島 吉平：フィルム培地上の腸内細菌に対する「レ」線の影響 第5報 全報の総括 金大結研年報，11（下），221，1953.
- 橋本 外喜三：「フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第3報「フィルム培地上の細菌に対する「ラヂウム」の影響 第2編 赤痢菌に就ての観察 金大結研年報，11（下），225，1953.
- 橋本 外喜三：「フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第4報「フィルム培地上の細菌に対する「ラヂウム」の影響 第3編 チフス菌についての観察 金大結研年報，11（下），229，1953.
- 奥原 政雄：フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第2報「フィルム培地上の結核菌発育に対する数学的解析（その2） 金大結研年報，11（下），233，1953.
- 宮地 知男：Streptolysin S に対する Trypan Blue の拮抗作用の機序に関する研究 金大結研年報，11（下），237，1953.
- 直井 長朗：Bis-(2-hydroxy-3, 5-dibromobenzeneazo)-L-tyrosin 並びに Bis-(2-hydroxy-3,5-dibromobenzeneazo)-N^ε-benzoyl-L-histidine の薬理学的研究 金大結研年報，11（下），253，1953.
- 湯浅 俊男：Phenoxazone 系化合物の各種細菌に対する抗菌性に就ての検索 金大結研年報，11（下），265，1953.
- 鈴木 茂一：OM はどんな症状に効くか 健康会議社，24，1953.
- 鈴木 茂一：抗結核剤としての o-Aminophenol について 新薬と臨床，2，409，1953.
- 鈴木 茂一：肺結核外科療法に関連した肺空洞の問題 石川医報，91，1，1953.
- 鈴木 茂一：体質と結核 臨床医学，38，22，1953.
- 柿下 正道：ツベルクリン反応による BCG 陽転者と自然感染者との鑑別について 東京医事新誌，70，3，1953.
- 岡本 肇：オルトアミノフェノール系アゾ蛋白誘導体の研究 十全医学雑誌，55，462，1953.
- 小西 健一，小市政 男：胸部所見とツベルクリン反応について 十全医学会雑誌，54，704，1953.
- 由利 健三，大山 馨，紺田 康，村田 敏夫，小西 健一，爲崎 実：吾国に於ける精製ツベルクリン標本と o-Aminophenol Azo-Tuberculin との皮膚反応力価の比較 十全医学会雑誌，54，495，1953.
- 山下 文雄，佐々木 芳二，一林 なを，山西 左門，改田 一弥，庄田 勲，中川 栄一，木多 幸三郎：BCG 陽転と血液型との関係 金沢市衛生部医学研究業績集，3，5，1953.
- 杉林 篤之：過去10ヶ年における肋膜炎並びに腹膜炎の統計的観察 金沢市衛生部医学研究業績集，3，14，1953.
- 山田 良行：携帯用一新型人工気胸器の考察 金沢市衛生部医学研究業績集，3，65，1953.

1954

- 岡本 肇，宮地 知男，厚地 千恵子：人型結核菌 Mycobacterium No. 607 及び Mycobacterium phlei の各種抗菌性物質に対する感受性についての検討 金大結研年報，12（上），1，1954.
- 岡本 淳一：結核化学療法の基礎的研究 第46報 p-Aminosalicylic Acid と o-Aminophenol の拮抗

核効果に対する p-o-Aminobenzoic Acid 並びに Methionine の影響性に就ての実験的研究 金大結研年報, 12 (上), 3, 1954.

出口国夫, 岡本淳一, 辻口喜代治, 匠勝則 : 結核化学療法の基礎的研究 第47報 実験的結核症に対する p-Aminosalicyclic Acid- 及び o-Aminophenol- 治療効果に及ぼす Salicylic Acid 並びに Folic Acid の影響に就て 金大結研年報, 21 (上), 15, 1954.

本多幸三郎 : 結核化学療法剤の臓器組織呼吸に及ぼす影響 第2報 結核化学療法剤の実験的結核「マウス」臓器組織呼吸に及ぼす影響 金大結研年報, 21 (上), 23, 1954.

北野善造 : 結核の化学療法研究 第109報 各種チアゾール誘導体並びにスルファチアゾール誘導体の結核菌に対する スライド・セル・カルチュア試験成績 金大結研年報, 21 (上), 31, 1954.

辻光二 : 結核の化学療法研究 第110報 各種抗結核剤の薬剤耐性人型結核菌保存呼吸に及ぼす影響 金大結研年報, 21 (上), 41, 1954.

辻元二 : 結核の化学療法研究 第111報 各種抗結核剤併用の薬剤耐性人型結核菌保存呼吸に及ぼす影響 金大結研年報, 21 (上), 51, 1954.

辻光二 : 結核の化学療法研究 第112報 p-Aminosalicyclic acid hydrazid 人型結核菌保存呼吸に及ぼす影響 金大結研年報, 12 (上), 61, 1954.

坂井俊道 : 結核の化学療法研究 第113報 抗結核作用に関する Sulzolin と Nicotinic acid amide, Nicotinic acid diethyl amid との協調効果に就て 金大結研年報, 12 (上), 67, 1954.

坂井俊道 : 結核の化学療法研究 第104報 2-(p-Hydroxyaminobenzenesulfonamide)-thiazol の人型結核菌発育阻止作用に就て 金大結研年報, 12 (上), 73, 1954.

奥原政雄 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第17報 o-Aminophenol Azo-Tuberculin の意義に関する解析的研究 第1編 金大結研年報, 12 (上), 77, 1954.

奥原政雄 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第17報 o-Aminophenol Azo-Tuberculin の意義に関する解析的研究 第2編 金大結研年報, 12 (上), 83, 1954.

奥原政雄 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第17報 o-Aminophenol Azo-Tuberculin の意義に関する解析的研究 第3編 金大結研年報, 12 (上), 89, 1954.

紺田康 : 人型結核菌並びに BCG 菌体蛋白とそれ等の o-Aminophenol Azo-Protein との動物に於ける皮膚反応比較実験 金大結研年報, 12 (上), 95, 1954.

紺田康 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculo-protein による結核菌感染防禦実験 金大結研年報, 12 (上), 101, 1954.

本多幸三郎, 武内修, 松田知夫, 小西健一 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第18報 BCG 接種者に於ける Old Tuberculin 並びに各種濃度の o-Aminophenol Azo-Tuberculin “Human” 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin “BCG” の皮膚反応の比較 その1 BCG 接種1ヶ月後に於ける成績 金大結研年報, 12(上), 109, 1954.

松田知夫, 小西健一, 中川栄一, 武内修 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第18報 BCG 接種者に於ける Old Tuberculin 並びに各種濃度の o-Aminophenol Azo-Tuberculin “Human” 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin “BCG” の皮膚反応の比較 その2 BCG 接種3ヶ月後に於ける成績 金大結研年報, 12(上), 115, 1954.

- 西東利男, 山西左門, 粟津喜久夫, 英軒, 橋本直子: o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第19報 BCG 接種局所反応に関する研究 その1 金大結研年報, 12 (上), 119, 1954.
- 吉田清, 末興: 結核菌の物質代謝に関する研究 第1報 第3編 結核菌の呼吸に及ぼす旧ツベルクリンの影響 金大結研年報, 12 (上), 125, 1954.
- 武内修: 結核免疫に関する研究 第5報 電気泳動法による結核免疫の血清学的研究 第2編 人型結核菌感染海溟, 並びに BCG 及び結核加熱死菌免疫海溟に関する実験的研究 金大結研年報, 12 (上), 129, 1954.
- 山下文雄: 結核血球凝集反応並びに溶血反応に関する研究 第1編 吸着体並びに反応条件に関する検討 金大結研年報, 12 (上), 153, 1954.
- 山下文雄: 結核血球凝集反応並びに溶血反応に関する研究 第2編 臨床的研究 金大結研年報, 12 (上), 165, 1954.
- 山下文雄: 結核血球凝集反応並びに溶血反応に関する研究 第3編 結核死菌免疫とツベルクリン・アレルギー並びに各種免疫反応との関係 (動物実験) 金大結研年報, 12 (上), 183, 1954.
- 丘村欽也: 実験的抗酸性菌感染動物に関する知見補遺並びに治療実験 第1編 抗酸性菌感染海溟の剖検所見と臓器内抗酸性菌定量培養との関係 金大結研年報, 12 (上), 193, 1954.
- 丘村欽也: 実験的抗酸性菌感染動物に関する知見補遺並びに治療実験 第2編 対照群の病理組織学的所見 金大結研年報, 12 (上), 205, 1954.
- 丘村欽也: 実験的抗酸性菌感染動物に関する知見補遺並びに治療実験 第3編 治療実験 金大結研年報, 12 (上), 229, 1954.
- 平野秀一: 腸結核の研究 第2編 細菌学的研究…腸結核症に於ける大腸菌叢の分布状態 金大結研年報, 12 (上), 237, 1954.
- 平野秀一: 腸結核の研究 第3編 対照実験…細菌性赤痢症に於ける大腸菌叢の分布状態 金大結研年報, 12 (上), 259, 1954.
- 平野秀一: 腸結核の研究 第4編 全編の総括 金大結研年報, 12 (上), 267, 1954.
- 萩野卓司: 肺結核空洞に関するX線学的研究 第1編 諸種X線撮影法による肺空洞の比較検出成績に就て 金大結研年報, 12 (上), 273, 1954.
- 萩野卓司: 肺結核空洞に関するX線学的研究 第2編 肺空洞と喀痰結核菌との関係に就て 金大結研年報, 12 (上), 287, 1954.
- 萩野卓司: 肺結核空洞に関するX線学的研究 第3編 肺結核の病巣所見とX線像との関係 金大結研年報, 12 (上), 301, 1954.
- 萩野卓司: 肺結核患者に於ける肋膜炎後胎症に就て 金大結研年報, 12 (上), 315, 1954.
- 厚地千恵子, 姫野保徳, 浜田明: Ag-Streptolysin-“S”-Complex の抗菌力試験 金大結研年報, 12 (中), 1, 1954.
- 姫野保徳, 宝達務, 有沢和夫, 越村三郎, 平田良三: 結核化学療法の基礎的研究 第49報 o-Aminophenol 系 N-Acyl 誘導体並びに諸他化合物の抗結核菌作用に就ての検索 金大結研年報, 12 (中), 5, 1954.
- 越村三郎, 浜田明, 大滝武雄, 出口国夫: 結核化学療法の基礎的研究 第50報 異項環化合物の結核菌に対する菌発育阻止力試験 金大結研年報, 12 (中), 9, 1954.
- 牛村繁男: 結核化学療法研究 第120報 実験的結核に於ける Sulzolin と Nicotinic acid amide の併用に就て 金大結研年報, 12 (中), 13, 1954.

- 坂井俊道：結核の化学療法研究 第121報 Sulzolin, Nicotinic acid amide 服用者血液を以てせる Slide-Cell-Culture 試験 金大結研年報, 12 (中), 23, 1954.
- 中川栄一, 今井利平, 上田稔, 梅崎伸：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第18報 BCG 接種者に於ける Old Tuberculin 並びに各種濃度の o-Aminophenol Azo-Tuberculin "Human" 及び "BCG" の皮膚反応の比較 その3, 6ヶ月後に於ける成績 金大結研年報, 12 (中), 33, 1954.
- 西東利男, 山西左門, 英軒, 今井利平, 橋本直子：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第20報 BCG 接種学童に対する減量接種の意義その1 金大結研年報, 12 (中), 39, 1954.
- 中川栄一：ツベルクリン反応の組織学的研究 第1篇 健常家兔に対する旧ツベルクリン, o-Aminophenol Azo-Tuberculin "Human" 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin "BCG" の皮内注射による組織学的比較研究 金大結研年報, 12 (中), 49, 1954.
- 松田知夫：結核菌の各種抗結核剤に対する耐性に関する研究 第2編 肺結核患者の S. M. 治療と耐性獲得に就て 金大結研年報, 12 (中), 57, 1954.
- 小西健一：結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第1篇 チフスワクチン注射とレ線放射の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響の観察 その2 チフスワクチン免疫家兔に於けるレ線放射の抗体産生と2, 3の白血球機能に及ぼす影響 金大結研年報, 12 (中), 63, 1954.
- 小西健一：結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第1篇 チフスワクチン注射とレ線放射の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響の観察 その3 チフスワクチン注射及びレ線放射の喰菌現象に及ぼす影響 金大結研年報, 12 (中), 79, 1954.
- 西東利男, 小西健一, 武内修, 藤井彰：結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第2編 チフス・ワクチン注射とレ線放射の抗体産生, 血清蛋白質及び白血球像に及ぼす影響の観察 其の1 レ線放射の影響 金大結研年報, 12 (中), 89, 1954.
- 栗津喜久夫：ツベルクリン様物質を産生する一変異菌株 B. O. K. に関する研究 第1篇 一般生物学的性状に就て 金大結研年報, 12 (中), 99, 1954.
- 栗津喜久夫：ツベルクリン様物質を産生する一変異菌株 B. O. K. に関する研究 第2篇 病原性及び感染防禦能に就て 金大結研年報, 12 (中), 109, 1954.
- 栗津喜久夫：ツベルクリン様物質を産生する一変異菌株 B. O. K. に関する研究 第3篇 ツベルクリン様物質産生能に就て 金大結研年報, 12 (中), 115, 1954.
- 栗津喜久夫：ツベルクリン様物質を産生する一変異菌株 B. O. K. に関する研究 第4篇 変異結核菌に関する文献的考察 金大結研年報, 12 (中), 123, 1954.
- 丘村欽也：結核菌菌体磷脂質を注射せる海猿の病理組織学的研究 金大結研年報, 12 (中), 127, 1954.
- 山西左門：BCG 潰瘍に関する研究 第1報 BCG 潰瘍発生機序に関する研究 金大結研年報, 12 (中), 133, 1954.
- 橋本外喜三：フィルム培地を応用せる細菌学的応用 第3報 フィルム培地上の細菌に対するラヂウムの影響 第5篇 鳥型結核菌に就ての観察 金大結研年報, 12 (中), 159, 1954.
- 奥原政雄, 橋本外喜三, 丘村欽也：ラヂウム放射の際のフィルム培地に於ける線量分布 金大結研年報, 12 (中), 167, 1954.
- 村沢健介：膵臓に於ける化学的感受体系並びにその病態生理 第1篇 Pancreaton の病態生理に就て 金大結研年報, 12 (中), 171, 1954.

- 村 沢 健 介 : 脾臓に於ける化学的感受体系統並びにその病態生理 第2篇 Pancreaton の機能病理 (炎症篇) 金大結研年報, 12 (中), 193, 1954.
- 村 沢 健 介 : 脾臓に於ける化学的感受体系統並びにその病態生理 第3篇 Pancreaton の機能的病理 (再生並びに腫瘍篇) 金大結研年報, 12 (中), 213, 1954.
- 今 市 邦 太 郎 : 結核化学的療法の基礎的研究 第52報 *o*-Aminophenol の生体内分布に関する組織化学的研究 (其の2) 金大結研年報, 12 (下), 1, 1954.
- 今 市 邦 太 郎 : 結核化学的療法の基礎的研究 第52報 *o*-Aminophenol の生体内分布に関する組織化学的研究 (其の3) 金大結研年報, 12 (下), 9, 1954.
- 今 市 邦 太 郎 : 結核化学的療法の基礎的研究 第52報 *o*-Aminophenol の生体内分布に関する組織化学的研究 (其の4) 金大結研年報, 12 (下), 13, 1954.
- 松 田 知 夫 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第1報 結核菌の各種抗結核剤に対する耐性に関する研究 第3篇 SM 並びに PAS 耐性結核菌による実験的結核海狸に対する SM, PAS, OM の効果に就て 金大結研年報, 12 (下), 17, 1954.
- 英 軒 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第2報 結核菌の INAH 耐性に就て 第1篇 INAH に対する結核菌の耐性化とその復元についての臨床的観察 金大結研年報, 12 (下), 27, 1954.
- 村 田 敏 夫 : 結核菌のフィルム培養に関する研究 第4報 第1篇 鳥型結核菌のフィルム培養に関する基礎的研究 金大結研年報, 12 (下), 35, 1954.
- 村 田 敏 夫 : 結核菌のフィルム培養に関する研究 第4報 第2篇 フィルム培養に於ける各種抗結核剤の鳥型結核菌の発育に及ぼす影響 金大結研年報, 12 (下), 45, 1954.
- 毛 笠 昇 : 人体に於ける *o*-Aminophenol の吸収並びに排泄に関する実験的研究 金大結研年報, 12 (下), 1954.
- 毛 笠 昇 : 人体に於ける *p*-Aminosalicylic acid, Isonicotinic acid hydrazide 及び Streptomycin の吸収並びに排泄に就ての実験 金大結研年報, 12 (下), 69, 1954.
- 岡 田 景 俊, 藤 卷 弥 介, 毛 笠 昇, 塚 本 真 淳 : *p*-Aminosalicylic acid, Isonicotinic acid hydrazide, *o*-Aminophenol 及び Streptomycin の流血内濃度 (Blood-level) に及ぼす各種 Vitamine, Methionine 並びに Hyaluronidase の影響に就ての実験 金大結研年報, 12 (下), 75, 1954.
- 小 西 健 一 : 結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第1篇 チフス・ワクチン注射とレ線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響の観察 其の4 血清の大腸菌発育阻止力に及ぼすチフス・ワクチン注射及びレ線放射の影響 金大結研年報, 12 (下), 81, 1954.
- 小 西 健 一 : 結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第1篇 チフス・ワクチン注射とレ線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響の観察 (其の1より其の4の総括) 金大結研年報, 12 (下), 87, 1954.
- 庄 田 勲 : 妊娠の生体防衛機能に関する研究 第2報 妊婦に就ての実験 金大結研年報, 12 (下), 93, 1954.
- 庄 田 勲 : 妊娠の生体防衛機能に関する研究 第3報 動物実験 金大結研年報, 12 (下), 101, 1954.
- 厚 地 千 恵 子, 山 本 恵 一, 山 田 治 郎 左 門, 金 山 早 苗, 阪 東 芳 雄 : Ag Streptolysin "S"-Complex の抗微生物性試験 金大結研年報, 12 (下), 107, 1954.
- 姫 野 保 徳 : Dihydroxyazobenzene 系誘導体の静菌状態溶連菌による Streptolysin-S 産生能に及ぼす影響に就ての検索 第2報 金大結研年報, 12 (下), 111, 1954.
- 大 滝 武 雄 : オルト・アミノフェノールの生体内運命について 第2報 オルト・アミノフェノール

硫酸抱合体の分離 薬学雑誌, 74, 1, 104, 1954.

- 越村三郎, 平田良三, 清水隆作, 姫野保徳 : 諸種ハイドロオキシアゾベンゼン誘導体の溶血作用について 第7回 日本薬学会大会記事, 1954.
- 柿下正道 : 肺結核はいかに治療すべきか 金沢市衛生部医学研究業績集, 4, 23, 1954.
- 柿下正道 : ツベルクリン反応の常識 薬の知識, 5, 1, 1954.
- 柿下正道, 山田良行 : 肺結核に対する抗結核剤粉末吸入療法について 結核の臨床, 2, 56, 1954.
- 柿下正道 : ツベルクリン反応の臨床的意義 日本医師会雑誌, 31, 447, 1954.
- 柿下正道 : 肺結核空洞の内科的療法 石川医報, 131, 1954.
- 柿下正道, 山田良行 : パスカルシウム粉末吸入療法について 結核の臨床, 2, 749, 1954.
- 村田俊夫 : 金沢市小学校並びに満5才未就学児の結核検診成績 (昭和28年度) 金沢市衛生部医学研究業績集, 4, 11, 1954.
- 一林なを : 保育所幼時の身体及び胸部レ線フィルム計測による発育状態の統計的観察 金沢市衛生部医学研究業績集, 4, 17, 1954.
- 東野音信 : 部分的肺切除の臨床と切除病巣の病理学的並びに細菌学的検索 週刊医学通信, 9, 3, 1954.
- 岡本肇 : 核酸効果とこれに基づくStreptolysin-S 研究の展開 細胞化学シンポジウム, 3, 145, 1954.
- Ito, R. and Imaki, A. : Formation of Tuberculin by Washed Tubercle Bacilli in Citrate Solution. Part III. On the Chemical, Properties of Citrate Tuberculin Jap. J. Tuberc., 2, 99, 1954.
- Matsuda, T. : Experiments on Repeated Exposure of Tubercle Bacilli to o-Aminophenol in Vitro Jap. J. Tuberc., 2, 187, 1954.
- Yoshimura, M., Sugiyama, T., Hirata, R., Deguchi, K. and Himeno, Y. : Fundamental Studies in Chemotherapy of Tuberculosis Part L I. Experiments on the Antituberculous Action of 3(β -N. N-Diethyl -amino-propionylamino)-phenoxazone-(2) Jap. J. Tuberc., 2, 192, 1954.
- Hirata, R. : Fundamental Studies Chemotherapy of Tuberculosis Part 48. 3-Aminopenoxazone-(2) Derivatives and their Tuberculo-Bacteriostatic Activity Jap. J. Tuberc., 2, 249, 1954.
- Okamoto, H., Kakishita, M., Ito, R., Saito, T. and Koshimura, S. : Azo-Tuberculin Derivatives and Their Practical Use. Research During the Past Eight Years.

1955

- 金山早苗 : 結核化学療法の基礎的研究 第3報 p-Aminobenzoic acid 並びに L-Methionine との拮抗現象に基づく p-Aminosalicylic acid の対結核菌作用の吟味 金大結研年報, 13 (上), 1, 1955.
- 村沢健介, 今市邦太郎 : 結核化学療法の基礎的研究 第54報 Isonicotinic acid hydrazide 吸入後の肺内分布に関する組織化学的研究 金大結研年報, 13 (上), 15, 1955.
- 高野徹雄 : 諸種抗結核剤に対する耐性菌の研究 第1篇 諸種抗結核剤治療患者に於ける耐性菌の発現と其の臨床的観察 金大結研年報, 13 (上), 19, 1955.
- 高野徹雄 : 諸種抗結核剤に対する耐性菌の研究 第2篇 結核菌の諸種抗結核剤接触時間と耐性獲得との関係 金大結研年報, 13 (上), 43, 1955.
- 高野徹雄 : 諸種抗結核剤に対する耐性菌の研究 第3篇 結核海狸に於ける薬剤投与量並びに投与

- 時間と耐性菌発現との関係 金大結研年報, 13 (上), 47, 1955.
- 英 軒 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第2報 結核菌の INAH 耐性に就て 第1篇 結核菌の INAH 耐性化とその復元についての試験管内実験 金大結研年報, 13(上), 57, 1955.
- 村 田 敏 夫 : フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第4報 結核菌のフィルム培養に関する研究 第3篇 各種抗結核剤の鳥型結核菌の染色性に及ぼす影響 金大結研年報, 13 (上), 63, 1955.
- 橋 本 外喜三 : フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第3報 フィルム培地上の細菌に対するラヂウムの影響 第4篇 パラチフスA菌に就ての観察 金大結研年報, 13 (上), 67, 1955.
- 橋 本 外喜三 : フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第3報 フィルム培地上の細菌に対するラヂウムの影響 第6篇 BOK に就ての観察 金大結研年報, 13 (上), 73, 1955.
- 橋 本 外喜三 : フィルム培地を応用せる細菌学的研究 第3報 フィルム培地上の細菌に対するラヂウムの影響 (第1篇より第6篇までの総括) 金大結研年報, 13 (上), 81, 1955.
- 中 川 栄 一 : ツベルクリン反応の組織学的研究 第2篇 人型結核菌感染家兎に対する旧ツベルクリン, o-Aminophenol Azo-Tuberculin "Human" 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin "BCG" による「ツ」反応の組織学的比較研究 金大結研年報, 13 (上), 85, 1955.
- 中 川 栄 一 : ツベルクリン反応の組織学的研究 第3篇 BCG 感染家兎に対する旧ツベルクリン, o-Amiophenol Azo-Tuberculin "BCG" による「ツ」反応の組織学的研究 金大結研年報, 13 (上), 93, 1955.
- 中 島 滋 : 結核血球凝集反応に関する研究 第1報 感作原に関する研究 第2篇 人型結核菌 "H₂" 菌各分割及び菌体加熱浸出液をもつて処理せる血球の被凝集性についての観察 金大結研年報, 13 (上), 99, 1955.
- 中 島 滋 : 結核血球凝集反応に関する研究 第1報 感作原に関する研究 第3篇 各種抗酸性菌加熱浸出液感作血球の免疫学的特異性について 金大結研年報, 13 (上), 107, 1955.
- 中 島 滋 : 結核血球凝集反応に関する研究 第1報 感作原に関する研究 第4篇 血球凝集反応活性因子の化学的追究 金大結研年報, 13 (上), 113, 1955.
- 岡 田 努 : 感作血球の免疫学的意義 第3報 腸内病原菌を以てする研究 第1篇 菌体蛋白及び多糖体の分離精製並びに菌体加熱浸出液に就て 金大結研年報, 13 (上), 119, 1955.
- 岡 田 努 : 感作血球の免疫学的意義 第3報 腸内病原菌を以てする研究 第2篇 腸チフス菌, パラチフスB菌菌体成分感作血球並びに感作カオリンを以てする凝集反応に就いて 金大結研年報, 13 (上), 127, 1955.
- 岡 田 努 : 感作血球の免疫学的意義 第3報 腸内病原菌を以てする研究 第3篇 駒込B赤痢菌, 川瀬赤痢菌菌体成分感作血球並びに感作カオリンを以てする凝集反応に就いて 金大結研年報, 13 (上), 137, 1955.
- 鎗 木 護 郎 : 結核化学療法の臨床的研究 第21報 肺部分切除材料の病理学的研究とその臨床との関係 (その1) 金大結研年報, 13 (上), 143, 1955.
- 鎗 木 護 郎 : 結核化学療法の臨床的研究 第22報 肺部分切除材料の病理学的研究とその臨床との関係 (その2) 金大結研年報, 13 (上), 153, 1955.
- 高 野 徹 雄, 今 市 邦太郎 : 結核化学療法の臨床的研究 第23報 肺結核患者に対する o-Aminophenol (OM) の長期間連用に就いて 金大結研年報, 13 (上), 165, 1955.
- 藤 原 正 義 : 結核化学療法の基礎的研究 第55報 抗結核剤の白血球機能並びに血液像に及ぼす影響 第1篇 健康家兎に就いての実験 金大結研年報, 13 (中), 1, 1955.
- 藤 原 正 義 : 結核化学療法の基礎的研究 第55報 抗結核剤の白血球機能並びに血液像に及ぼす影響 第2篇 実験的結核家兎に就いての実験 其の1 白血球機能に及ぼす影響 金大結研年報, 13 (中), 11, 1955.

- 藤原正義：結核化学療法の基礎的研究 第55報 抗結核剤の白血球機能並びに血液像に及ぼす影響 第2篇 実験的結核家兎に就いての実験 その2 血液像に及ぼす影響 金大結研年報, 13(中), 25, 1955.
- 岡田景俊：結核化学療法の基礎的研究 第56報 Dihydrostreptomycin 耐性結核菌に対する *o*-Aminophenol, *p*-Aminosalicylic acid 及び Dihydrostreptomycin の効果性の吟味 金大結研年報, 13(中), 37, 1955.
- 野田敏夫：結核化学療法の基礎的研究 第57報 抗結核剤の消化酵素に対する影響に就いての検索 金大結研年報, 13(中), 53, 1955.
- 藤原正義：Isonicotinic acid hydrazide 単独療法を行える肺結核患者の白血球機能に就いて 金大結研年報, 13(中), 59, 1955.
- 藤原正義：胸部外科手術侵襲の肺結核患者白血球機能に及ぼす影響に就いて 金大結研年報, 13(中), 67, 1955.
- 今城昭雄, 藤原紫朗, 野田敏夫, 清水嗣郎：洗滌結核菌のクエン酸溶液中 Tuberculin 産生現象に関する研究 第5報 Isonicotinic acid hydrazide 耐性結核菌の Citrate-tuberculin 産生に就いて 金大結研年報, 13(中), 79, 1955.
- 庄田勲：BCG 難陽転者に関する研究 金大結研年報, 13(中), 83, 1955.
- 富士山：ツベルクリン反応難陽転者に於けるアゾ・ツベルクリン反応に就いて 金大結研年報, 13(中), 91, 1955.
- 末興：結核菌の物質代謝に関する研究 第2報 結核菌の呼吸に及ぼす数種培地成分の影響 金大結研年報, 13(中), 93, 1955.
- 末興：結核菌の物質代謝に関する研究 第3報 結核菌に関するグリセリン並びにポリタミンの呼吸促進効果に及ぼす抗結核剤の影響 金大結研年報, 13(中), 107, 1955.
- 末興：結核菌の物質代謝に関する研究 第4報 結核菌のグリセリン呼吸に及ぼす pH の影響 金大結研年報, 13(中), 119, 1955.
- 早川晋：細菌の薬剤耐性に関する研究 第3報 結核菌に対する各種抗結核剤の併用効果に関する研究 第1篇 薬剤の管内併用による菌発育阻止力の変動に就いて 金大結研年報, 13(中), 123, 1955.
- 早川晋：細菌の薬剤耐性に関する研究 第3報 結核菌に対する各種抗結核剤の併用効果に関する研究 第2篇 薬剤の管内併用継代による菌発育阻止力の変動と耐獲得の推移に就いて 金大結研年報, 13(中), 131, 1955.
- 塩谷一雄：結核症に於ける網状織内皮細胞系に関する研究 第1報 諸種抗結核剤の網状織内皮細胞系に及ぼす影響, 特に「コンゴ」赤指数に就いての検索 第1篇 健康家兎に就いての実験 金大結研年報, 13(中), 145, 1955.
- 塩谷一雄：結核症に於ける網状織内皮細胞系に関する研究 第1報 諸種抗結核剤の網状織内皮細胞系に及ぼす影響, 特に「コンゴ」赤指数に就いての検索 第2篇 健康人体に於ける実験 金大結研年報, 13(中), 153, 1955.
- 塩谷一雄：結核症に於ける網状織内皮細胞系に関する研究 第2報 Old Tuberculin 及び *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin “Human” の網状織内皮細胞系 金大結研年報, 13(中), 157, 1955.
- 上林昌生：肺結核患者に於ける気管支の臨床的研究 第1篇 結核性気管支炎に就いての研究補遺 金大結研年報, 13(中), 167, 1955.
- 上林昌生：肺結核患者に於ける気管支の臨床的研究 第2篇 気管支腔内分泌物の細菌学的研究 金大結研年報, 13(中), 1955.
- 唐沢浩, 葛山輝清, 上林昌生：人工気胸術並に人工気腹術に対する検討 金大結研年報, 13(中), 185, 1955.

- 宝達 務 : Streptolysin S に対する正常血清の影響性に関する研究 第I項 : 血清の抗 Streptolysin S 作用の機序に就いて 第II項 : Streptolysin S の熱非働化に対する血清の防禦的影響に就いて 金大結研年報, 13 (中), 195, 1955.
- 藤巻 弥介 : 結核化学療法の基礎的研究 第58報 (その1) 人体に於ける o-Aminophenol の反復経口投与とその血清中濃度との関係についての考査 金大結研年報, 13(下), 1, 1955.
- 藤巻 弥介 : 結核化学療法の基礎的研究 第58報 (その2) 赤血球に於ける o-Aminophenol の保蔵について 金大結研年報, 13 (下), 7, 1955.
- 辻口 喜代治 : 結核化学療法の基礎的研究 第61報 抗結核剤併用投与の家兎血液像並びに白血球機能に及ぼす影響に就て 第1篇 健康家兎に於ける実験 金大結研年報, 13 (下), 13, 1955.
- 辻口 喜代治 : 結核化学療法の基礎的研究 第61報 抗結核剤併用投与の家兎血液像並びに白血球機能に及ぼす影響に就て 第2篇 結核感染家兎に於ける実験 金大結研年報, 13 (下), 19, 1955.
- 匠 勝 則 : 結核化学療法の基礎的研究 第62報 実験的結核症に於ける抗結核剤の併用効果 (その1) 金大結研年報, 13 (下), 37, 1955.
- 匠 勝 則 : 結核化学療法の基礎的研究 第62報 実験的結核症に於ける抗結核剤の併用効果 (其の2) 金大結研年報, 13 (下), 45, 1955.
- 清水 嗣郎, 藤原 紫朗, 加藤 子規, 石田 昭二 : 洗滌結核菌のクエン酸液中の Tuberculin 産生現象に関する研究 第7報 諸種 Vitamin 並びに Hormone の結核菌の Citrate-Tuberculin 産生機能に及ぼす影響に就ての検索 金大結研年報, 13 (下), 53, 1955.
- 塩谷 一雄 : 結核症に於ける網状織内皮細胞系に関する研究 第1報 結核化学療法剤の網状織内皮細胞系に及ぼす影響, 特に「コンゴ赤指数」に就ての検索 其の3 結核家兎に於ける実験 金大結研年報, 13 (下), 57, 1955.
- 出口 国夫 : 切除肺結核病巣の細菌学的並びに病理学的研究 金大結研年報, 13 (下), 63, 1955.
- 辻口 喜代治 : Streptomycin, o-Aminophenol 併用療法の臨床的観察 金大結研年報, 13(下), 73, 1955.
- 高野 徹雄, 出口 国夫, 村上 尚正, 板谷 勉 : 肺結核に併発せる Candidiasis 金大結研年報, 13 (下), 77, 1955.
- 岡田 努 : 感作血球の免疫学的意義 第3報 腸内病原菌を以つてする研究 第4篇 腸チフス菌体加熱浸出液の血球感作原性に関する研究補遺 金大結研年報, 13 (下), 85, 1955.
- 塚本 真惇 : Streptolysin S の Trypan Blue 処置家兎血液像に及ぼす影響について 金大結研年報, 13 (下), 91, 1955.
- 柿下 正道 : 結核回復者の社会復帰について (講演内容) 福井県衛生部編, 1955.
- 小西 健一, 藤井 彰 : 抗体の消長と血清蛋白像の変動との関係 日本細菌学雑誌, 10, 402, 1955.
- Imaki, A. : Formation of Tuberculin by Washed Tubercle Bacilli in Citrate Solution Part IV. On the Citrate-tuberculin-forming Property of a Streptomycin-resistant-Variant of Tubercle Bacilli Jap. J. Tuberc., 3, 1, 1955.
- Saito, T., Konishi, K., Matsuda, T., Kobayashi, H. and Fumuro, T. : Serological Studies on Old Tuberculin Sensitized Erythrocytes Jap. J. Tuberc., 3, 75, 1955.
- Imaki, A., Shimizu, S., Fujiwara, S. and Kato, S. : Formation of Tuberculin by Washed Tubercle Bacilli in Citrate Solution Part VI. Study on the Tuberculin-producing Property of a PAS-resistant Variant of Tubercle Bacilli Jap. J. Tuberc., 3, 80, 1955.
- Koshimura, S., Murasawa, K., Nakagawa, E., Ueda, M., Bando, Y. and Hirata, R. : Experimental Anticancer Studies Part III. On the Influence of Living Hemolytic Streptococci upon the Invasion Power of Ehrlich Ascites Carcinoma in Mice Jap. J. Exp. Med., 25, 102, 1955.

1956

- 杉山篤弘, 宝達 務, 葛葉 晋, 山本 泰, 平田良三: 結核化学療法の基礎的研究 第60報 2,2'-Dihydroxyazobenzene 並びに Hydroxybenzylidene-2-aminophenol 系諸誘導体の抗結核菌作用に就いての検討 金大結研年報, 14, 1, 1956.
- 北川 秀: 結核化学療法の基礎的研究 第63報 各種抗菌性物質に就いての結核菌の耐性化実験 金大結研年報, 14, 5, 1956.
- 藤井 彰: 結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生産防禦力に及ぼす影響に関する研究 第2篇 チフス・ワクチン注射とレ線放射の抗体産生, 血清蛋白像及び白血球像に及ぼす影響の観察 其の2 チフス・ワクチン注射の影響 金大結研年報, 14, 21, 1956.
- 八木 静馬: 結核免疫に関する研究 第6報 脱感作機構に関する実験的研究 其の1 結核家兔の旧ツベルクリンによる脱感作について 金大結研年報, 14, 31, 1956.
- 八木 静馬: 結核免疫に関する研究 第6報 脱感作機構に関する実験的研究 その2 結核家兔の *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin による脱感作について 金大結研年報, 14, 43, 1956.
- 早川 晋, 英 軒: 細菌の薬剤耐性に関する研究 第3報 結核菌に対する各種抗結核剤の併用効果に関する研究 第3篇 Isonicotinic acid hydrazide 耐性結核菌を用いての実験 金大結研年報, 14, 57, 1956.
- 早川 晋: 細菌の薬剤耐性に関する研究 第4報 Streptomycin 又は Isonicotinic acid hydrazide 耐性結核菌の海猿に対する毒力に関する研究 金大結研年報, 14, 63, 1956.
- 松田 知夫, 早川 晋, 英 軒, 寺崎 隆: 細菌の薬剤耐性に関する研究 第5報 Streptomycin, *p*-Aminosalicylic acid hydrazide 耐性結核菌の他種抗結核剤に対する態度に就て 金大結研年報, 14, 71, 1956.
- 女川 徹: 結核菌培養に関する研究 第2報 各種物質の結核菌の発育に及ぼす影響に関する研究 第2篇 ツベルクリン及び結核菌菌体成分に就て 金大結研年報, 14, 75, 1956.
- 上田 稔: 結核アレルギーの組織学的研究 第2報 結核菌体成分による皮内反応の組織学的研究 第1篇 結核菌体蛋白を以てする実験 金大結研年報, 14, 87, 1956.
- 上田 稔: 結核アレルギー組織学的研究 第2報 結核菌体成分による 皮内反応の組織学的研究 第2篇 結核菌体多糖類及び磷脂質を以てする実験 金大結研年報, 14, 95, 1956.
- 上田 稔, 宮森 正孝: 結核アレルギーの組織学的研究 第2報 結核菌菌体成分による皮内反応の組織学的研究 第3篇 結核菌体アセトン可溶性脂肪及び蠟質を以てする実験 金大結研年報, 14, 101, 1956.
- 中川 栄一, 上田 稔, 荒井 正宏: ツベルクリン反応局所の血管透過性に就て 金大結研年報, 14, 107, 1956.
- 小林 喜順, 村沢 健介, 高野 徹雄, 出口 国夫, 村上 尚正, 板谷 勉, 直江 寛: 結核化学療法の基礎的研究 第23報 肺結核患者に於ける *o*-Aminophenol 内服療法に就て 第1篇 6ヶ月間の投与成績 金大結研年報, 14, 113, 1956.
- 岡本 肇, 有 沢 和夫, 榎崎 哲夫, 越村 三郎, 清水 隆作: 精製 Streptolysin S と酵母核酸との紫外線一吸収スペクトル及び電気泳動に於ける比較実験 金大結研年報, 14, 131, 1956.
- 伊藤 亮: 岡本教授の中日文化賞受賞に際して 金大結研年報, 14, 135, 1956.
- 藤井 彰: 結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第2篇 チフス・ワクチン注射とレ線放射の抗体産生及び血清蛋白像に及ぼす影響の観察 其の3 チフス免疫家兔に対するチフス・ワクチン再注射

- 及びレ線放射の影響 金大結研年報, 14, 143, 1956.
- 藤井 彰 : 結核免疫に関する研究 第4報 免疫原注射と放射線の抗体産生及び生体防禦力に及ぼす影響に関する研究 第2篇 チフス・ワクチン注射とレ線放射の抗体産生及び血清蛋白像に及ぼす影響の観察其の4 血清蛋白分層中の抗体の所在について 金大結研年報, 14, 151, 1956.
- 八木 静馬 : 結核免疫に関する研究 第6報 脱感作機構に関する実験的研究 其の3 BCG 接種家兔の旧ツベルクリンによる脱感作について 金大結研年報, 14, 161, 1956.
- 八木 静馬 : 肺結核患者に於けるツベルクリン反応と臨床症状並びに免疫学的諸反応との関係 金大結研年報, 14, 171, 1956.
- 小林 博 : 感作血球の免疫学的研究 第3報 Old Tuberculin 感作血球の免原疫性に就いて (その1) 金大結研年報, 14, 177, 1956.
- 小林 博 : 感作血球の免疫学的研究 第3報 Old Tuberculin 感作血球の免疫原性に就いて (その2) 金大結研年報, 14, 187, 1956.
- 英 軒 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第2報 結核菌の INAH 耐性に就て 第3篇 INAH 耐性結核菌の毒性試験と免疫原性の検討 金大結研年報, 14, 191, 1956.
- 小林 喜順, 村 沢 健介, 高野 徹雄, 出口 国夫, 村上 尚正, 板谷 勉, 直江 寛 : 結核化学療法 of 臨床的研究 第23報 肺結核患者に於ける o-Aminophenol 内服療法に就て 第2篇 12ヶ月間の投与成績 金大結研年報, 14, 199, 1956.
- 出口 国夫 : 切除肺結核病巣の細菌学的並に病理学的研究 第2報 切除肺病巣内結核菌の薬剤耐性について 金大結研年報, 14, 219, 1956.
- 出口 国夫 : 切除肺結核病巣の細菌学的並に病理学的研究 第3報 切除肺病巣内結核菌の海溼に対する病原性について 金大結研年報, 14, 225, 1956.
- 藤井 彰 : 各種チフス・ワクチンの比較実験 金大結研年報, 14, 231, 1956.
- 梅崎 伸 : 溶連菌に於ける物質代謝, 就中 Streptolysin S 産生に対する糖類の無関係性に就いて 第1篇 溶連菌の瓦斯代謝に就いて 金大結研年報, 14, 237, 1956.
- 梅崎 伸 : 溶連菌に於ける物質代謝, 就中 Streptolysin S 産生に対する糖類の無関係性に就いて 第2篇 Streptolysin S 産生に於ける物質代謝—特に瓦斯代謝—に就いて 金大結研年報, 14, 251, 1956.
- 梅崎 伸 : 溶連菌に於ける物質代謝, 就中 Streptolysin S 産生に対する糖類の無関係性に就いて (補遺) 二, 三の球菌に於ける核酸及び糖代謝と, その際の溶血毒産生能に就いて 金大結研年報, 14, 263, 1956.
- 杉山 篤弘 : 核酸に因る溶連菌の溶血毒増産現象に関する研究 第15報 熱非働化 Streptolysin S の Streptolysin S 増産に対する効果性に就いて 金大結研年報, 14, 271, 1956.
- 吉田 啓一 : 結核免疫に関する研究 第7報 マウスを用いての実験 第1篇 各種抗酸性菌の毒力について 金大結研年報, 14, 283, 1956.
- 吉田 啓一 : 結核免疫に関する研究 第7報 マウスを用いての実験 第2篇 各種抗酸性菌並びに o-Aminophenol Azo-Tuberculin “Human” 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculo-protein の感染防禦力賦与能について 金大結研年報, 14, 295, 1956.
- 吉田 啓一 : 結核免疫に関する研究 第7報 マウスを用いての実験 (海溼との比較) 第3篇 BCG ワクチン, H₂ 加熱死菌流動パラフィンワクチン 並びに o-Aminophenol Azo-Tuberculin “Human” の感染防禦力賦与能について 金大結研年報, 14, 309, 1956.
- 三枝 慶一郎 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第6報 道路上の喀痰より分離せる結核菌に関する研究 第1篇 結核菌の分離について 金大結研年報, 14, 321, 1956.

- 藤原 紫 朗 : 洗滌結核菌のクエン酸溶液中 Tuberculin 産生現象に関する研究 第8報 Citrate-Tuberculin からの Tuberculin 活性因子の分離試験 金大結研年報, 14, 325, 1956.
- 小林 喜 順, 村 沢 健 介, 高 野 徹 雄, 出 口 国 夫, 村 上 尚 正, 板 谷 勉,
直 江 寛 : 結核化学療法の臨床的研究 第24報 肺結核患者に対する Pyrazinamide と INAH と
の併用療法について 金大結研年報, 14, 339, 1956.
- 匠 勝 則 : 人工気腹療法の経験 結核診療, 10, 155, 1956.
- 清 水 隆 作 : 酵母核酸の銀塩に対する非イオン化能に就いて 第1報 薬学雑誌, 76, 158, 1956.
- 越 村 三 郎, 村 沢 健 介, 上 田 稔, 阪 東 芳 雄, 平 田 良 三 : 制癌に関する実
験的研究 第2報 吉田肉腫並びにエールリッヒ腹水癌に及ぼす 6-(2-Hydroxy-3,5-
dihalophnylazo)-4-hexyl-resorcinol 及び其の關聯物質の影響について 癌, 47, 393,
1956.
- 越 村 三 郎, 村 沢 健 介, 上 田 稔, 阪 東 芳 雄, 平 田 良 三, 太 田 孝 哉,
石 川 正 幸 : 制癌に関する実験的研究 第4報 Hydroxybenzylidene Phenoxazone-Quinone 誘導體
及び諸他物質の吉田肉腫細胞に対する影響性に就いての検索 癌, 47, 391, 1956.
- Noda, T. : Fundamental Studies on Chemotherapy of Tuberculosis Part 59. On the Catalase
Inhibiting Effect of o-Aminophenol and Its Derivatives Jap.J. Tuberc., 4, 11, 1956.
- Yoshimura, M. : Studies on the Influence of Nitrous Acid upon the Immunologic Properties of
Tubercle Bacilli Jap. J. Tuberc., 4, 145, 1956.
- Kigoshi, S. : On the Tuberculin Hypoglycemia in Tuberculous Guinea Pigs Jap. J. Tuberc., 4,
153, 1956.

1957

- 板 沢 伝 : 結核化学療法の基礎的研究 第64報 BCG 免疫の化学療法に及ぼす影響 第1篇
金大結研年報, 15, 1, 1957.
- 板 沢 伝 : 結核化学療法の基礎的研究 第64報 BCG 免疫の化学療法に及ぼす影響 第2篇
金大結研年報, 15, 17, 1957.
- 三 枝 慶一郎 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第6報 道路上の喀痰より分離せる結核菌に関する研究
第2篇 生物学的性状について 金大結研年報, 15, 37, 1957.
- 三 枝 慶一郎 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第6報 道路上の喀痰より分離せる結核菌に関する研究
第3篇 マウスに対する毒力に就て 金大結研年報, 15, 43, 1957.
- 三 枝 慶一郎 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第6報 道路上の喀痰より分離せる結核菌に関する研究
第4篇 抗結核剤による治療実験 金大結研年報, 15, 53, 1957.
- 三 枝 慶一郎 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第6報 道路上の喀痰より分離せる結核菌に関する研究
第5篇 薬剤耐性獲得並びに復帰に関する実験的研究 金大結研年報, 15, 63, 1957.
- 吉 田 啓 一, 三 枝 慶一郎, 英 軒 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第7報 薬剤耐性結
核菌のマウスに対する毒力に就て 金大結研年報, 15, 73, 1957.
- 小 林 博 : 感作血球の免疫学的研究 第3報 Old Tuberculin 感作血球の免疫原性に就て
(その3) 金大結研年報, 15, 79, 1957.
- 橋 本 直 子 : 結核免疫に関する研究 第7報 双生児を用いての研究 金大結研年報 15, 87, 1957.
- 清 水 嗣 郎, 石 田 昭 二, 浦 上 則 一, 向 坂 憲 一 : 洗滌結核菌のクエン酸溶液中
Tuberculin 産生現象に関する研究 第10報 洗滌結核菌の Citrate-Tuberculin 産生
能に及ぼす培養 Medium の影響に就ての検索 金大結研年報, 15, 111, 1957.
- 岡 本 肇 : 核酸による溶血性連鎖球菌の溶血毒増産現象の発見について 金大結研年報, 15, 119,
1957.
- 板 沢 伝 : 結核化学療法の基礎的研究 第65報 実験的結核海溟に対するイソニコチン酸ヒドラジ

- ツドの早期治療に就て 金大結研年報, 15, 127, 1957.
- 板 沢 伝 : 結核化学療法の基礎的研究 第66報 イソニコチン酸ヒドラジド療法に及ぼすオルトアミノフェノールアゾツベルクリンの影響 金大結研年報, 15, 139, 1957.
- 石 野 俊 和 : 結核化学療法の基礎的研究 第67報 組織培養による研究 第1篇 Old Tuberculin 及び o-Aminophenol Azo-Tuberculin の組織培養に及ぼす影響 金大結研年報, 15, 141, 1957.
- 石 野 俊 和 : 結核化学療法の基礎的研究 第67報 組織培養による研究 第2篇 抗結核剤の組織培養に及ぼす影響 (正常動物に就ての観察) 金大結研年報, 15, 149, 1957.
- 石 野 俊 和 : 結核化学療法の基礎的研究 第67報 組織培養による研究 第3篇 Old Tuberculin と抗結核剤, ベナ (田辺) 及びコルチゾン併用添加の組織培養に及ぼす影響 金大結研年報, 15, 157, 1957.
- 森 永 健 市 : 結核免疫に関する研究 第9報 ツベルクリン皮膚アレルギーと腸管過敏症に関する研究 金大結研年報, 15, 163, 1957.
- 向 坂 憲一郎, 浦 上 則 一, 木 越 茂, 細 川 孝 一 : 諸種細菌の Tuberculin の皮膚反応活性に対する影響についての検索 金大結研年報, 15, 177, 1957.
- 船 崎 嘉 一, 木 越 茂, 松 田 雅 夫, 沼 田 直 吉 : 2, 3薬物の結核菌のツベルクリン・アレルギー感作能に対する影響に就て 金大結研年報, 15, 181, 1957.
- 木 越 茂, 細 川 孝 一 : 洗滌結核菌のクエン酸溶液中 Tuberculin 産生現象に関する研究 第12報 Citrate-Tuberculin から分離された Tuberculin 蛋白の生物学的活性についての吟味 金大結研年報, 15, 187, 1957.
- 善 田 輝 美 : 結核免疫に関する研究 第10報 血清反応より見た家兎結核免疫方法の吟味 金大結研年報, 15, 191, 1957.
- 善 田 輝 美 : 結核免疫に関する研究 第11報 抗酸性菌水抽出成分の沈降反応抗原性に就いて 第1篇 抽出方法の検討 金大結研年報, 15, 193, 1957.
- 善 田 輝 美 : 結核免疫に関する研究 第11報 抗酸性菌水抽出成分の沈降反応抗原性に就いて 第2篇 沈降反応交叉試験 金大結研年報, 15, 199, 1957.
- 善 田 輝 美 : 結核免疫に関する研究 第11報 抗酸性菌水抽出成分の沈降反応抗原性に就いて 第3篇 水抽出成分中の多糖体並びに蛋白を以てする沈降反応の場に就いて 金大結研年報, 15, 205, 1957.
- 善 田 輝 美 : 結核免疫に関する研究 第12報 結核菌抽出液の血球感作能に就いて 金大結研年報, 15, 211, 1957.
- 大 溝 和 夫 : 結核免疫に関する研究 第13報 腹腔内細胞滲出に関する研究 金大結研年報, 15, 213, 1957.
- 大 溝 和 夫 : 結核免疫に関する研究 第14報 腹腔内滲細胞の喰菌現象に及ぼすツベルクリンの影響に就て 金大結研年報, 15, 223, 1957.
- 大 溝 和 夫 : 結核免疫に関する研究 第15報 ツベルクリン過敏性の他働的移行に関する研究 第1篇 腹腔内滲出細胞, 体組織細胞並びに血清を用いての実験 金大結研年報, 15, 227, 1957.
- 大 溝 和 夫 : 結核免疫に関する研究 第15報 ツベルクリン過敏性の他働的移行に関する研究 第2篇 ツベルクリン過敏性を他働的移行された動物に於ける各種抗体の検索 金大結研年報, 15, 239, 1957.
- 大 溝 和 夫 : 結核免疫に関する研究 第15報 ツベルクリン過敏性の他働的移行に関する研究 第3篇 卵白アルブミン感作海猿を用いての過敏性の他働的移行の交叉実験 金大結研年報, 15, 241, 1957.
- 西 田 昭 治 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第8報 結核菌の薬剤耐性化及び復元の機序に就て

- 金大結研年報, 15, 243, 1957.
- 船崎 嘉一, 細川 孝一, 松田 雅夫, 沼田 直吉 : 着色抗酸性菌石井株の Citrate-Tuberculin 産生に就いて 金大結研年報, 15, 251, 1957.
- 岡本 敬一 : 結核アレルギーの組織学的研究 第3報 諸種薬剤のツベルクリン反応に及ぼす影響 第1篇 旧ツベルクリンを以てする実験 金大結研年報, 15, 255, 1957.
- 梅崎 伸, 西田 昭治, 恆元 博 : o-Aminophenol Azo-Tuberculin とわが国において市販せらるる各種旧ツベルクリンとの力価比較試験 呼吸器診療, 12, 405, 1957.
- 三枝 慶一郎 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第7報 重複耐性結核菌米谷株をもってする実験 東京医事新誌, 74, 21, 1957.
- 清水 隆作 : Ag-RNA-Complex からの脱銀によるリボ核酸の再生について 第2報 薬学雑誌, 77, 677, 1957.
- 清水 隆作 : Ag-RNA-Complex を介する核酸の精製法について 第3報 薬学雑誌, 77, 561, 1957.
- 清水 隆作, 姫野 保徳, 貴志 源吾, 伊藤 佐 : 核酸による溶血性連鎖状球菌の溶血毒増産現象に関する研究 第17報 メチル酵母核酸の溶連菌の Streptolysin S 産出に及ぼす影響について 十全医学会雑誌, 59, 127, 1957.
- 越村 三郎, 平田 良三, 村沢 健介, 阪東 芳雄 : 金属キレート化合物生成能を具有するオキシアゾ誘導体の生物活性, 特に抗腫瘍性について 第10回 日本薬学大会記事, 1957.
- Hirata, R. : Experimental Anticancer Studies Part V. Bis (2'-hydroxy-3',5'-dibromo-phenylazo)-alkylphloroglucinols and Their Inhibitory Effect against Ehrlich Ascites Carcinoma in Mice Jap. J. Exp. Med., 27, 99, 1957.
- Ohta, T. : Experimental Anticancer Studies Part VI. Experiments on the Influence of Living A group Hemolytic Streptococci and Several Species of Microorganisms on the Invasion Power of Ehrlich Carcinoma to Mice Jap. J. Exp. Med., 27, 107, 1957.
- Shimizu, S. : Formation of Tuberculin by Washed Tubercle Bacilli in Citrate Solution Part IX. Comparative Study on Some Biological Properties of Streptomycin-Resistant and Streptomycin-Sensitive Cells of Various Strains of Mycobacterium Tuberculosis with Special Reference to Tuberculin Production Jap. J. Tuberc., 5, 35, 1957.
- Ishida, S. : Formation of Tuberculin by Washed Tubercle Bacilli in Citrate Solution Part XI. Study on the Physical and Chemical Properties of the Purified "Citrate Tuberculin" with Special Reference to its Biological Activity Jap. J. Tuberc., 5, 61, 1957.
- Mukoza, K. : Studies on the Influence of Nitrous Acid upon the Immunologic Properties of Tubercle Bacilli
Part 2. Comparative Study of the Vaccinating Properties of Nitrous Acid-killed BCG and Living BCG Vaccine in Guinea Pigs Jap. J. Tuberc., 5, 101, 1956.

1958

- 森永 健市, 柳 碩也 : 結核免疫に関する研究 第9報 ツベルクリン皮膚アレルギーと腸管過敏症に関する研究 第2篇 結核死菌感作モルモットの o-Aminophenol Azo-Tuberculin による脱感作について 金大結研年報, 16, 1, 1958.
- 宮森 正孝 : 結核免疫に関する研究 第16報 結核菌菌体蠟質の免疫学的性状に関する研究 第1篇 結核菌菌体蠟質の毒性および反応原性について 金大結研年報, 16, 11, 1958.
- 宮森 正孝 : 結核免疫に関する研究 第16報 結核菌菌体蠟質の免疫学的性状に関する研究 第2篇 抗体産生能およびツベルクリン・アレルギー賦与能について (ウサギを用いての実験)

- 金大結研年報, 16, 17, 1958.
- 宮 森 正 孝 : 結核免疫に関する研究 第16報 結核菌菌体蠟質の免疫学的性状に関する研究 第3篇 感染防禦能およびツベルクリン・アレルギー賦与能について (モルモットを用いての実験) 金大結研年報, 16, 23, 1958.
- 宮 森 正 孝, 森 永 健 市 : 結核免疫に関する研究 第16報 結核菌菌体蠟質の免疫学的性状に関する研究 第4篇 蠟脂質感作モルモットにおける Römer 反応, Middlebrook-Dubos 反応および Schultz-Dale 反応について 金大結研年報, 16, 27, 1958.
- 登 谷 栄 作 : OT感作血球の免疫学的研究 第5報 Old Tuberculin 中の感作能因子について (その1) 金大結研年報, 16, 31, 1958.
- 西 東 利 男, 小 西 健 一, 長 森 敏 正, 不 室 徳 治, 登 谷 栄 作 : OT 感作血球の免疫学的研究 第6報 Middlebrook-Dubos 反応の基礎的条件に関する研究 第1篇 感作原としてのOTの検討 金大結研年報, 16, 43, 1958.
- 西 東 利 男, 小 西 健 一, 長 森 敏 正, 不 室 徳 治, 登 谷 栄 作 : OT 感作血球の免疫学的研究 第6報 Middlebrook-Dubos 反応の基礎的条件に関する研究 第2篇 反応に及ぼす OT, 免疫血清および血球の保存の影響 金大結研年報, 16, 51, 1958.
- 西 東 利 男, 小 西 健 一, 長 森 敏 正, 登 谷 栄 作, 曾 我 恒 夫 : OT 感作血球の免疫学的研究 第6報 Middlebrook-Dubos 反応の基礎的条件に関する研究 第3篇 OT による血球感作ならびに OT 感作血球の反応性に及ぼす正常血清の影響 金大結研年報, 16, 55, 1958.
- 西 東 利 男, 小 西 健 一, 橋 本 宏, 高 橋 芳 雄 : OT 感作血球の免疫学的研究 第7報 各種消化酵素処置 OT の血球感作能について 金大結研年報, 16, 59, 1958.
- 西 東 利 男, 小 西 健 一, 長 森 敏 正, 宝 達 秀 哉, 舛 谷 宏 雄 : OT 感作血球の免疫学的研究 第8報 OT 感作血球の免疫原性に及ぼす Trypsin 処置の影響について 金大結研年報, 16, 63, 1958.
- 西 東 利 男, 小 西 健 一, 森 永 健 市 : OT 感作血球の免疫学的研究 第9報 OT 感作血球免疫モルモットにおける Middlebrook-Dubos 反応, Römer 反応および Schultz-Dale 反応について 金大結研年報, 16, 67, 1958.
- 大 溝 和 夫, 橋 本 宏, 高 橋 芳 雄 : ツベルクリンによる白血球溶解現象に関する研究 第1篇 ツベルクリンによる白血球溶解現象に関する基礎的研究 金大結研年報, 16, 71, 1958.
- 大 溝 和 夫, 橋 本 宏, 高 橋 芳 雄 : ツベルクリンによる白血球溶解現象に関する研究 第2篇 溶解機構の検討 金大結研年報, 16, 79, 1958.
- 石 野 俊 和 : 免疫とアレルギーの基礎的研究補遺 組織培養による卵白アルブミン感作の検討 金大結研年報, 16, 89, 1958.
- 石 野 俊 和, 荒 井 正 宏, 柳 下 鞆 男, 毛 利 正 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第9報 薬剤耐性結核菌感染マウスの治療実験 金大結研年報, 16, 95, 1958.
- 岡 本 敬 一 : 結核アレルギーの組織学的研究 第3報 諸種薬剤のツベルクリン反応に及ぼす影響 第2篇 o-Aminophenol Azo-Tuberculin "Human" をもつてする実験 金大結研年報, 16, 101, 1958.
- 岡 本 敬 一 : 結核アレルギーの組織学的研究 第3報 諸種薬剤のツベルクリン反応に及ぼす影響 第3篇 毛細血管透過性に及ぼす影響 金大結研年報, 16, 109, 1958.
- 細 井 稔, 神 戸 川 明 : Paper chromatography 法による牛及び鯨副腎抽出物の Corticoid の分離定量実験 金大結研年報, 16, 121, 1958.
- 細 井 稔, 神 戸 川 明 : Steroid Alcohol の測定に就いて 金大結研年報, 16, 135, 1958.

- 細井 稔 : 尿及び血清中 Estrogen の微量蛍光定量法 金大結研年報, 16, 145, 1958.
- 毛利 正 : 結核化学療法の基礎的研究 第68報 結核マウスを用いての研究 第1篇 結核マウスに対する各種抗結核剤単独療法の効果について 金大結研年報, 16, 163, 1958.
- 高橋 芳雄 : 結核免疫に関する研究 第17報 OT 感作血球免疫ウサギにおける既往性血清反応について 金大結研年報, 16, 181, 1958.
- 登谷 栄作 : OT 感作血球の免疫学的研究 第5報 OT 中の感作能因子について (その2) 金大結研年報, 16, 195, 1958.
- 西田 昭治 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第8報 結核菌の薬剤耐性化および復元の機序について 第2篇 Myco. 607 および Myco. phlei を用いての実験 金大結研年報, 16, 203, 1958.
- 西田 昭治 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第8報 結核菌の薬剤耐性化および復元の機序について 第2篇 Myco. 607 および Myco. phlei を用いての実験補足 金大結研年報, 16, 209, 1958.
- 寺崎 隆 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第10報 結核菌の二重耐性に関する研究 第1篇 SM 耐性菌および INAH 耐性菌の二重耐性獲得について 金大結研年報, 16, 215, 1958.
- 寺崎 隆 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第10報 結核菌の二重耐性に関する研究 第2篇 二重耐性菌のマウスに対する毒力について 金大結研年報, 16, 223, 1958.
- 曾我 恒夫 : ツベルクリン様物質を産生する桿菌について 金大結研年報, 16, 231, 1958.
- 曾我 恒夫, 荒井 正宏, 西村 博 頭, 政岡 滋 実 : 街路上喀痰より分離した抗酸性菌について 金大結研年報, 16, 249, 1958.
- 岡本 敬一 : ツベルクリン反応の組織学的研究 第3報 諸種薬剤のツベルクリン反応に及ぼす影響 第4篇 コーチゾン投与の影響 金大結研年報, 16, 259, 1958.
- 村上 尚正 : 肺循環障碍の肺結核病巣に及ぼす影響に関する研究 第1篇 犬の実験的結核性空洞の作成 金大結研年報, 16, 271, 1958.
- 板谷 勉 : 肺結核切除病巣とその所属気管支の病理組織学的所見 金大結研年報, 16, 297, 1958.
- ト部 美代志, 村沢 健介, 高野 徹雄, 出口 国夫, 村上 尚正, 板谷 勉, 直江 寛, 高田 英之 : 切除肺結核病巣の組織化学的研究 第1報 金大結研年報, 16, 339, 1958.
- ト部 美代志, 村沢 健介, 高野 徹雄, 出口 国夫, 村上 尚正, 板谷 勉, 直江 寛, 高田 英之 : Open Negative Syndrome を呈する症例群の研究 金大結研年報, 16, 353, 1958.
- 西野 静雄 : 結核化学療法剤の臓器組織呼吸に及ぼす影響 第3報 健常マウス, 結核感染マウスおよび pyrazinamide 治療感染マウスの摘出臓器組織呼吸に及ぼす pyrazinamide の影響 金大結研年報, 16, 379, 1958.
- 政岡 滋 実 : 結核免疫に関する研究 第18報 結核症血清の電気泳動学的研究 第1篇 肺結核患者についての観察 金大結研年報, 16, 387, 1958.
- 政岡 滋 実 : 結核免疫に関する研究 第18報 結核症血清の電気泳動学的研究 第2篇 結核免疫ウサギ血清についての観察 金大結研年報, 16, 401, 1958.
- 橋本 宏 : 卵白アルブミン免疫における既往性血清反応に関する研究 金大結研年報, 16, 411, 1958.
- 寺崎 隆 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第10報 結核菌の二重耐性に関する研究 第3篇 二重耐性菌のツベルクリン産生能について 金大結研年報, 16, 429, 1958.
- 寺崎 隆, 政岡 滋 実 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第11報 P₃₂ 持続照射によるトリ型結核菌の SM および INAH 感受性の変動について 金大結研年報, 16, 439, 1958.
- ト部 美代志, 直江 寛 : 細胞の超微細構造 金大結研年報, 16, 449, 1958.

- 高田 英之, 村上 尚正, 板谷 勉 : 肺結核に対する肺切除前後の心電図変化
金大結研年報, 16, 459, 1958.
- 板谷 勉, 村上 尚正, 直江 寛, 高田 英之 : 肺結核治療面よりみた気管支結核の意義 金大結研年報, 16, 471, 1958.
- 村上 尚正, 板谷 勉, 高田 英之 : 肺切除における Naphthionin の応用
金大結研年報, 16, 479, 1958.
- 細川 孝一 : 結核菌の抗 Streptolysin S 作用について 金大結研年報, 16, 488, 1958.
- 松田 雅夫 : Streptolysin S 感受性に及ぼすタンニン酸の影響について 金大結研年報, 16, 499, 1958.
- 柿下 正道, 杉林 篤之, 上田 稔, 西村 博頭, 横井 健 : アクロマイシン V による A 型パラチフス症の治験 アクロマイシン V 臨床文献, 4, 4, 1958.
- 吉田 啓一, 岡本 敬一, 山本 純夫, 中瀬 真一 : BCG 接種とツベルクリン
日本医師会雑誌, 36, 394, 1958.
- 清水 隆作, 杉山 篤弘, 杉山 富彦, 西部 行雄 : 酵母核酸と精製 Streptolysin S とのクロマトグラフィーによる比較検討 十全医学会雑誌, 60, 1437, 1958.
- 榎崎 哲夫 : 制癌に関する実験的研究 第7報 試験管内浸漬——マウス移植法による 6-(2'-Hydroxy-3',5'-dibromophenylazo)-4-hexylresorcinol 系諸種誘導体並びに各種抗瘍性物質の Ehrlich 癌細胞に対する影響についての検討 十全医学会雑誌, 60, 1521, 1958.
- 越村 三郎, 平田 良三, 清水 隆作, 阪東 芳雄 : 制癌に関する実験的研究 続報 2,2'-Dihydroxyazobenzene 系諸誘導体の抗腫瘍性について Chemotherapy, 6, 321, 1958.
- 越村 三郎, 清水 隆作, 阪東 芳雄, 平田 良三, 正印 達 : 諸種 Dihydroxyazobenzene 系諸誘導体の静菌状態溶連菌による Streptolysin-S 産生に及ぼす影響について 第11回 日本薬学大会記事, 1958.
- Murasawa, K. and Altman, V. : Primary Lung Cancer and Pulmonary Tuberculosis
Sea View Hospital Bulletin, 17, 37, 1958.
- Uragami, N. : On the Tuberculin-Inactivating Effect of Bromine Jap. J. Tuberc., 6, 1, 1958.
- Saito, T., Konishi, K., Matsuda, T., Masuya, H. and Hodatsu, H. : Use of Cr⁵¹-labeling Method for Immunological Studies Part 1. Difference in the Post-injection Survival of the Recipient's Own Cr⁵¹-labeled OT-sensitized Red Cells between Normal and Immunized Rabbits Jap. J. Tuberc., 6, 47, 1958.
- Funasaki, Y. : Fundamental Studies in Chemotherapy of Tuberculosis Part 68. On the Drug-Susceptibility of a Chromogenic Acid-Fast Bacillus from Human Source with Special Reference to the Effect of o-Aminophenol and its Derivatives Jap. J. Tuberc., 6, 51, 1958.
- Okamoto, H., Koshimura, S., Hirata, R., Murasawa, K., Bando, Y. and Shimizu, R. : Some Data in Anti-Cancer Experiments Z. Krebsforschung, 62, 408, 1958.

1959

- 西野 静雄 : 結核化学療法剤の臓器組織呼吸に及ぼす影響 第4報 Pyrazinamide (PZA) と Isonicotinic acid hydrazide (INH) の併用療法の結核感染マウス臓器呼吸に及ぼす影響
金大結研年報, 17, 1, 1959.
- 今井 利平 : 抗結核剤とツベルクリンの併用療法に関する実験的研究 第1報 PAS, o-Aminophenol および SM と OT あるいは o-Aminophenol Azo-Tuberculin との併用療法
金大結研年報, 17, 11, 1959.

- 山本純夫：結核免疫に関する研究 第19報 結核菌菌体浸出液の免疫学的研究 第1編 浸出条件と抗原性の関係 金大結研年報, 17, 37, 1959.
- 山本純夫：結核免疫に関する研究 第19報 結核菌菌体浸出液の免疫学的研究 第2編 菌体蒸留水浸出液の免疫原性について 金大結研年報, 17, 47, 1959.
- 宝達秀哉：OT感作血球の免疫学的研究 第12報 OT感作血球免疫における細網内皮系の意義 第1編 細網内皮系に加えた種々の前処置の抗体産生に対する影響 金大結研年報, 17, 55, 1959.
- 宝達秀哉：OT感作血球の免疫学的研究 第12報 OT感作血球免疫における細網内皮系の意義 第2編 細網内皮系に加えた種々の前処置と OT感作血球の臓器内分布との関連性について 金大結研年報, 17, 65, 1959.
- 舛谷宏雄：OT感作血球の免疫学的研究 第13報 ^{51}Cr 標識法を用いての研究 金大結研年報, 17, 79, 1959.
- 西東利男, 舛谷宏雄：OT感作血球の免疫学的研究 第14報 抗体産生機構に関する研究 (その1) 金大結研年報, 17, 93, 1959.
- 池田秀夫：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第21報 注射部位による反応差について 金大結研年報, 17, 101, 1959.
- 池田秀夫：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第22報 地帯現象 (zone phenomenon) について 金大結研年報, 17, 107, 1959.
- 池田秀夫：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第23報 BCG 接種者に対する o-Aminophenol Azo-Tuberculin "Human" と o-Aminophenol Azo-Tuberculin "BCG" の皮膚反応じやく起力の比較 金大結研年報, 17, 131, 1959.
- 池田秀夫：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第24報 BCG 増量初回接種後の局所変化ならびにツベルクリンアレルギーについて 金大結研年報, 17, 135, 1959.
- 大山馨, 古本節夫, 毛利正：o-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究 第25報 集団を異にした場合のツベルクリン反応のでかたの相違について——特に BCG 接種者について——金大結研年報, 17, 147, 1959.
- 村上康正：細菌の薬剤耐性に関する研究 第12報 腸内細菌を用いての実験 第1編 薬剤の管内抗菌作用について 金大結研年報, 17, 151, 1959.
- 村上康正：細菌の薬剤耐性に関する研究 第12報 腸内細菌を用いての実験 第2編 腸内細菌に対する各種薬剤の併用効果に関する研究 その1 菌発育阻止力に及ぼす併用効果について 金大結研年報, 17, 163, 1959.
- 村上康正：細菌の薬剤耐性に関する研究 第12報 腸内細菌を用いての実験 第2編 腸内細菌に対する各種薬剤の併用効果に関する研究 その2 細菌の薬剤耐性化に及ぼす併用効果について 金大結研年報, 17, 175, 1959.
- 西野静雄：SM 耐性菌, SM 依存ならびに SM-enhanced 菌より作製せる Old Tuberculin の皮膚反応じやく起力について 金大結研年報, 17, 191, 1959.
- 西野静雄, 高岡裕：結核感染マウスの臓器組織呼吸に及ぼすツベルクリンの影響 金大結研年報, 17, 201, 1959.
- 荒井正宏：結核アレルギーの組織学的研究 第4報 Old Tuberculin, o-Aminophenol Azo-Tuberculin "Human" および o-Aminophenol Azo-Tuberculin "BCG" 皮内反応の組織学的比較研究 金大結研年報, 17, 207, 1959.
- 荒井正宏：結核アレルギーの組織学的研究 第5報 ツベルクリン反応と Arthus 現象の組織化学的比較研究 金大結研年報, 17, 221, 1959.
- 不室徳治：OT感作血球の免疫学的研究 第10報 血球のタンニン酸前処理の意義 金大結研年報,

- 17, 227, 1959.
- 松井敏夫：OT感作血球の免疫学的研究 第11報 チフス菌加熱浸出液の免疫原性と感作能因子に関する検討 金大結研年報, 17, 247, 1959.
- 魚住清, 宮本乙男, 村上徳雄：着色抗酸菌石井株の o-Aminophenol Azo-Tuberculin について 金大結研年報, 17, 267, 1959.
- 中瀬真一：細菌の薬剤耐性に関する研究 第13報 結核菌の INAH 耐性化に関する一考察 第1編 トリ型結核菌竹尾株の INAH の分解作用について 金大結研年報, 17, 271, 1959.
- 古本節夫：結核アレルギーの組織学的研究 第6報 Tuberculin の健常ならびに結核臓器に及ぼす影響 第1編 Old Tuberculin を用いての実験 金大結研年報, 17, 279, 1959.
- 古本節夫：結核アレルギーの組織学的研究 第6報 Tuberculin の健常ならびに結核臓器に及ぼす影響 第2編 o-Aminophenol Azo-Tuberculin を用いての実験 金大結研年報, 17, 289, 1959.
- 村上尚正：肺循環障碍の肺結核病巣に及ぼす影響に関する研究 第2報 肺動静脈結紮切断後の肺及び肺結核病巣に及ぼす影響 金大結研年報, 17, 301, 1959.
- 高田英之：肺結核病巣の組織化学的研究 第2報 非感作動物実験結核病巣の組織化学的研究 金大結研年報, 17, 327, 1959.
- 西村博頭：結核化学療法の基礎的研究 第69報 INAH およびその誘導体を用いての発病阻止効果について 第1編 金大結研年報, 17, 373, 1959.
- 山本純夫：結核免疫に関する研究 第19報 結核菌菌体浸出液の免疫学的研究 第3編 肺結核患者喀痰より分離せる菌株の浸出液について 金大結研年報, 17, 385, 1959.
- 長森敏正：OT感作血球の免疫的研究 第15報 薬剤耐性菌 OTについての検討(その1) 単独耐性菌OTについて 金大結研年報, 17, 391, 1959.
- 長森敏正：OT感作血球の免疫的研究 第15報 薬剤耐性菌 OT についての検討(その2) 二重耐性菌 OTについて 金大結研年報, 17, 401, 1959.
- 小西健一, 横井健, 長森敏正：OT感作血球の免疫学的研究 第15報 薬剤耐性菌 OTについての検討(その3) 臨床的実験 金大結研年報, 17, 411, 1959.
- 宮元秀雄：抗酸性菌培養液の各種細菌の発育に及ぼす影響に関する研究 第1編 各種抗酸菌培養液の細菌発育に及ぼす影響について 金大結研年報, 17, 417, 1959.
- 木越茂, 青木康三, 川尻清：結核感染モルモットの肝 Glycogen 含量について 金大結研年報, 17, 427, 1959.
- 高田英之：肺結核病巣の組織化学的研究 第3報 BCG感作動物の実験結核病巣の組織化学的研究 金大結研年報, 17, 431, 1959.
- 村沢健介, 高野徹雄, 出口国夫, 村上尚正, 板谷勉, 直江寛, 高田英之, 中野祥二：肺動脈を結紮した結核性残存病巣を有する1例について 金大結研年報, 17, 473, 1959.
- 岡本雅夫：タンニン酸処置赤血球の Streptolysin S 感受性に関する知見補遺 金大結研年報, 17, 481, 1959.
- 川尻清, 岡野務, 佐々木恵一：赤血球の Streptolysin S 感受性及ぼす諸種酵素の影響について 金大結研年報, 17, 489, 1959.
- 青木康三：タンニン酸処置赤血球の Streptolysin S 感受性に及ぼす蛋白質の影響について 金大結研年報, 17, 493, 1959.
- 石川太刀雄, 岩倉衛, 白崎重雄：ヒト血漿製剤の抗原抗体反応による分析 第1報 Plasmanate を中心として 金大結研年報, 17, 501, 1959.
- 宮地民子：制癌に関する実験的研究 第9報 異処の投与方法による Bis(hydroxy-3-5-dibromophe-

- nylazo)-n-propylphloroglucinol [Azo-106] の抗腫瘍性の検討 十全医学会雑誌, 63, 278, 1959.
- 宮地民子, 桐田俊雄, 大月博司, 角野光司: 制癌に関する実験的研究 第11報 溶連菌の抗エールリッヒ癌性に及ぼす温熱的処理の影響について考査 十全会雑誌, 63, 286, 1959.
- 宮地民子: 核酸による溶血性連鎖状球菌の溶血毒増産現象に関する研究 第18報 溶連菌の Streptolysin-S 産生能に対する温熱, 紫外線並びに菌体破碎の影響について 十全医学会雑誌, 63, 291, 1959.
- 林 鋭雄: 制癌に関する実験的研究——溶連菌生菌体の吉田肉腫, サルコーマ 180 並びに白血病 SN 36 細胞の移侵變性に及ぼす影響について 第18回 日本癌学会記事
- 平田良三, 阪東芳雄, 正印 達, 清水隆作, 越村三郎: 制癌に関する実験的研究 続報 5-(2'-Hydroxy-3'-5'-dibromophenylazo)-2-iso-butyl-imidazole の抗腫瘍性 第12回 日本薬学大会記事, 1959.
- Shoin, S. : Experimental Anticancer Studies Part 10. On the Effect of Avirulent-Mutant Strain of Streptococcus Hemolyticus upon Invasion Power of Ehrlich Ascites Carcinoma in Mice Jap. J. Exp. Med., 29, 529, 1959.
- Koshimura, S., Murasawa, K., Hirata, R. and Bando, Y. : Further Experiments on the Carcinostatic Action of Bis(2'-hydroxy-3',5'-dibromophenylazo)-propylphloroglucinol ACTA(U. I. C. C.), 15, 154, 1959.
- Murasawa, K. and Altman, V. : A Survey of 57 Autopsies Performed During the Ten-Year Period 1948 1957 Sea View Hospital Bulletin, 17, 117, 1959.
- Ito, R. and Hosokawa, K. : Inhibition of Streptolysin-S by Tubercle Bacilli Jap. J. Tuberc., 7, 1, 1959.
- Yoshimura, M. : Further Observation on the Immunogenic Properties of Nitrous Acid-killed Tubercle Bacilli Jap. J. Tuberc., 7, 117, 1959.
- 杉林篤之, 上田 稔, 西村博 顕, 横井 健, 小西健一, 寺崎隆: A型パラチフス症の一流行における細菌学的検査成績 日本細菌学会雑誌. 14, 561, 1959.

1960

- 毛利 正: 結核化学療法の基礎的研究 第68報 結核マウスを用いての実験 第2編 結核マウスに対する SMとPAS または OMとの併用治療の効果について 金大結研年報, 18, 1, 1960.
- 西村博 顕: 結核化学療法の基礎的研究 第69報 INAH 及びその誘導体を用いての発病阻止効果について 第2編 金大結研年報, 18, 9, 1960.
- 山本純夫: 結核免疫に関する研究 第19報 結核菌々体浸出液の免疫学的研究 第4編 BCG 浸出液について 金大結研年報, 18, 19, 1960.
- 中口 彰: 結核免疫に関する研究 第20報 結核免疫ならびにツベルクリン過敏性の他動的移行に関する研究 金大結研年報, 18, 27, 1960.
- 村上康正, 高岡 裕, 中口 彰, 古本節夫: 細菌の薬剤耐性に関する研究 第13報 結核菌に対する Isonicotinic acid hydrazide またはその誘導体と Pyrazinamide の併用効果に関する研究 金大結研年報, 18, 39, 1960.
- 宮元秀雄: 抗酸性菌培養ろ液の各種細菌の発育に及ぼす影響に関する研究 第2編 結核菌培養ろ液中の細菌に対する発育増強因子について 金大結研年報, 18, 55, 1960.
- 稲葉 隆: 結核アレルギーの組織学的研究 第7報 ツベルクリン分画による皮内反応の組織学的

- 研究 第1編 ヒト型結核菌感作ウサギにおける実験 金大結研年報, 18, 73, 1960.
- 大滝 武雄 : o-Aminophenol に対するD-glucuronolactone ならびに Sodium D-glucuronate の解毒効果について 金大結研年報, 18, 85, 1960.
- 川尻 清 : 赤血球の Streptolysin S 感受性に対する諸種物質 (特にタンニン酸構成物質及び蛋白質試薬) の影響についての検索 金大結研年報, 18, 89, 1960.
- Tachio ISHIKAWA : Viscero-Cutaneo-Vascular Reflex and its Clinical Significances (英文) 金大結研年報, 18 (別), 1960.
- 毛利 正 : 結核化学療法の基礎的研究 第68報 結核マウスを用いての研究 第3編 結核マウスに対する INAH を中心とした治療実験 金大結研年報, 18, 99, 1960.
- 中口 彰 : 結核免疫に関する研究 第6報 脱感作機構に関する実験的研究 その4 BCG 生菌ならびに BCG 加熱死菌流動パラフィンワクチン接種モルモットの脱感作について 金大結研年報, 18, 109, 1960.
- 山本 純夫 : 結核免疫に関する研究 第19報 結核菌々体浸出液の免疫学的研究 第5編 浸出液の学童における皮膚反応原性について 金大結研年報, 18, 131, 1960.
- 奥村 日貞太 : 結核免疫に関する研究 第22報 脱感作の臓器組織呼吸に及ぼす影響に関する研究 第1編 Old Tuberculin による脱感作実験 金大結研年報, 18, 139, 1960.
- 稲葉 隆 : 結核アレルギーの組織学的研究 第7報 ツベルクリン分画による皮内反応の組織学的研究 第2編 BCG 感作ウサギにおける実験 金大結研年報, 18, 153, 1960.
- 坂本 岩一 : 実験的結核症の細胞学的研究 第1編 半乾燥状態ならびに菌浮遊液の BCG 生菌の極微量皮下接種による特に初期の細胞反応について 金大結研年報, 18, 163, 1960.
- 坂本 岩一 : 実験的結核症の細胞学的研究 第2編 人型結核菌 H₃₇Rv 生菌の極微量接種による細胞反応 金大結研年報, 18, 175, 1960.
- 高田 英之, 上原 時雄, 中野 祥二, 斉藤 正広, 梶村 平 : 中葉症候群の1例 金大結研年報, 18, 185, 1960.
- 高岡 裕 : 結核免疫に関する研究 第20報 結核臓器の組織呼吸に及ぼすツベルクリン分画の影響 金大結研年報, 18, 201, 1960.
- 柳下 鞆男 : 結核免疫に関する研究 第21報 Adjuvant 添加の意義について 金大結研年報, 18, 209, 1960.
- 奥村 日貞太 : 結核免疫に関する研究 第22報 脱感作の臓器組織呼吸に及ぼす影響に関する研究 第2編 o-Aminophenol Azo-Tuberculin による脱感作実験 金大結研年報, 18, 223, 1960.
- 恒元 博 : OT 感作血球の免疫学的研究 第18報 OT感作血球の感染防禦力賦与能について 金大結研年報, 18, 231, 1960.
- 中瀬 真一 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第13報 結核菌の INAH 耐性に関する一考察 第2編 各種トリ型結核菌の INAH 分解作用および薬剤の影響について 金大結研年報, 18, 239, 1960.
- 中瀬 真一 : 細菌の薬剤耐性に関する研究 第13報 結核菌の INAH 耐性に関する一考察 第3編 ヒト型結核菌の INAH 分解作用について 金大結研年報, 18, 247, 1960.
- 上田 稔, 横井 健, 中瀬 真一, 稲葉 隆 : 肺結核患者喀痰より Candida 属の分離成績について 金大結研年報, 18, 251, 1960.
- 坂本 岩一 : 実験的結核症の細胞学的研究 第3編 半乾燥状態の BCG 菌並びに H₃₇Rv 菌の死菌の極微量皮下接種による細胞反応について 金大結研年報, 18, 257, 1960.
- 坂本 岩一 : 実験的結核症の細胞学的研究 第4編 小型単核細胞・類上皮細胞・巨細胞の細胞学的検索 金大結研年報, 18, 269, 1960.
- 藤木 宏 : ウサギの実験的肺結核の研究ことに肺の一次病巣と二次病巣の関係並びにこれに関連

する血管の病変について 金大結研年報, 18, 283, 1960.

- 小西健一, 伊藤祐裕: *o*-Aminophenol Azo-Tuberculin に関する研究—BCG 接種後の皮膚反応の推移 十全医学会雑誌, 65, 503, 1960.
- 吉村政弘: 亜硝酸処理結核死菌ワクチンに関する研究 続報 ワクチン調整上の諸因子についての吟味 第33回 日本薬理学会記事, 1960.
- Koshimura, S., Shimizu, R., Bando, Y., Hirata, R. and Shoin, S.: Experimental Anticancer Studies Part 12. On the Destructive Effect of Living Hemolytic Streptococci on Solid Tumour of Ehrlich Carcinoma in Mice Jap. J. Microb., 4, 19, 1960.
- Koshimura, S. and Shoin, S.: Experimental Anticancer Studies Part 13. On the Streptolysin-S-synthesizing and Anticancer Activities of Cell-free Extract from Living Hemolytic Streptococci Gann, 51, 309, 1960.
- Koshimura, S. Hirata, R. and Shoin, S.: On the Streptolysin-S Forming and Anticancer Activities of Cell-free Extracts from Living Hemolytic Streptococci, Symposium on Cancer Chemotherapy; Unio International Contra Caacurum, Tokyo, 1960.
- Ito, R., Matsuda, M. and Aoki, K.: Studies on Effect of Tannic Acid on Streptolysin-S Susceptibility of Erythrocytes Jap. J. Pharmacol., 9, 169, 1960.

1961

- 西東利男, 小西健一, 松井敏夫, 稲葉隆, 奥村日貞太: OT 感作血球の免疫学的研究 第17報 肺結核患者血球の抗 OT 血清による被凝集性について 金大結研年報, 19, 1, 1960.
- 吉村政弘, 後藤進, 三神文彦, 岡野務: 結核菌の免疫学的性状に及ぼす亜硝酸の影響について 第3報 亜硝酸殺菌結核菌の免疫効力に対する菌培養日数の影響についての検討 金大結研年報, 19, 9, 1961.
- 吉村政弘, 青木康三, 宮本乙男, 佐々恵一: 結核菌の免疫学的性状に及ぼす亜硝酸の影響について 第4報 諸株結核菌の亜硝酸殺菌ワクチンの免疫効力比較実験 金大結研年報, 19, 13, 1961.
- 小西健一, 山本純夫, 稲葉隆, 柳下鞞男, 奥村日貞太: 結核予防法の基準治療と結核菌の薬剤耐性化に関する統計的観察 金大結研年報, 19, 19, 1961.
- ト部美代志, 直江寛: 実験的肺水腫の電子顕微鏡的所見 金大結研年報, 19, 25, 1961.
- 村上尚正, 上原時雄: 実験的急性肺水腫における血清蛋白及び血漿膠滲圧の変化についての研究 金大結研年報, 19, 31, 1961.
- 高野徹雄: 術後急性肺水腫の臨床的観察 金大結研年報, 19, 41, 1961.
- 柿下正道, 高野徹雄, 加能秀雄, 村上康正, 守成一: 石川県教職員結核管理の概況について 金大結研年報, 19, 57, 1961.
- 沼田直吉: Gelatin の化学構造とそのタンニン酸処置赤血球の Streptolysin S 感受性復活作用との関係について 金大結研年報, 19, 61, 1961.
- 秋山万里子, 後藤進, 上野良雄: ゼラチンのタンニン酸処置赤血球の Streptolysin S 感受性復活作用に関する知見補遺 金大結研年報, 19, 69, 1961.
- 大滝武雄: オルト・アミノフェノールの生体内運命について 第3報 オルト・アミノフェノール投与家兔尿におけるオルト・アミノフェノール抱合体について 薬学雑誌, 81, 53, 1961.
- 大滝武雄: オルト・アミノフェノールの生体内運命について 第4報 オルト・アミノフェノールの投与量と抱合硫酸およびO-グルクロナイド型グルクロン酸の尿中排出量との関係 薬学雑誌, 81, 139, 1961.
- Shoin, S.: Experimental Anticancer Studies Part 14. Anticancer Experiments with Streptococcus Hemolyticus in Immunized Animals. Jap. J. Pharmacol., 10, 119, 1961.